

厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）

総合研究報告書

肝がん・重度肝硬変の治療に係るガイドラインの作成等に資する研究

研究代表者 小池 和彦

令和 5（2023）年 5 月

目次

総合研究報告書	1
総合研究報告書（分担研究）	3
泉 並木 武蔵野赤十字病院 院長	
考藤達哉 国立国際医療研究センター 肝炎・免疫研究センター 研究センター長	
工藤 正俊 近畿大学医学部 消化器内科 主任教授	
久保正二 大阪市立大学大学院医学研究科肝胆膵外科学 准教授	
宮田 裕章 慶應義塾大学医学部 医療政策・管理学教室 教授	
長谷川 潔 東京大学医学部附属病院 肝胆膵外科・人工臓器移植外科 教授	
江口 有一郎 佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター 客員研究員	
吉治 仁志 奈良県立医科大学 消化器内科学教授	
國土 典宏 国立国際医療研究センター 理事長	
研究成果の刊行に関する一覧表	26

厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）

総合研究報告書

肝がん・重度肝硬変の治療に係るガイドラインの作成等に資する研究

小池 和彦 東京大学医学部附属病院消化器内科 病院診療医（出向）・名誉教授
（分担研究者）

建石 良介 東京大学医学部附属病院消化器内科 准教授
（研究協力者）

中塚 拓馬 東京大学医学部附属病院消化器内科 助教

奥新 和也 東京大学医学部附属病院感染制御部 特任講師（病院）

和気 泰次郎 東京大学大学院医学系研究科消化器内科 特任臨床医

(1) National Clinical Database(NCD)のプラットフォーム上に肝癌・非代償性肝硬変患者レジストリを構築し、2019年1月より患者登録を開始した。2023年1月末までに累計初回治療情報34,709人、入院情報65,707件分の臨床情報を収集した。肝癌・肝硬変の初発および再発時の治療内容の変遷についての解析を行った。(2)肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業に登録したウイルス性肝炎を背景に持つ肝癌・非代償性肝硬変患者の臨床調査個人票のデータを収集し、解析した。(3)クラウドを基盤としたガイドライン支援システムを開発し、日本肝臓学会肝癌診療ガイドライン2021年版作成に用い、上梓した。

A 研究目的

(1)NCDのプラットフォーム上に肝癌・非代償性肝硬変患者レジストリを構築し、頻回入院が必要になる肝癌・非代償性肝硬変症例データを収集する。登録施設に対して、症例登録にともなうインセンティブを支払う。(2)肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業で収集された臨床個人票を収集し分析する。(3)登録されたデータを解析し、新たなエビデンスを構築することによって、肝がん・重度肝硬変のガイドラインを改良(改訂)する。

B 研究方法

(1) NCD のプラットフォーム上に構築した肝癌・非代償性肝硬変患者レジストリを用いて、同参加施設に対して、登録を依頼した。2023年1月に一旦登録サイトを閉じ、解析を行った。
(2)各都道府県から厚労省経由で送付される、臨床調査個人票をデータベースに入力し、基本統計について解析を行った。
(3)Amazon Web Service 上にデータベースを構築し、肝癌診療ガイドライン改訂作業に必要な文献管理、Clinical Question (CQ)管理、文献1次・2次選択、不一致統合などの機能を備えたシステムを構築した。

（倫理面への配慮）本研究は、東京大学医学部倫理委員会の承認の下に行われた(承認番号

C 研究結果

(1)初年度（2018 年度）から計 5 期の累計で初回治療情報 34,709 人、入院情報 65,707 件分の登録を得た。2020 年度登録までのデータセットを活用して詳細な解析を進めた。2021 年度には、入院毎の治療法選択について検討を行い、BCLC 分類 0/A で再発例を含む場合は、切除よりもアブレーションが選択される場合が多いことを報告した。また、肝硬変では、新しい機序による利尿剤であるバソプレシン受容体 V2 拮抗薬が、従来から使用されているループ利尿薬やアルドステロン拮抗薬に加えて、実に 38%の入院において使用されていることを報告した。

(2)2021 年 4 月より対象となる「高額療養費算基準額を超えた月」を 4 月から 3 月に短縮し、肝がんの通院治療（分子標的薬を用いた化学療法※に限る）も新たに対象としたため、2021 年度より登録件数が月あたりの登録件数が 50 件程度から 100 件程度と増加していた。

(3)開発したガイドラインシステムを用いて、「肝臓診療ガイドライン 2021 年版」において文献レビューを行った。1 次スクリーニングの候補論文計 10,790 編を登録したのち、1 次スクリーニングで選択された 1,213 編の論文について PDF ファイルをクラウド上に保管、続いて 2 次スクリーニングをシステム上で行った。各査読者の進捗状況をリアルタイムで把握できるなど、作業の大幅な効率化が可能であった。2021 年 10 月に同ガイドラインを上梓した。

D 考察

肝臓・非代償性肝硬変患者レジストリは良好に機能しており、肝臓・非代償性肝硬変に関する複数回入院および治療の解析に供する大規模なデータが引き続き収集されている。肝臓においては、全身薬物療法の普及や、初発および再発症例の解析から BCLC stage 0/A において身体的負担の少ないアブレーションが肝切除よりも広く行われている実態が明らかとなった。非代償性肝硬変においては、バソプレシン受容体 V2 拮抗薬などの新規治療薬が日常診療に浸透しつつあることも示された。

E 結論

肝臓・非代償性肝硬変に関する入院毎のデータが順調に収集されている。肝臓の再発症例および肝硬変の複数回入院における治療選択などの診療実態が明らかとなり、ガイドラインの策定に資するデータベースが構築できていると考えられる。

厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
総合研究報告書（分担研究）

泉 並木 武蔵野赤十字病院 院長

肝硬変・肝細胞がん症例の臨床的課題について検討し、問題点について検討した。

また、重度肝硬変・肝がんに対する医療費助成の利用状況の調査と、利用するための対策について検討した。

- (1) TACE の適応と薬物療法に移行するめやすを解析し、BCLC ステージ B かつ Child-Pugh A で初回 TACE によって治療した例においては、up-to-7 基準逸脱あるいは ALBI grade 2 点のいずれかである場合には、Child-Pugh B に肝予備能が低下しやすいため、分子標的治療薬への移行を考慮すべきである。
- (2) 進行肝細胞癌に対して、レンバチニブ内服で治療する場合には、予定投与量の 70%以上の実際の内服量を確保することによって、画像診断で評価した治療反応性が高く、全生存率が高いことが示された。
- (3) 切除不能進行肝細胞癌に対して、アテゾリツマブとベバシズマブ併用治療は、一次治療として有効性が高く、実臨床では未知の有害事象はみられていない。二次治療よりも一次治療での有効性が高かった。さらに、アテゾリツマブ＋ベバシズマブ併用療法は、切除不能肝細胞癌の治療として有用であり、治療中に筋肉量をたもつことが治療効果の改善に重要であることが示された。

考藤達哉 国立国際医療研究センター 肝炎・免疫研究センター 研究センター長

本邦における肝がん死亡者数は減少傾向にあるが、肝がんは根治治療後も再発を繰り返し、頻回の入院治療が必要となる予後不良の疾患である。また、代償性肝硬変から非代償性肝硬変に移行すると、抗ウイルス治療などの原因療法による改善は困難となる場合が多く、肝硬変自体を回復させる抗肝線維化治療薬も、現時点では実臨床では使用できない。非代償性肝硬変の合併症である難治性腹水、肝性脳症、食道胃静脈瘤などに対する対症治療も新薬が開発され患者 QOL は改善しているが、頻回の入院治療が必要である。2018 年 12 月、肝炎ウイルスに起因する肝がん・重度肝硬変患者に対して、入院治療費の補助が可能となる制度（肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業）が執行開始された。しかし、対象患者の選定条件（高額医療費使用入院回数歴）や医療費補助を受ける病院の制限（都道府県が指定する指定医療機関に限る）など、やや複雑な制度設計のために、利用しにくい状況が懸念される。利用患者数の増加を目指して、2021 年度から対象

患者の指定要件が緩和され、外来での通院治療も対象となり、高額療養費使用月回数が 3 月以上とされた。

本分担研究では、肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業の普及を目的として、全国肝疾患診療連携拠点病院（以下、拠点病院）、都道府県肝炎政策担当者、厚生労働省肝炎対策推進室（以下、肝炎室）と肝炎情報センターが開催する全国地域ブロック戦略会議（ハイブリッド開催）、肝炎情報センターが主催する拠点病院間連絡協議会（ハイブリッド開催）、肝疾患相談支援センター担当者向け研修会（ハイブリッド開催）での制度説明と意見交換を通して、拠点病院、都道府県担当部署における効率的な制度運用方法の提案を行った。また肝炎ナビゲーションシステム（以下、肝ナビ）を用いて、同制度の指定医療機関情報を公開し、利便性の向上を図った。今後も引き続き、制度の浸透度や指定要件の効果検証を、拠点病院を対象とした肝炎医療指標調査、都道府県における同制度利用者数調査、肝ナビの利用状況調査結果、同事業実態調査などを基に実施する予定である。

A 研究目的

肝がんは根治治療後も再発を繰り返し、頻回の入院治療が必要となる予後不良の疾患である。また、非代償性肝硬変の合併症である難治性腹水、肝性脳症、食道胃静脈瘤などに対する対症治療においても、寛解・再発を繰り返すために頻回の入院治療が必要である。2018 年 12 月、肝炎ウイルスに起因する肝がん・重度肝硬変患者に対して、入院治療費の補助が可能となる制度（肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業）（以下、肝がん肝硬変事業）が執行開始された。しかし、対象患者の選定条件（高額医療費使用入院回数歴）や医療費補助を受ける病院の制限（都道府県が指定する指定医療機関に限る）など、やや複雑な制度設計のために、利用しにくい状況が懸念される。令和 3 年度から対象患者の指定要件が緩和され、外来での通院治療も対象となり、高額療養費使用月回数が 3 月以上とされた。

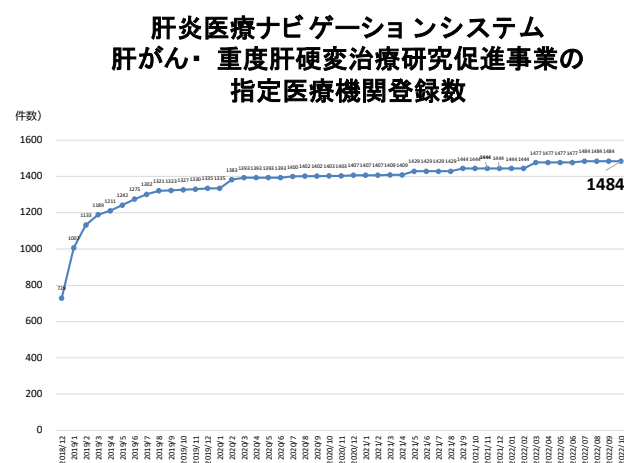
本分担研究では肝がん肝硬変事業の制度運用に際して、担当機関（同事業指定医療機関、都道府県肝炎政策担当部署）における問題点・課題を明らかにし、制度運用の効率化を図ることを目的とした。

B 研究方法

（倫理面への配慮）

本分担研究は、事業調査によって収集されたデータに基づく解析研究であり、個人情報を取り扱うことはない。したがって厚生労働省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成 26 年 12 月 22 日）を遵守すべき研究には該当しない。

C 研究結果



2018 年～2022 年、それぞれ 9～10 月に全国 6 箇所で肝炎対策地域ブロック会議をハイブリッド形式で行い、拠点病院担当者、都道府県担当者へ同制度の説明を行った。また、2021 年度から指定要件が緩和され、それに伴う事務手続き上の改善点について意見を収集した。同制度は対象患者の選定条件（所得制限、高額医療費使用入院回数歴）や医療費補助を受ける病院の制限（都道府県が指定する指定医療機関に限る）など、やや複雑な制度設計のために利用しにくい状況が懸念される。制度利用者が増加している自治体・拠点病院からの運用好事例を共有したりすることで、制度理解が深まった。拠点病院連絡協議会、肝疾患相談支援センター担当者向け研修会、情報発信力強化会議においても、同制度利用増加を目指して、事業説明と指定要件緩和後の変化について意見収集を行った。全国肝疾患診療連携拠点病院を対象とした肝炎医療指標調査の中で、本制度の説明状況を経年的に調査・解析した。新型コロナウイルス感染症パンデミック前（令和元年度）に比べてパンデミック期（2021 年度）には、説明回数が増加しており、拠点病院には制度理解と説明は浸透しつつあることが示された。また、肝ナビに都道府県による同事業指定医療機関の情報を更新した。2022 年 11 月末現在、全都道府県から指定医療機関 1,484 施設の情報を掲載しており、対象患者の利便性の向上に貢献した。

D 考察

2018 年 12 月から再発治療を繰り返す肝がん・重度肝硬変患者の経済的補助のために、肝がん肝硬変事業が開始されたが、複雑な制度設計のために患者が利用しにくい状況が懸念されている。令和 3 年度から指定要件が緩和され、それに伴い受給患者数の増加が見込まれる。拠点病院には同制度は浸透しつつあるが、一般国民にも同制度の存在を周知・広報すること、指定医療機関担当者、都道府県事業担当者が同制度を十分理解すること、肝ナビ等で指定医療機関情報を提供することが、更に利用者数を増やし利便性を高めるためには重要であることが明らかとなった。

E 結論

肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業の利用者数の増加を目指して、関連機関担当者に効率的な運用方法を提案し、肝ナビによる同事業の指定医療機関情報を提供した。

工藤 正俊 近畿大学医学部 消化器内科 主任教授

A. 研究目的

肝臓に対する複合免疫療法の効果と安全性を検証すること。特に各国の研究状況と成績における実態調査を行う事。

B. 研究方法

肝臓に対する各種国際学会に出席し発表を行うとともに、海外のデータについても日本との成績と比較検討する。

C. 研究結果

日本の肝臓における複合免疫療法が海外とはアプローチ方法が異なり、最も優れる事が判明した。

D. 考察

今後日本において、肝臓の治療を効率的に進めるには高額な複合免疫療法の経済的サポートが重要と考えられた。

E. 結論

日本の肝臓の治療、特に複合免疫療法による治療成績は海外より優れていると考えられた。これに対して、極めて高額な医療費をサポートする仕組みは極めて重要であると考えられた。

久保正二 大阪市立大学大学院医学研究科肝胆膵外科学 准教授
(研究協力者)

竹村茂一 大阪市立大学大学院医学研究科肝胆膵外科学 講師

田中肖吾 大阪市立大学大学院医学研究科肝胆膵外科学 講師

新川寛二 大阪市立大学大学院医学研究科肝胆膵外科学 講師

木下正彦 大阪公立大学大学院医学研究科肝胆膵外科学 病院講師

高齢肝細胞癌（肝臓）患者では術後合併症発症率が高く、他疾患による死亡がみられ、肝臓のみならず他疾患に関しても厳重な経過観察が必要である。開腹下肝切除に比較して、腹腔鏡下肝切除術は術後合併症や術後せん妄が少なく、在院日数が短く、術後成績も劣らないため、高齢肝臓患者に対して有効な治療法と考えられる。また、高齢肝臓患者に対する肝切除後の経過、特にリハビリ目的の転院や要介護状態への移行など非自立に陥る要因と腹腔鏡下肝切除の意義について検討した。その結果、腹腔鏡下肝切除後、非自立に陥る要因は、76歳以上、フレイル状態およ

び開腹肝切除であった。高齢肝癌患者に対する腹腔鏡下肝切除は術後合併症率や非自立に陥る患者数を低下させ、患者のみならず家族の負担軽減、リハビリ目的の転院患者数の減少につながり、医療経済的にも有用であることが明らかとなった。

再発肝癌に対する腹腔鏡下肝切除の難易度に関連する因子の検討から、前回開腹下肝切除、2回以上の肝切除既往、前回区域以上切除、前回切離面近傍腫瘍、Difficulty score（4点以上）の5因子が難易度に関連すると考えられた。難易度関連因子が0から3因子合致の低・中難度群において、腹腔鏡肝切除例と開腹肝切除例を比較した結果、低・中難度群では腹腔鏡下再肝切除は良い適応と考えられる。

C型肝炎（HCV）関連肝癌切除後成績に及ぼす直接作用型抗ウイルス剤（DAA）療法の意義を検討した結果、術前DAA群の術後無再発生存率は、術後DAA群および対照群のそれらに比較して高値であった。また、術前DAAおよび術後DAA群の術後累積生存率は、対照群のそれに比較して高値であった。肝切除後DAA療法は肝癌再発を抑制できなかったものの、肝機能改善あるいは保持できることによって長期生存に寄与した。また、HCV消失後（SVR）後の肝癌切除例においては、肥満が肝癌再発危険因子であった。

アルコール性肝疾患併存肝癌切除例において飲酒群と術後断酒群の術後無再発生存率に差はみられなかったが、術後断酒群の術後累積生存率は飲酒群のそれに比較して高値であった。したがって、術後断酒は肝機能の改善あるいは保持により、肝癌術後長期予後が改善すると考えられる。

多変量ロジスティック回帰分析により変数を選択し、肝外再発と早期肝内再発（術後1年以内）を予測するノモグラムを作成した。肝外再発の予測因子には α -fetoprotein > 200 ng/ml、腫瘍サイズ（3–5 cm, or >5 cm vs $\leq$ 3 cm）、画像診断静脈侵襲が選択され、concordance index は0.75であった。早期肝内再発の予測因子には腫瘍サイズ（3–5 cm, or >5 cm vs $\leq$ 3 cm）、多発腫瘍、画像診断門脈侵襲、切離面腫瘍露出が選択され、concordance index は0.67であった。calibrationによる肝外再発と早期肝内再発を予測するノモグラムの予測値と実測値の一致は良好であった。肝癌切除術後の肝外再発と早期肝内再発を術前予測するノモグラムは、肝癌に対する治療戦略確立のために有用と考えられる。

A 研究目的

研究1：高齢肝癌患者に対する肝切除術の術後短期および長期成績について検討した。

研究2：HCV-SVR肝癌切除例において、メタボリック因子と術後再発の関連について検討した。

研究3：フレイルの観点から、65歳以上の肝癌切除術後合併症などの短期成績、特にリハビリ目的の転院や要介護状態への移行など非自立に陥る要因について検討した。

研究4：高齢肝癌患者において、開腹および腹腔鏡下肝切除の術後経過を比較し、腹腔鏡下肝切除の意義を検討した。

研究5：腹腔鏡下再肝切除の難易度に関連する因子の解析から、難易度分類を策定し、その難易度分類を踏まえた腹腔鏡下再肝切除の適応を検討した。

研究6：HCV関連肝癌切除後成績に及ぼす直接作用型抗ウイルス剤（DAA）療法の意義を検討した。

研究7：アルコール性肝疾患併存肝癌に対する肝切除術後断酒の意義を検討した。

研究8：肝切除術後の肝外再発と早期肝内再発を術前予測するノモグラムを開発した。

B 研究方法

研究 1：対象は、2000 年 1 月から 2016 年 12 月の期間に初回肝切除術を行った 715 例で、年齢により ≥ 80 歳 (n=40 例)、70-79 歳 (n=309 例)、60-69 歳 (n=256 例) ≤ 59 歳 (n=110 例) の 4 群に分け検討した。次いで、2010 年 4 月から 2017 年 4 月の期間に 80 歳以上に対して肝切除術施行 25 例（腹腔鏡群は 8 例、開腹群は 17 例）を対象とし、2 群間の臨床像および術後短期および長期成績について検討した。

研究 2：1994 年 1 月から 2016 年 6 月の期間のミラノ基準内 SVR 後肝癌 59 例を非肥満群 (n=18) と肥満群 (n=41) に分類し、術後再発について比較検討した。

研究 3：関西地区における大学病院での多施設共同研究として、65 歳以上の肝切除患者 232 例をまず対象に検討を行い、次いで同様の 115 例を validation cohort 研究を行った。術後経過を検討し、特にリハビリ目的の転院や要介護状態への移行など非自立に陥る要因を検討した。なお、フレイルは厚生労働省の基本チェックリストを用いて評価し、8 点以上をフレイル状態と判定した。

研究 4：75 歳以上高齢者において、開腹および腹腔鏡下肝切除術後経過を、propensity score matching を用いて背景因子を統一した後、それぞれ 155 例の群で比較し

研究 5：肝切除既往を有する再発肝癌に対して腹腔鏡下再肝切除（部分切除のみで、尾状葉手術を除く）を行った 72 例を対象に、難易度関連因子として、前回肝切除アプローチ法（開腹あるいは腹腔鏡）、肝切除既往（1 回あるいは 2 回以上）、前回胆嚢摘出術の有無、前回肝切除範囲（区域切除未満あるいは以上）、近接腫瘍（前回切除部と同一、隣接亜区域の腫瘍あるいはそれ以外）、術前内科治療（TACE、RFA など）の有無、Difficulty Score（4 点未満あるいは以上）とした。これらの因子と長時間手術や高度癒着の関係について、単変量および多変量解析を行い、難易度関連因子を決定した。次いで、その因子合致数別に難易度を分類（低、中、高）し、それぞれの分類別に手術時間、肝切除開始までの時間、出血量、術後合併症（C-D grade IIIa 以上）、術後在院日数からその妥当性を検証した。2010 年から 2019 年までの期間に、肝切除既往を有する再発肝癌に対して再肝切除を行った 244 例のうち、他臓器合併切除、尾状葉を除いた単発部分切除症例は 160 例で、このうち 101 例が腹腔鏡下再肝切除、59 例が開腹下再肝切除を受けていた。これら症例を 0 から 3 因子合致の低・中難度群と 4 あるいは 5 項目合致の高難度群に分類し、それぞれの難度群において、腹腔鏡下再肝切除例と開腹下再肝切除例の手術時間、肝切除開始までの時間、出血量、conversion、術後合併症、術後在院日数を比較し、その結果から腹腔鏡下再肝切除の適応を検討した。

研究 6：HCV 関連肝癌切除例のうち、DAA-SVR 後肝癌と診断された 23 例を術前 DAA 群、肝癌切除後 DAA を投与し SVR となった 20 例を術後 DAA 群、DAA 療法非施行の 10 例を対照群とした。これら 3 群における肝機能の推移、術後無再発生存率、再発危険因子、術後累積生存率および予後不良因子を比較し、DAA 療法の意義を検討した。

研究 7：アルコール性肝疾患併存肝癌切除後成績に及ぼす術後断酒の意義を検討した。対象はアルコール性肝疾患を背景とした肝癌に対して根治切除可能であった初回肝切除 92 例、アルコール性肝疾患の診断基準は①HBs 抗原陰性かつ HCV 抗体陰性、②非ウイルス性慢性肝疾患の診断がない、および③1 日あたりアルコール摂取量 60g 以上とした。また、術後 1 ヶ月あたり 1 日未満かつアルコール摂取量 20g 未満の場合、術後断酒と定義したところ、飲酒群は 36 例および術後断酒群は 56 例であった。それら 2 群の術後無再発および累積生存率、死因および再発部位と肝内再発時の初回治療を比較し、術後断酒の意義を検討した。

研究 8：1990 年 6 月～2018 年 12 月に当科で根治切除可能であった初回肝切除 1206 例を対象とした。赤池情報量基準を用いた多変量ロジスティック回帰分析により変数を選択し、肝外再発と早期肝内再発（術後 1 年以内）を予測するノモグラムを作成した。ノモグラムの予測性能は concordance index で評価し、さらに bootstrapping 法を用いた calibration によりノモグラムの予測値と実測値を比較した。検討項目は年齢、性別、Child-Pugh class、ALT 値、 α -fetoprotein > 200 ng/ml、腫瘍サイズ(3-5 cm, or >5 cm vs ≤ 3 cm)、多発腫瘍、画像診断静脈侵襲、画像診断門脈侵襲、画像診断腫瘍辺縁不整、切離面腫瘍露出、出血量、肝硬変とした。

なお、これらの研究は大阪市立大学（現大阪公立大学）倫理委員会の承認を得て実施された。

C 研究結果

研究 1：若年者に比較して、高齢肝癌患者に対する肝切除術は合併症発生率が高かった。術中出血量の減少や腹腔鏡下手術が合併症発生率の改善に有効である可能性が示唆された。若年者に比較して、高齢者では他疾患での死亡が多かった。80 歳以上の肝癌に対する肝切除術施行での術中出血量の中央値は、腹腔鏡群で 100ml、開腹群で 170ml であり有意差は認められなかった。Clavian-Dindo 分類 IIIa 以上の合併症を開腹群で 3 例に認められた。また術後せん妄も開腹群で 2 例に認められたが、薬物治療により改善した。いずれも群間で有意差は認められなかった。在院死亡は認められなかった。在院日数中央値は腹腔鏡群で 8 日、開腹群で 12 日であり、腹腔鏡群が有意に短かった。無再発生存率や累積生存率は両群で有意差は認められなかった。以上より、80 歳以上の肝癌患者に対する腹腔鏡下肝切除術は在院日数の短縮に寄与し、成績も良好であった。

研究 2：SVR 後肝癌切除例において、肥満 ($p=0.021$) と非系統的肝切除術が有意な再発危険因子であった。

研究 3：肝癌切除後、非自立に陥る要因は、76 歳以上、フレイル状態および開腹肝切除であった。この 3 つの要因が重なるほど術後非自立に陥る確率が高く、これらは validation cohort 研究でも確認された。

研究 4：開腹肝切除に比較し、腹腔鏡下肝切除では手術時間が長かったものの、出血量、術後合併症、特に呼吸器および心血管系合併症の頻度が低かった。また、術後在院日数が短く、リハビリ目的の転院患者数が少なかった。

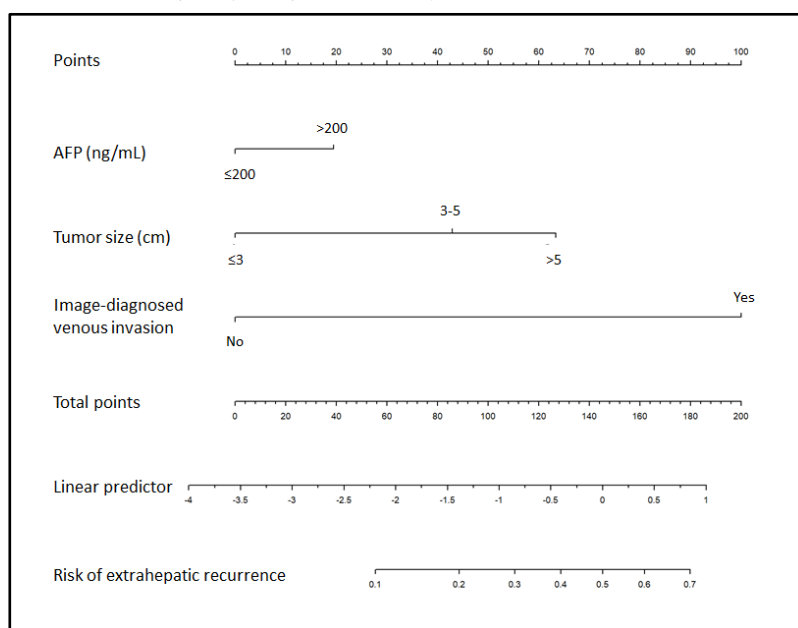
研究 5：単変量解析において、長時間手術に関連する因子は、前回アプローチ（開腹）、肝切除既往（2 回以上）、前回切除範囲（区域以上）、Difficulty score（4 点以上）であった。高度癒着に関連する因子は前回アプローチ（開腹）、近接腫瘍、Difficulty score（4 点以上）であった。多変量解析では、長時間手術に関連する因子は、肝切除既往（2 回以上）、前回切除範囲（区域以上）、Difficulty score（4 点以上）であった。高度癒着に関連する因子は前回アプローチ（開腹）、前回切除範囲（区域以上）、近接腫瘍、Difficulty score（4 点以上）であった。これらから、難易度関連因子は、前回開腹下肝切除、2 回以上の肝切除既往、前回区域以上切除、前回切離面近傍腫瘍、Difficulty score（4 点以上）の 5 因子と考えられた。合致する難易度関連因子を 0 あるいは 1 の低難度群、2 あるいは 3 の中難度群、4 あるいは 5 の高難度群に分類すると、難易度が上昇するほど、手術時間と肝切除開始までの時間が長くなり、出血量が多くなった。また、術後合併症の頻度も上昇した。上記の難易度関連因子が 0 から 3 因子合致の低・中難度群において、腹腔鏡肝切除例と開腹肝切除例を比較すると、腹腔鏡例に比較し、開腹例では出血量が多く、術後合併症の頻度が高く、術後在院日数が長かった。一方、4 あるいは 5 因子の高難度群においては、開腹例

に比較し、腹腔鏡例では手術時間と肝切除開始までの時間が極めて長く、腹腔鏡 9 例中 2 例が開腹移行していた。なお、術後合併症の頻度と術後在院日数には差はみられなかった。

研究 6：術前 DAA 群でアルブミン値が高く、AST、ALT および APRI 値は低かった。また、術前 DAA 群で腫瘍径が小さかった。術後 DAA 群で、術 1 年後に AST、ALT および APRI が低下していた。一方、対照群では Child-Pugh 分類や ALBI grade が術後進行した症例がみられた。術前 DAA 群の術後無再発生存率群は、術後 DAA 群および対照群のそれらに比較して高値であった。なお、再発形式の差はみられなかった。多変量解析による再発危険因子は術後 DAA 群、対照群、UICC stage であった。術前 DAA および術後 DAA 群の術後累積生存率は、対照群のそれに比較して高値であった。多変量解析により予後不良因子は術 1 年後 ALBI grade であった。死因をみると、対照群において肝不全による死亡例がみられた。肝切除後 DAA 療法によって肝癌再発は抑制できなかったものの、肝機能改善あるいは保持（術 1 年後 ALBI grade I）できることによって肝癌切除後長期生存に寄与した。

研究 7：飲酒群と術後断酒群の周術期成績に差はみられなかった。両群の無再発生存率に差はみられなかったが、術後断酒群の累積生存率は飲酒群のそれに比較して高値であった。単変量解析および多変量解析において、術後断酒が予後良好因子であった。飲酒群に比較し、術後断酒群では肝臓関連死（肝癌および肝硬変死）が少なかった。また、術後断酒群に比較し、飲酒群では Child-Pugh スコアの悪化（A から B）例が多かった。したがって、術後断酒は肝機能の改善あるいは保持により、肝癌切除後長期予後が改善すると考えられた。

研究 8：肝外再発は 95 例(7.9%)、早期肝内再発は 296 例(24.5%)に認められた。肝外再発の予測因子には α -fetoprotein > 200 ng/ml、腫瘍サイズ(3–5 cm, or >5 cm vs ≤ 3 cm)、画像診断静脈侵襲が選択され、concordance index は 0.75 であった。早期肝内再発の予測因子には腫瘍サイズ(3–5 cm, or >5 cm vs ≤ 3 cm)、多発腫瘍、画像診断門脈侵襲、切離面腫瘍露出が選択され、concordance index は 0.67 であった。calibration による肝外再発と早期肝内再発を予測するノモグラムの予測値と実測値の一致は良好であった。



D 考察

高齢肝癌患者に対する肝切除術において腹腔鏡下手術が術中出血量の減少や術後合併症発生率の改善に有効であると考えられた。長期成績においては肝癌だけではなく他疾患に対する厳重な

経過観察も必要と考えられる。80 歳以上の肝癌患者に対する腹腔鏡下肝切除術は、開腹下肝切除に比較して侵襲が少なく、術後せん妄発症が少なく、在院日数の短縮に寄与した。一方、両群の累積生存率や無再発生存率に差はみられないことから、腹腔鏡下肝切除は開腹下肝切除に比較して、高齢者にも有用であると考えられた。

高齢肝癌切除後、非自立に陥る要因は、76 歳以上、フレイル状態および開腹肝切除であった。一方、高齢者における開腹肝切除と腹腔鏡下肝切除を比較すると、開腹肝切除に比較し、腹腔鏡下肝切除では、出血量、輸血の頻度、術後合併症、特に呼吸器および心血管系合併症の頻度が低く、術後在院日数が短く、リハビリ目的の転院患者数が少なかった。したがって、高齢肝癌患者の肝切除においては、術前にフレイル状態を把握、治療開始前から退院後の対策や腹腔鏡下肝切除による術後合併症率の低下や非自立に陥ることを防ぐなどの対策を講じる必要がある。また、これらによってリハビリ目的の転院患者数が減少し、その結果、医療経済的にも有用であることが明らかとなった。

術前評価可能である、前回開腹下肝切除、2 回以上の肝切除既往、前回区域以上切除、前回切離面近傍腫瘍、Difficulty score (4 点以上) の 5 因子をもとにした 3 段階の難易度分類は、腹腔鏡下再肝切除の周術期成績を反映していた。複数のそれら因子を有するほど、手術難度の上昇が危惧され、特に 4 因子以上、合致する症例では手術難度が極めて高いと考えられた。また、低・中難度群においては開腹例に比較して腹腔鏡例の周術期成績は良好であったことから、低・中難度群においては、腹腔鏡下再肝切除は良い適応と考えられる。一方、高難度群では腹腔鏡下再肝切除の有用性は乏しいと考えられた。

HCV 関連肝癌切除例において、術後 DAA 療法は肝癌再発を抑制しなかったものの、術後の肝機能を改善あるいは保持 (術 1 年後 ALBI grade I) することにより、肝不全による死亡はみられず、術後累積生存率が向上した。したがって術後 DAA は肝癌切除後成績を向上させると考えられる。また、SVR 後肝癌切除例においては肥満が肝細胞癌再発危険因子であり、特に肥満例では再発に注意を要する。SVR 後肝細胞癌切除例において、生活習慣病の改善が予後改善に寄与するか検討が必要である。

アルコール性肝疾患併存肝癌において、術後断酒によって術後無再発生存率に差はみられなかったものの、累積生存率は向上した。また、肝臓関連死 (肝癌および肝硬変) が減少し、飲酒群では Child-Pugh スコアの悪化 (A から B) 例が多かった。したがって、術後断酒は肝機能の改善あるいは保持により、肝癌術後長期予後が改善させる意義があると考えられた。

肝癌切除術後の肝外再発と早期肝内再発を術前予測するノモグラムを開発したが、肝外再発と早期肝内再発を予測するノモグラムの予測値と実測値の一致は良好であった。したがって、本ノモグラムは、肝外再発と早期肝内再発を予測するだけでなく、適切な肝切除適応の選択や肝切除後の補助薬物療法の適応決定に有用であると考えられる。

E 結論

高齢肝癌患者においては術後合併症の発症率が高く、肝細胞癌のみならず他疾患に関しても厳重な経過観察が必要である。開腹下肝切除に比較して、腹腔鏡下肝切除術は合併症や術後せん妄が少ない、在院日数が短く、術後成績も劣らなかった。肝切除後、非自立に陥る要因は、76 歳以上、フレイル状態および開腹肝切除であった。高齢者において、腹腔鏡下肝切除は術後合併症率や非自立に陥る患者数を低下させ、患者のみならず家族の負担軽減や、リハビリ目的の転院患者

数の減少につながり、医療経済的にも有用であることが明らかとなった。現時点においては、前回開腹下肝切除、2 回以上の肝切除既往、前回区域以上切除、前回切離面近傍腫瘍、Difficulty score (4 点以上) の 5 因子のうち、0 から 3 因子合致の低・中難度群が、腹腔鏡下再肝切除は良い適応と考えられた。肝癌切除後 DAA 療法によって肝癌再発は抑制できなかったものの、肝機能改善あるいは保持(術 1 年後 ALBI grade I) できることによって術後長期生存に寄与した。SVR 後肝癌切除例において、肥満が肝細胞癌再発危険因子であった。アルコール性肝疾患併存肝癌切除例において、肝癌切除後断酒は肝機能の改善あるいは保持により、癌術後長期予後を改善した。肝癌切除術後の肝外再発と早期肝内再発を術前予測するノモグラムを開発したが、本ノモグラムは、肝癌に対する治療戦略確立のために有用と考えられた。

宮田 裕章 慶應義塾大学医学部 医療政策・管理学教室 教授

(研究協力者)

櫻井 桂子 慶應義塾大学医学部 医療政策・管理学教室 特任助教

瀬川 泰正 慶應義塾大学医学部 医療政策・管理学教室 特任研究員

高橋 新 慶應義塾大学医学部 医療政策・管理学教室 特任助教 (令和 4 年 10 月末日まで)

立森 久照 慶應義塾大学医学部 医療システムイノベーション寄附講座 特任教授

平川 信也 慶應義塾大学医学部 医療システムイノベーション寄附講座 特任助教

本研究では、肝がん・重度肝硬変治療研究及び肝がん患者等への支援のための仕組みを構築するものである。そのために(1)我が国でこれまでに整備されてきた肝炎ウイルス検査、初回精密検査、定期検査、インターフェロン治療、核酸アナログ治療、インターフェロンフリー治療など様々なステージでの助成の枠組みの利用効率を向上させるための取り組み、(2)研究対象の患者データをできるだけ多く収集するための取り組み、(3)これらデータから明らかになった医療ニーズ及びエビデンスを元に新たな診療ガイドラインを改良(改訂)する取り組みに向けたデータ収集プラットフォームの作成およびそのデータの解析が目的である。

平成 30 年度 1 月のリリース以降、より価値のある登録項目への修正、入力者側の負荷軽減や自施設でのプラットフォーム利用意欲向上につながる機能改善を継続的に実施することで、悉皆性の向上に努めた。また令和 2 年度以降は肝癌肝硬変の実態把握およびプラットフォームの疫学的有用性を検証すべく、実際の収集データを元に肝癌・肝硬変症例の背景肝疾患に応じた記述統計を行った。

我が国において、多くの臨床学会が連携して National Clinical Database (NCD) が 2010 年 4 月に設立された¹⁾。NCD では共通調査票に基づいた体系的なデータ収集を行っており 2023 年 5 月時点では約 5,600 施設が参加し、1,500 万症例以上の症例情報が集積している。NCD は専門医制度と連携した臨床データベースとしては世界最大規模である。NCD における臓器がん登録としての取り組みは、乳癌、膀胱癌、肝癌、胃癌、前立腺癌、腎癌、食道癌、遺伝性乳癌卵巣癌症候群などの領域において学会・研究会が中心となって、癌の診断や治療法などの方針を確立することを目的に全国規模で実施されている²⁻⁶⁾。肝癌としては 2018 年より、日本肝癌研究会⁷⁾が行う「全国原発性肝癌追跡調査」が NCD 上でシステム構築および運用が開始となり、NCD へ移行した初年度には従来の登録症例を維持する約 20,000 症例の登録が行われ、これまでに NCD 上で約 100,000 症例

の情報が蓄積している。

我が国では、ウイルス肝炎に起因する肝細胞癌は近年減少傾向にあるものの、なお半数以上を占めており、ウイルス肝炎が肝癌の発生の最も重要な母集団であることに変わりないとされている。肝癌に対するサーベイランスが広く行われ、診断技術の向上によって早期発見が可能となり、治療法の発達によって肝硬変を合併する癌であっても長期生存が可能となっている。サーベイランスおよび診断技術の発達により予後（生存）は過去 30 年で大きく改善しているものの、繰り返す再発に対しては十分な検討がなされていないのが現状である。

本研究では、(1)我が国でこれまでに整備されてきた肝炎ウイルス検査、初回精密検査、定期検査、インターフェロン治療、核酸アナログ治療、インターフェロンフリー治療など様々なステージでの助成の枠組みの利用効率を向上させるための取り組み、(2)研究対象の患者データをできるだけ多く収集するための取り組み、(3)これらデータから明らかになった医療ニーズ及びエビデンスを元に新たな診療ガイドラインを改良(改訂)する取り組みに向けたデータ収集プラットフォームの作成・改善およびそのデータの解析を目的とする。

B. 研究方法

本研究では、NCD 上に構築された肝癌・重度肝硬変に関するシステムに対して、入力効率的に行うことが可能となるようシステム改修を行なった。改修に向けては、分担研究者間でのシステム仕様検討を十分に行った。また令和 2 年度から 4 年度には毎年、登録された情報を用いて、入力状況の確認および肝癌肝硬変情報の実態把握が可能となるよう記述統計を行なった。記述統計については、(1) カテゴリー（患者背景、Etiology、診断年、入院回数、BCLC ステージ分類）、(2) 初回治療および入院共通情報、(3) 初回治療情報、(4) 入院情報、にて取りまとめた。カテゴリーについては、以下の通りとした。

【背景肝疾患】

肝癌および肝硬変の診断、ウイルス肝炎情報、HBsAg、HCVAb、から「B 型」「C 型」「BC 型」「NBNC 型」をカテゴリ化した。

【入院回数】

患者ごとに入院レコードを古い順から並べ、最も古いレコードを 1 回目、2 回目、3 回目、4 回目以上としてカテゴリ化した。カテゴリ化は肝硬変、肝癌ごとに別々に設定した。

【BCLC ステージ分類】

Child-Pugh 分類、脈管胆管侵襲（門脈 Vp、肝静脈 Vv、胆管侵襲 B）、肝外転移の有無、病変数、腫瘍径を用いてステージング（Stage 欠損、Stage0、StageA、StageB、StageC、StageD）を行った。

C. 研究結果

1. システム改修

【入力システム】

データベースの管理として以下の入力システム改修を行った。

(1) 既存項目の改修、新規項目追加

(2) アップロードシステムの改修

(3) 自施設データダウンロードシステムの改修

【ユーザーへの周知】

2022 年度登録の案内および NCD 事務局より入力担当者への周知を行った（合計 6 回程度）。

【登録状況（2022 年 11 月時点）】

（初回治療情報）

- ・ 編集：1,878 例
- ・ 未承認：717 例
- ・ 承認済：1,323 例
- ・ H30～R4 年度累計症例数：29,081 例

（入院情報）

- ・ 編集：5,930 例
- ・ 未承認：1,753 例
- ・ 承認済：2,813 例
- ・ H30～R4 年度累計症例数：54,146 例

（生存調査）

- ・ 2021 年対象：26,873 例
- ・ 編集：19,525 例
- ・ 未承認：509 例
- ・ 承認済：6,839 例

2. 基礎集計

【解析対象症例数】

初回治療情報は 26,958 例が解析対象であった。入院情報は、初回治療および入院治療の両方で肝臓に該当する症例は 22,123 例であった。同様に、初回治療および入院治療の両方で肝硬変に該当する症例は 6,920 例であった。

【初回治療情報】

初回治療情報として登録された肝臓症例の平均年齢は 70.9 歳（標準偏差 10）であった。男性の割合は 73.0%（16,095 例）であった。同様に肝硬変症例では、平均年齢は 65.4 歳（標準偏差 13.9）であった。男性の割合は 62.1%（4,264 例）であった。

【背景肝疾患別登録数（初回治療）】

肝臓症例で初回治療情報（肝臓入院あり）における背景肝疾患カテゴリ別では、B 型 2,592 例、C 型 7,744 例、BC 型 239 例、NBNC 型が 10,622 例、欠損 861 例であった。同様に、肝硬変症例で初回治療情報（肝硬変入院あり）における背景肝疾患カテゴリ別では、B 型 494 例、C 型 1,607 例、BC 型 70 例、NBNC 型が 4,202 例、欠損 493 例であった。

【入院回数別登録数】

肝臓では 1 回入院が 14,274 例、2 回入院が 3,648 例、3 回入院が 1,841 例、4 回以上入院が 2,295 例で

あった（平均 1.8 回）。肝硬変では、1 回入院が 4,306 例、2 回入院が 1,206 例、3 回入院が 576 例、4 回以上入院が 778 例であった（平均 2.0 回）。

【BCLC Stage 別登録数（入院）】

入院症例において BCLC ステージ別に症例数を確認すると、Stage0 が 7,100 例（17.8%）、StageA が 9,341 例（23.4%）、StageB が 9,557 例（24.0%）、StageC が 5,726 例（14.4%）、StageD が 2,062 例（5.2%）、Stage 欠損が 3,649 例（9.2%）、non-HCC が 2,415 例（6.1%）であった。

【背景肝疾患別登録数（入院）】

肝癌入院症例（初回治療で肝癌あり）における背景肝疾患カテゴリ別では、B 型 4,732 例、C 型 14,233 例、BC 型 480 例、NBNC 型が 19,007 例、欠損 1,398 例であった。同様に、肝硬変入院症例（初回治療で肝硬変あり）における背景肝疾患カテゴリ別では、B 型 1,068 例、C 型 3,354 例、BC 型 135 例、NBNC 型が 8,409 例、欠損 883 例であった。

【退院時転帰（入院）】

肝癌入院症例（初回治療で肝癌あり）における退院時転帰は、軽快退院 30,400 例、死亡 1,888 例、転院 756 例、不変退院 6,806 例であった。同様に、肝硬変入院症例（初回治療で肝硬変あり）では、軽快退院 9,245 例、死亡 1,449 例、転院 715 例、不変退院 2,440 例であった。

D. 考察

平成 30 年度 1 月のリリース以降機能改善を続け、現時点で当データプラットフォームは初回治療情報が 29,081 例、入院情報が 54,146 例、生存情報（対象数）が 25,000 例以上の規模まで拡充している。

機能改善は主に、レジストリ登録項目の修正・追加、登録者の負荷軽減を目的としたアップロード機能やコピー機能の拡充、自施設データダウンロード機能である。効率的なデータ収集とともに、各施設でのデータ利用をシステム改善により促進した。これら取り組みは、既に構築していた肝癌研究会による肝癌登録との連携や、常にアップデート可能な NCD システムでのプラットフォーム構築という特性とかけ合わせ、高い悉皆性といった優位性が継続しやすい設計となっていると考えられる。

データの質という点では、登録されたデータの質を検証することも重要である。NCD に参画する各領域ではこれまでデータの質に関して様々な取り組みが行われてきた⁸⁻¹¹⁾。本研究で集められたデータについても、検証活動を行うことによって登録データの悉皆性や正確性といったデータの質担保が期待される。

また令和 2 年度以降は実際に収集データを活用し、肝癌・肝硬変症例の背景肝疾患に応じた記述統計を行うことで、肝癌肝硬変の実態把握およびプラットフォームの有用性の検証を行った。研究成果として、1 本の論文が査読付き国際英文誌にアクセプトされている。これまでも肝癌及び肝硬変の初回治療に関する集計は他の研究でも行われているが、大規模かつ悉皆性の高いデータを用いたことは本研究の大きな特徴であり、肝癌・肝硬変の現状及び経時的に状況を把握する

ために重要な情報となるものである。これらの情報を活用することで肝臓・肝硬変に関する臨床へのエビデンスの創出および政策提言などが可能となることが期待される。

E. 結論

本研究では肝臓・重度肝硬変システムの作成・改修ならびに、NCD で収集された肝臓・肝硬変症例データによる肝臓肝硬変の実態把握およびデータプラットフォームの有用性の検証を行った。効率的で悉皆性の高いデータ基盤として継続的に成長しており、我が国における肝臓・肝硬変の治療の実態把握に貢献することが可能である。今後入力データの質担保等についても検討することで臨床現場へのより質の高いエビデンスの創出および政策提言が可能となるものである。

長谷川 潔 東京大学医学部附属病院 肝胆膵外科・人工臓器移植外科 教授

- (1) 肝臓・非代償性肝硬変患者データベース構築にあたって、必要な項目の選定について討議すると共に自施設の症例登録を行った。
- (2) (全国肝臓追跡調査の結果および肝臓登録データの解析結果をベースとして、日本の肝臓に対する標準治療を推奨する趣旨で 2021 年に肝臓診療ガイドラインを策定した。
- (3) (肝切除術、TACE、アブレーションを受けた患者のデータを用いて、腫瘍径と腫瘍個数を用いた予後モデルを作成した。モデル結果は国際的な多施設コホートで外部検証を行い、新しい予後予測モデルは、肝細胞癌に対する切除および TACE 後の OS を予測する上で良好な結果を示した。
- (4) 初発の肝細胞癌治療後、再発に対して肝切除を受けた患者につき、背景肝因子、肝機能、腫瘍因子について人口動態解析を行なった。

江口 有一郎 佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター 客員研究員

平成 30 年 12 月より我が国では新たに肝炎ウイルスによる肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業が創設されたが、対象患者の認定基準や医療費の支援が実施されるにあたり複数の要件が存在することから、実際の運用にあたっては人的資源や担当者の経験・知識等の多寡等の理由によって、都道府県ごとに受け入れ体制の整備にばらつきが生じる懸念があった。本研究では、新規事業の円滑な開始および利用者や事業に関連する担当者らにとって利用しやすい事業設計のための検討を行い厚生労働省へ情報提供し、事業の開始後はさらに事業の利活用の促進を目指した研究を実施した。

2018 年度は 12 月からの事業立ち上げに向けて、まずは佐賀県の担当者や保健所職員、拠点病院や肝疾患専門医療機関の医師・看護師・事務職員、また肝炎医療コーディネーター等へ事業内容を説明し、事業の開始および利活用の促進に必要な情報や疑問点、関連文書や資料（マニュアルやポスター等）に関する意見を聴取した。得られた知見をもとに、厚生労働省健康局肝炎対策

推進室との検討会を複数回実施した。事業の要綱、実務上の取扱い、事業の運営マニュアル等の作成および修正を重ね、予定通り 12 月から新規事業を開始できた。

しかしながら、本制度の利用者数は佐賀県を含めて全国的に伸び悩んでいたため、2019 年度はその要因を明らかにし、対策について検討した。本制度の利用が進んでいる医療機関にヒアリング調査を行ない、その要因を検討した。それぞれの医療機関で独自に医事担当職員・肝疾患センター事務員・医師がそれぞれ「誰が・何をするか」を明確にした役割分担と連携を行っていた。また、佐賀県内の主な肝疾患専門医療機関に対して、2017 年 4 月から 2018 年 3 月までの 1 年間に事業の対象となる可能性がある患者数を調査したところ、1 年間で 1 月以上肝がん・重度肝硬変の治療で入院した患者のうち、制度の対象となる患者数は 9.3%以下であった。調査結果は厚生労働省から全国の拠点病院に共有され、佐賀県内の肝疾患専門医療機関へも共有した。また、少ないながらも一定数存在する対象者を、漏れなく制度の利用につなげるために、患者への制度の周知、医事担当職員の入院記録票作成業務の軽減、指定医療機関同士の連携などを目的としたツールの開発が必要と考えられた。

2019 年度からは、新型コロナウイルスが全国的に蔓延したこともあり、この様な感染症が流行している状況でも本制度に関する案内を行いやすくし、制度の認識率・利用率を向上できるような仕組みについて検討を開始した。令和 2 年度には本事業を周知するための案内動画を作成し、さらに令和 3 年度からの制度改正点を重点的に説明した動画も作成した。令和 3 年度にはこの動画コンテンツを希望する都道府県毎のバージョンに修正して各自治体に配布した。また、制度の利活用が進む中で、新たに制度申請のための手続きの難しさや、医療記録票の運用における課題が明らかとなったため、これらを改善するために、県・拠点病院・肝疾患センターで協働して佐賀県版医療記録票（手帳版）を作成した。

令和 4 年度から全国展開を念頭に佐賀県内で試験運用を開始したところ、佐賀大学医学部附属病院以外の指定医療機関でも年度開始早期から活用されていた。今後は佐賀県以外の多くの自治体でも取り入れていただき、本制度の利活用が促進されることが期待される。

吉治 仁志 奈良県立医科大学 消化器内科学教授

肝硬変の診療ガイドラインの作成ならびに肝硬変の合併症に関するエビデンス構築を目的とした多施設共同研究の推進

診療ガイドラインの作成

本研究分担者が委員長として、肝硬変に関連する最新の文献等を集積し、肝臓学会、消化器病学会合同で 2020 年に「肝硬変診療ガイドライン」を作成し、出版した。また、翌年には肝臓学会英文誌ならびに消化器病学会英文誌より日本の「肝硬変診療ガイドライン」を英文で発表した。

肝硬変の合併症に対するエビデンス構築

ガイドライン作成にあたり、非代償性肝硬変の合併症である腹水や筋萎縮ならびに肝性脳症を中止したエビデンスが不足していることが明らかとなった。このため、2025 年のガイドラ

イン改訂に向け、国内多施設で種々の肝硬変に関する臨床研究によるエビデンス構築を行い英文で発表した。

- ①水利尿薬反応例におけるループ利尿薬の肝・腎機能に与える影響に関する多施設共同研究 (UMIN000033223)
- ②利尿剤抵抗性の腹水患者における集学的治療の現状に関する多施設共同研究 (UMIN000025905)
- ③肝性脳症患者におけるリファキシミン長期投与の安全性に関する多施設共同研究 (UMIN00028637)
- ④慢性肝疾患患者における睡眠障害の検討
- ⑤肝性脳症の診断に用いる Stroop test の日本人の Cut off 値の検討 (UMIN000037003)
- ⑥消化器内科通院患者におけるアルコール使用障害に関する研究
- ⑦血小板低値の肝疾患患者における治療アルゴリズムの作成
- ⑧肝硬変患者における筋痙攣の検討

研究結果

肝硬変ガイドラインを国内外へ広く発信した。

また、上記の通り肝硬変の合併症に対するエビデンスを構築している。①に関しては多施設のデータ収集を行い、現在論文化を進めているところである。②—⑧に関しては、すでに論文化し広く海外へ発信している。

結論

2020年に「肝硬変診療ガイドライン」を発行し、さらに世界に向け英文でも発信した。さらに、肝硬変の合併症に対するエビデンス構築を着々と進めている。今後も、2025年に改訂される「肝硬変診療ガイドライン」に向けて、さらなるエビデンス構築を行い海外に向けて発信していく予定である。

国土 典宏 国立国際医療研究センター 理事長

(研究協力者)

山田 康秀 国立国際医療研究センター がん総合診療センター

浅岡 良成 国立国際医療研究センター がん総合診療センター

肝細胞癌は、多発・再発をきたす症例が多く、その都度適切な治療を行う必要がある。初発時、切除や局所療法が施行された後も再発を反復し、最終的に全身薬物療法が必要になる症例が多い。一方で、肝臓内にとどまる多発病変に対しては、薬物療法施行中の症例でも局所療法の併用や追加により、より大きな治療効果を得られることがある。「肝がん・重度肝硬変の治療に係るガイドラインの作成等に資する研究」研究では、複数回入院の臨床情報を収集することにより、肝がん・肝硬変治療の現状を把握することを目的としている。しかし薬物療法は外来で行われる症例も多

く、薬物療法情報の補完が必要と考えられた。本分担研究では、肝細胞癌薬物療法に関する情報を収集したレジストリを構築することを目的とした。

2015 年 4 月から 2023 年 1 月までの期間に全国 194 施設で薬物療法が開始された 4,825 症例、7,310 治療ラインの臨床情報が登録された。初回治療として薬物療法が施行されている症例は、20-30%であり、多くの症例では各種治療が行われた後の再発に対して薬物療法が導入されるという肝細胞癌治療の特徴を表していた。また薬物療法導入後も 10-20%程度で肝動脈塞栓術を中心とした局所治療が併用あるいは後治療として施行されており、各種治療を組み合わせる肝細胞癌のリアルワールドでの治療状況を反映していた。一方で、切除や穿刺焼灼療法は限られた症例のみで施行されていた。

今後、入院治療に関する診療情報と連携することで最適な薬物療法と局所療法の治療シーケンスを評価することが可能になると期待される。

A. 研究目的

肝硬変症例の多くは肝細胞癌を伴い、肝硬変マネジメント共に肝細胞癌に対するマネジメントも要求される。肝細胞癌は、多発・再発をきたす症例が多く、その都度適切な治療を行う必要がある。初発時、切除や局所療法が施行された後も再発を反復し、最終的に全身薬物療法が必要になる症例が多い。一方で、肝臓内にとどまる多発病変に対しては、薬物療法施行中の症例でも局所療法の併用や追加により、より大きな治療効果を得られることがある。肝硬変・肝細胞癌症例の予後を改善するためには状況に応じたトータルマネジメントを継続的に行っていくことが要求される。

進行肝細胞癌に対する薬物療法は 2008 年のソラフェニブ (SOR)から始まり、現在、一次治療としてソラフェニブ (SOR)、レンバチニブ (LEN)、アテゾリズマブ+ベバシズマブ併用療法 (AB) が選択可能で、二次治療としてレゴラフェニブ (REG)、ラムシルマブ (RAM)、カボザンチニブ (CAB)が承認されている。リアルワールドでは、肝細胞癌に対して、様々な薬物療法と切除、穿刺焼灼療法、肝動脈塞栓術を含んだ局所療法が組み合わされて行われている。

日本肝癌研究会による全国肝癌追跡調査では、年間 10,000 例の臨床情報が蓄積されている。2010 年からは National Clinical Database (NCD)プラットフォームのデータベースに入力されている。肝癌研究会全国追跡調査は、診断時および予後に関する詳細なデータが入力されているため、日本における肝癌治療の現状を知るために多大な貢献をしてきた。しかし、初回治療あるいは初回再発時の治療および予後が入力されているが、再発時の反復治療のデータに関しては収集されていないため、「肝がん・重度肝硬変の治療に係るガイドラインの作成等に資する研究」研究では、複数回入院の臨床情報を収集することにより、肝がん・肝硬変治療の現状を把握することを目的としていた。

薬物療法は外来で行われる症例も多く、薬物療法情報の補完が必要と考えられた。本分担研究では、肝細胞癌薬物療法に関する情報を収集したレジストリを構築し、入院治療に関する診療情報と連携することで最適な薬物療法と局所療法の治療シーケンスを評価することを目的とする。

B. 研究方法

肝細胞癌に対する薬物療法の実態を調べるため、診療記録を使用した後ろ向き、コホート、多施設共同研究を実施する。NCD 登録施設において、全国肝癌追跡調査のデータベースに登録された

症例のうち、研究対象期間に肝細胞癌に対する薬物療法を実施した患者を各施設の診療記録より抽出し、治療効果、治療期間、治療中止理由および二次治療、三次治療などの治療実態に関する情報を収集する。

以下の条件を満たす症例を研究対象とした。

1) 2010 年以降に NCD 登録施設病理診断あるいは画像診断により肝細胞癌と診断され全国肝癌追跡調査のデータベースに登録された者

2) 同施設で肝細胞癌に対して薬物療法が行われた者（薬物療法とは、具体的には、SOR、REG、LEN、RAM、AB、CAB による治療を指す）

診療記録より以下の情報を収集した。

1-1) 被験者背景（既存の全国肝癌追跡調査より流用）

- 人口統計学情報：生年月日、初発時年齢、性別

- 臨床診断日

- 施設名

1-2) 初発時身体所見（既存の全国肝癌追跡調査より流用）

- 身長・体重・Performance status

- 脳症

- 腹水

1-3) 初発時臨床検査（既存の全国肝癌追跡調査より流用）

- 血液検査

総ビリルビン、アルブミン、プロトロンビン時間（%、INR）、血小板数、AFP、AFP L3 分画、PIVKA-II、HBs 抗原、HBs 抗体、HBc 抗体、HCV 抗体

- 画像検査

主腫瘍最大径（肝内）、腫瘍数（肝内）、画像診断における門脈侵襲・肝静脈侵襲・胆管侵襲、腫瘍破裂、肝外転移（EHS）

1-4) 予後、生存確認日/死亡日、予後不明理由、死亡理由（既存の全国肝癌追跡調査より流用）

以下は治療ライン毎、本研究で新たに入力する項目。

2-1) 薬物療法情報

- 初回投与日

- 最終投与日または最終投与確認日、最終投与状況

- 治療ライン

- 前治療歴

- 投与薬物（SOR、REG、LEN、RAM、AB、CAB）

- 投与開始時用量

- 最良抗腫瘍効果（RECISTv1.1 および mRECIST による）

- 増悪の有無、増悪確認日

- 休薬、減量の有無、初回休薬あるいは減量日

- 初回休薬あるいは減量理由

- 治療中止理由

- 併用治療

- 後治療

2-2) 薬物療法開始時身体所見

- 体重・Performance status

- 脳症

- 腹水

2-3) 薬物療法開始時臨床検査

- 血液検査

総ビリルビン、アルブミン、プロトロンビン時間（%、INR）、血小板数、AFP、AFP L3 分画

- 画像検査

主腫瘍最大径（肝内）、腫瘍数（肝内）、画像診断における門脈侵襲・肝静脈侵襲・胆管侵襲、腫瘍破裂、肝外転移（EHS）

（倫理面への配慮）

本研究は、侵襲・介入を伴わない、臨床情報を用いた後ろ向き研究である。被験者から個別に同意を受けることは施設数・症例数の規模が大きく困難であるため、研究に関する事項を被験者に公開し、当該データを研究に使用すること等について被験者が拒否できる機会を保障することで同意に代えた。研究に関する事項の公開は、ホームページでの情報公開によって行い、研究責任者が問い合わせに対応した。

入力分担者は、NCD 上に構築されたプラットフォームに UMIN ID と INDICE PW を用いてログインした。適格性基準を満たした患者の診療記録から、研究で収集する情報の入力を行った。その際、カルテ ID との規則性を有さない方法にて匿名化コードが自動作成されるため、データベースには、個人を識別できる情報は一切登録されていない。

C. 研究結果

1. 登録症例数

参加 194 施設から、4,825 症例、7,310 治療ラインの情報が入力された。一次治療として、SOR1,876 症例、LEN2,286 症例、AB650 症例であった。一次と二次治療の症例数を表 1、三、四、五次治療の症例数を表 2 に示す。各治療対象の患者背景を表 3、経時的な一次治療導入薬剤の経時的な変化を図 1a に示す。

表 1 一次および二次治療の症例数

一次治療					
SOR		LEN		AB	
1,876		2,286		650	
二次治療					
LEN	236	SOR	409	SOR	15
AB	24	AB	297	LEN	149
REG	230	REG	22	REG	3
RAM	10	RAM	118	RAM	10
CAB	2	CAB	18	CAB	4

表2 二、三次治療の症例数

	二次治療	三次治療
SOR	433	75
LEN	395	163
AB	321	104
REG	255	140
RAM	139	88
CAB	24	57

表3 一次治療時患者背景

	SOR (N=1,876)	LEN (N=2,286)	ATZ+BEV (N=650)
年齢中央値 (IQR)-歳	72 (65-78)	74 (68-79)	74 (69-80)
男性 (%)	1506 (80)	1808 (79)	509 (78)
Child-Pugh 分類(%)	1255(73)/445(26)/24(1)	1716(81)/392(18)/23(1)	511(83)/101(16)/4(1)
A/B/C			
Modified ALBI (%)	560(30)/472(25)/727(39)	788(35)/599(26)/805(36)	226(35)/180(28)/219(34)
1/2a/2b/3	/104(6)	/74(3)	/20(3)
AFP $\geq$ 400(%)	654 (36)	637 (29)	176 (28)
PIVKA-II $\geq$ 400 (%)	913 (52)	1015 (47)	298 (48)
AFP-L3 $\geq$ 15% (%)	555 (64)	1558 (71)	443 (72)
肝外転移、脈管侵襲なし (%)	745 (44)	606 (60)	172 (61)
脈管侵襲あり (%)	407 (24)	404 (19)	150 (25)
肝外転移あり (%)	821 (45)	703 (31)	192 (30)
前治療歴あり (%)	1654 (88)	1869 (82)	460 (71)

2. 一次治療の前治療・併用治療・後治療

薬物治療中に施行された他の治療を併用治療、薬物治療終了後、次の薬物療法が行われる前に施行された治療を後治療として、薬剤毎の治療を集計し、表に示す。

		有	開腹肝 切除	腹腔鏡 補助下 肝切除	腹腔鏡 下肝切 除	ラジオ 波	マイク 口波	肝動脈 塞栓術	放射線 療法	動注化 学療法
SOR (N=1876)	前治療	1654	620	26	72	406	15	1129	172	331
	(%)	88%	33%	1%	4%	22%	1%	60%	9%	18%
	併用治療	384	5	0	0	30	3	209	95	94
	(%)	20%	0%	0%	0%	2%	0%	11%	5%	5%

	後治療	502	6	1	2	24	3	220	82	132
	(%)	27%	0%	0%	0%	1%	0%	12%	4%	7%
LEN (N=2286)	前治療	1869	668	48	138	541	58	1258	131	288
	(%)	82%	29%	2%	6%	24%	3%	55%	6%	13%
	併用治療	414	20	0	3	28	5	260	86	67
	(%)	18%	1%	0%	0%	1%	0%	11%	4%	3%
	後治療	521	36	1	2	28	12	241	43	83
	(%)	23%	2%	0%	0%	1%	1%	11%	2%	4%
AB (N=650)	前治療	460	155	10	44	178	27	270	45	42
	(%)	71%	24%	2%	7%	27%	4%	42%	7%	6%
	併用治療	49	3	0	0	8	2	21	16	2
	(%)	8%	0%	0%	0%	1%	0%	3%	2%	0%
	後治療	106	11	0	2	10	2	33	8	17
	(%)	16%	2%	0%	0%	2%	0%	5%	1%	3%

3. 二次および三次治療の併用治療・後治療

二次および三次治療の併用治療・後治療に関して、薬剤毎の治療を集計し、表に示す。

		有	開腹肝切 除	腹腔鏡補 助下肝切 除	腹腔鏡下 肝切除	ラジオ波	マイクロ 波	肝動脈塞 栓術	放射線療 法	動注化学 療法
二次 SOR (N=433)	併用治療	36	0	0	0	0	0	18	12	6
	(%)	8%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	3%	1%
	後治療	89	0	0	0	1	0	35	10	20
	(%)	21%	0%	0%	0%	0%	0%	8%	2%	5%
二次 LEN (N=395)	併用治療	57	1	0	0	5	0	39	9	11
	(%)	14%	0%	0%	0%	1%	0%	10%	2%	3%
	後治療	76	1	0	0	3	1	27	13	17
	(%)	19%	0%	0%	0%	1%	0%	7%	3%	4%
二次 AB (N=321)	併用治療	19	0	0	0	5	1	10	6	1
	(%)	6%	0%	0%	0%	2%	0%	3%	2%	0%
	後治療	49	2	0	0	4	1	16	9	12
	(%)	15%	1%	0%	0%	1%	0%	5%	3%	4%
二次 REG (N=255)	併用治療	29	0	0	1	2	0	13	12	2
	(%)	11%	0%	0%	0%	1%	0%	5%	5%	1%
	後治療	50	1	0	0	2	0	18	17	7
	(%)	20%	0%	0%	0%	1%	0%	7%	7%	3%
二次 RAM (N=139)	併用治療	4	0	0	0	0	0	1	4	0
	(%)	3%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	3%	0%
	後治療	21	0	0	1	0	0	13	3	5
	(%)	15%	0%	0%	1%	0%	0%	9%	2%	4%

二次 CAB (N=24)	併用治療	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(%)	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	後治療	4	0	0	0	0	0	2	0	1
	(%)	17%	0%	0%	0%	0%	0%	8%	0%	4%
三次 SOR (N=75)	併用治療	7	0	0	0	0	0	2	3	1
	(%)	9%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	4%	1%
	後治療	8	0	0	0	0	0	2	1	2
	(%)	11%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	1%	3%
三次 LEN (N=163)	併用治療	28	0	0	0	2	0	13	8	11
	(%)	17%	0%	0%	0%	1%	0%	8%	5%	7%
	後治療	25	1	0	0	0	0	6	8	6
	(%)	15%	1%	0%	0%	0%	0%	4%	5%	4%
三次 AB (N=104)	併用治療	6	0	0	0	1	0	5	1	0
	(%)	6%	0%	0%	0%	1%	0%	5%	1%	0%
	後治療	12	0	0	0	1	0	6	1	4
	(%)	12%	0%	0%	0%	1%	0%	6%	1%	4%
三次 REG (N=140)	併用治療	4	0	0	0	0	0	3	0	0
	(%)	3%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	0%
	後治療	25	1	0	0	0	1	9	3	4
	(%)	18%	1%	0%	0%	0%	1%	6%	2%	3%
三次 RAM (N=88)	併用治療	8	0	0	0	1	0	5	2	0
	(%)	9%	0%	0%	0%	1%	0%	6%	2%	0%
	後治療	10	0	0	0	0	0	4	4	2
	(%)	11%	0%	0%	0%	0%	0%	5%	5%	2%
三次 CAB (N=57)	併用治療	4	0	0	0	0	0	0	2	0
	(%)	7%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	4%	0%
	後治療	7	0	0	0	0	0	5	0	1
	(%)	12%	0%	0%	0%	0%	0%	9%	0%	2%

D. 考察

1. 登録症例数

4,825 例の薬物療法データが収集されている。過去の報告と比較しても類をみない多数の症例が登録されている。SOR、LEN、AB の患者背景では、年齢中央値が 72、74 歳、性別では男性の比率が 80、79、78%とほぼ同様であった。一方で、肝予備能は、SOR 群で良好な症例の割合が低かった。腫瘍条件においても腫瘍マーカー高値や肝外転移症例が SOR 群で多かった。

2. 一次治療の前治療・併用治療・後治療

前治療に関しては、SOR で 88%、LEN で 82%、AB では 71%と低下していた。肝動脈塞栓術が SOR 60%、LEN 55%、AB 42%、動注化学療法が SOR 18%、LEN 13%、AB 6%となっており、肝動脈塞栓術や動注化学療法が用いられていた症例で初回治療から薬物療法が導入される症例の割合が増

加していることが示唆された。SOR、LEN いずれも併用治療・後治療が 20%程度で施行されており、10%前後が肝動脈塞栓術となっていた。AB では、治療開始時期が最近であることも関連している可能性があるが、肝動脈塞栓術を中心とした併用治療・後治療の施行機会が減少していることが示唆された。

3. 二次および三次治療の併用治療・後治療

二次治療では、併用治療が 0-14%、後治療が 15-21%で施行され、肝動脈塞栓術を中心に放射線治療、肝動注療法が施行されていた。三次治療も同様の傾向であり、併用療法で 3-17%、後治療で 11-18%に施行されていた。切除や穿刺焼灼療法はごく限られた症例のみに施行されていた。

E. 結論

2015 年 4 月から 2023 年 1 月までの期間に全国 194 施設で薬物療法が開始された 4,825 症例、7,310 治療ラインの肝癌薬物療法の臨床情報が登録された。初回治療として薬物療法が施行されている症例は、20-30%であり、多くの症例では各種治療が行われた後の再発に対して薬物療法が導入されるという肝細胞癌治療の特徴を表していた。また薬物療法導入後も 10-20%程度で肝動脈塞栓術を中心とした局所治療が併用あるいは後治療として施行されており、各種治療を組み合わせる肝細胞癌のリアルワールドでの治療状況を反映していた。一方で、切除や穿刺焼灼療法は限られた症例のみで施行されていた。

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
泉 並木	HCV 抗体が毎年陽性になります		NHK テキストきょうの健康	NHK出版	東京	2022	106
泉 並木	HCV 撲滅に向けた地域・院内における取組	泉 並木	肝臓クリニカルアップデート	医学図書出版	東京	2022	93-100
泉 並木	肝胆膵疾患の診療の進歩と留意点	泉 並木	今さら聞けない肝胆膵疾患	医学書院	東京	2021	390-393
泉 並木	B 型肝炎ウイルスのキャリアといわれました		きょうの健康	NHK出版	東京	2020	115
泉 並木	総チェック！肝臓の病気 肝機能大丈夫？		きょうの健康	NHK出版	東京	2020	90-97
鳥村拓司, 長谷川 潔, 泉 並木, 工藤正俊	肝臓に対する根治的治療をどう使い分けるかー切除 vs 局所療法	一般社団法人 日本肝臓学会	肝臓診療マニュアル 第4版	医学書院	東京	2020	207-208
今井康陽, 工藤正俊, 泉 並木, 村上卓道, 熊田 卓	乏血性肝細胞性結節（異型結節、早期肝臓）の自然経過と治療適応	一般社団法人 日本肝臓学会	肝臓診療マニュアル 第4版	医学書院	東京	2020	84-87
斎藤 聡, 今井康陽, 村上卓道, 工藤正俊	どのようなときにGd-EOB-MRI-DTPA造影MRIを行うか	一般社団法人 日本肝臓学会	肝臓診療マニュアル 第4版	医学書院	東京	2020	58-61
麻生和信, 斎藤 聡, 飯島尋子, 工藤正俊	どのようなときに造影超音波を行うか	一般社団法人 日本肝臓学会	肝臓診療マニュアル 第4版	医学書院	東京	2020	65-71
豊田秀徳, 工藤正俊, 今井康陽, 中島 収, 坂元亨宇, 松井 修	早期肝臓の画像的特徴	一般社団法人 日本肝臓学会	肝臓診療マニュアル 第4版	医学書院	東京	2020	71-74

斎藤 聡, 近藤福雄, 工藤正俊, 中島 収, 坂元亨宇, 松井 修	肝細胞癌とその類似疾患の 分子病理学的分類と画像所 見	一般社団 法人 日本肝臓 学会	肝臓診療マニ ュアル 第4版	医学書院	東京	2020	75-81
平岡 淳, 工藤正俊	肝臓診療のための肝予備能 評価とステージングシステ ム	一般社団 法人 日本肝臓 学会	肝臓診療マニ ュアル 第4版	医学書院	東京	2020	94-99
工藤正俊, 森口理久, 池田公史	分子標的薬と免疫療法の動 向	一般社団 法人 日本肝臓 学会	肝臓診療マニ ュアル 第4版	医学書院	東京	2020	184-189
永野浩昭, 調 憲,工 藤正俊	肝臓病変に対する治療	一般社団 法人 日本肝臓 学会	肝臓診療マニ ュアル 第4版	医学書院	東京	2020	203-206
工藤正俊, 山下竜也, 森口理久, 池田公史, 小笠原定	TACE 不適の概念と TACE 不適 intermediate stage 肝臓 の治療方針	一般社団 法人 日本肝臓 学会	肝臓診療マニ ュアル 第4版	医学書院	東京	2020	212-218
工藤正俊, 高山忠利, 泉 並木, 村上卓道, 國土典宏	肝臓全体の治療アルゴリズム	一般社団 法人 日本肝臓 学会	肝臓診療マニ ュアル 第4版	医学書院	東京	2020	223-226
黒崎雅之, 工藤正俊, 金子周一	肝臓 RFA 後のフォローア ップの要点	一般社団 法人 日本肝臓 学会	肝臓診療マニ ュアル 第4版	医学書院	東京	2020	251-253
工藤正俊, 金子周一, 泉 並木	肝臓根治後の再発抑制治療 (進行中の臨床試験も含め て)	一般社団 法人 日本肝臓 学会	肝臓診療マニ ュアル 第4版	医学書院	東京	2020	257-259
有泉俊一, 山本雅一, 工藤正俊	再発癌に対する治療法の選 択	一般社団 法人 日本肝臓 学会	肝臓診療マニ ュアル 第4版	医学書院	東京	2020	260-263
工藤正俊	序文	工藤正俊	ラムシルマブ による肝細胞 癌治療	アークメ ディア	東京	2020	3-9

工藤正俊, 室圭, 池田公史, 森口理久, 上嶋一臣, 小笠原定久	特別座談会; 肝細胞癌治療 の新たな選択肢ラムシルマ ブを徹底解剖する	工藤正俊	ラムシルマブ による肝細胞 癌治療	アークメ ディア	東京	2020	17-40
青木智子, 上嶋一臣, 工藤正俊	REACH(AFP>400ng/mL)と REACH-2 のデータの違い の解釈	工藤正俊	ラムシルマブ による肝細胞 癌治療	アークメ ディア	東京	2020	64-70
南 康範, 工藤正俊	日本人に対するラムシルマ ブの有効性と安全性	工藤正俊	ラムシルマブ による肝細胞 癌治療	アークメ ディア	東京	2020	78-81
工藤正俊	AFP は予後予測因子か予後 規定因子か	工藤正俊	ラムシルマブ による肝細胞 癌治療	アークメ ディア	東京	2020	95-100
工藤正俊	TKI と抗体薬の作用機序の 違いはラムシルマブ治療に おいてどのようなインパクト が期待できるか	工藤正俊	ラムシルマブ による肝細胞 癌治療	アークメ ディア	東京	2020	101-110
小川 力, 工藤正俊	レンバチニブの二次治療と してラムシルマブは効果が 期待できるか	工藤正俊	ラムシルマブ による肝細胞 癌治療	アークメ ディア	東京	2020	119-123
上嶋一臣, 工藤正俊	肝細胞癌におけるラムシル マブの有害事象とその対策	工藤正俊	ラムシルマブ による肝細胞 癌治療	アークメ ディア	東京	2020	124-129
小川 力, 筒井朱美, 永野拓也, 高口浩一, 谷 丈二, 森下朝洋, 正木 勉, 守屋昭男, 出口章広, 工藤正俊	香川県下におけるラムシル マブの初期使用経験	工藤正俊	ラムシルマブ による肝細胞 癌治療	アークメ ディア	東京	2020	211-215
田 中 肖 吾、久保 正二	高齢消化器患者の ADL や 栄養の評価を実践できる	白 石 憲 男、上田 貴威	高齢者に対す る消化器外科 の minimal requirements	メジカル ビュー社	東京	2022	22-34

田 中 肖 吾、竹村 茂一、新 川寛二、 天 野 良 亮、 <u>久保 正二</u>	術後（外傷後）肝不全		肝・胆道系症 候群（第3版） I 肝臓編（上）	日本臨牀 社	東京	2021	225-228
竹 村 茂 一、 <u>久保 正二</u>	肝内門脈瘤		肝・胆道系症 候群（第3版） I 肝臓編（上）	日本臨牀 社	東京	2021	283-287
新 川 寛 二、 <u>久保 正二</u>	右肝切除（1）授動先行を 採用する立場から（開腹 下）	新田浩幸	ディベートか ら学ぶ手技の 選 択 と 秘 訣 「肝臓篇」	メジカル ビュー社	東京	2021	73-82
<u>久 保 正 二</u> 、笠原 群生	肝移植	日本移植 学会	臓器移植後妊 娠・出産ガイ ドライン2021	星雲社	東京	2021	67-74
肝内胆管 癌ガイド ライン診 療ガイド ライン作 成委員会 (<u>久保正 二</u>)	全世界における肝内胆管癌 の罹患率の変動と地域特 性、肝内胆管癌発生の危険 因子	肝内胆管 癌ガイド ライン診 療ガイド ライン作 成委員会	肝内胆管癌診 療ガイドライ ン2021年版	金原出版	東京	2020	16-21
<u>久保正二</u>	ウイルス性疾患に対する患 者管理と医療者対策	日本消化 器外科学 会	消化器外科専 門医の心得	杏林舎	東京	2019	41-44
田 中 肖 吾、 <u>久保 正二</u>	左葉切除	肝臓内視 鏡外科研 究会	腹腔鏡下肝切 除術ガイド	南山堂	東京	2019	99-105
島 田 光 生、 <u>久保 正二</u> 、國 土典宏、 高山忠利	肝癌治療の実際・肝切除術： 総論	日本肝臓 学会	肝癌診療マニ ュアル第4版	医学書院	東京	2019	100-105
<u>久 保 正 二</u> 、金子 弘真	肝癌治療の実際・肝切除術： 腹腔鏡下肝切除術	日本肝臓 学会	肝癌診療マニ ュアル第4版	医学書院	東京	2019	109-111
<u>建石良介</u> 、 <u>工藤正俊</u> 、 <u>泉 並 木</u> 、 <u>村上卓道</u>	肝細胞癌の診断アルゴリズム	一般社団 法人 日本肝臓 学会	肝癌診療マニ ュアル 第4版	医学書院	東京	2020	82-84
<u>建石良介</u>	第1章 肝癌発癌機序・疫学 とハイリスク患者の設定 第3章 肝発癌予防	日本肝臓 学会	肝癌診療マニ ュアル	医学書院	東京	2020	

<u>Tateishi R,</u> <u>Fujiwara</u> <u>N.</u>	Precision Locoregional Therapies for Hepatocellular Carcinoma: Percutaneous Ablation and Radiotherapy.	Hoshida Y	Hepatocellular Carcinoma: Translational Precision Medicine	Springer	スイス	2019	
<u>建石良介</u>	V 肝・胆・膵疾患 8.肝癌	門脇孝、 小室一 成、宮地 良樹	日常診療に活 かす診療ガイ ドライン UP- TO-DATA 2018-2019	メディカ ルレビュー ー社	東京	2018	343-348
真木治 文、赤松 延久、 <u>長</u> <u>谷川潔</u>	【専門医のための消化器病 学】肝癌に対する肝移植基 準の拡大	木下芳 一、金子 周一、檜 田博史、 村上和 成、安藤 朗、糸井 隆夫	専門医のため の消化器病学 第3版	医学書院	東京	2021	480-482
宮田明 典、河口 義邦、 <u>長</u> <u>谷川潔</u>	【肝疾患】転移性肝癌・肝細 胞癌	中島 淳	最新ガイドラ インに基づく 消化器疾患 診療指針 2023-24	総合医学 社	東京	2023	283-293
真木治文、 赤松延 久、 <u>長</u> <u>谷川潔</u>	肝癌に対する肝移植基準の 拡大	(監修)下 瀬川徹、 渡辺守 (編集)木 下芳一、 金子周 一、檜 田博史、 村上和 成、安藤 朗、糸井 隆夫	専門医のため の消化器病学 第3版	医学書院	東京	2021	480-482
鳥村拓司、 <u>長谷川</u> <u>潔</u> 、 <u>泉並</u> <u>木</u> 、 <u>工藤</u> <u>正俊</u>	肝癌に対する根治的治療を どう使い分けるかー切除 vs 局所療法	一般社団 法人 日本肝臓 学会	肝癌診療マニ ュアル 第4版	医学書院	東京	2020	207-208
<u>長谷川</u> <u>潔</u> 、竹村 信行、國 土典宏	各分野のガイドラインを紐 解く 肝癌診療ガイドライ ン(解説)	日本外科 学会	日本外科学会 雑誌121巻3号	日本外科 学会	東京	2020	356-358
竹村信行、 <u>長谷川</u> <u>潔</u> 、國土 典宏	【消化器悪性腫瘍診療にお けるガイドラインの功罪】 肝癌診療におけるガイドラ インの功罪(解説/特集)	臨床雑誌 『外科』 編集委員 会	外科82巻6号	南江堂	東京	2020	629-634

島村拓司、長谷川潔、狩山和也、中野聖士、居村景、片山和宏、上村顕也、山下竜也	【肝癌治療ガイドライン2017を再検証する】	日本肝臓学会	肝臓 61巻6号	日本肝臓学会	東京	2020	285-308
鍛治孝祐、吉治仁志	非代償性肝硬変に対する薬物治療（再生・抗ウイルス治療を除く）	竹原徹郎	最新主要文献とガイドラインでみる消化器内科学レビュー2022-'23	総合医学社	東京	2022	208-212
吉治仁志	肝細胞癌に対する最新の薬物療法	吉治仁志	日本消化器病学会雑誌119巻5号	日本消化器病学会	東京	2022	389-402
吉治仁志	消化器医のためのアルコール臓器障害診療マニュアルー減酒療法のススメ	吉治仁志	消化器医のためのアルコール臓器障害診療マニュアルー減酒療法のススメ	南江堂	東京	2022	1-168
吉治仁志	肝硬変診療ガイドライン2020	吉治仁志	肝硬変診療ガイドライン	南江堂	東京	2020	1-166

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Nakatsuka T, <u>Tateishi R</u> , Nakagomi R, Minami T, <u>Koike K</u> .	Risk stratification of hepatocellular carcinoma after hepatitis C virus eradication in patients with compensated advanced chronic liver disease in Japan.	J Hepatol	77(2)	569-571	2022
Fukumoto T, Minami T, Moriyama M, Yamada T, Wake T, Kinoshita MN, Fujiwara N, Nakagomi R, Nakatsuka T, Sato M, Enooku K, Nakagawa H, Fujishiro M, Shiina S, <u>Koike K</u> , <u>Tateishi R</u> .	Improved prognosis of hepatitis C-related hepatocellular carcinoma in the era of direct-acting antivirals.	Hepatol Commun	6(9)	2496-2512	2022

Okushin K, <u>Tateishi R</u> , Takahashi A, Uchino K, Nakagomi R, Nakatsuka T, Minami T, Sato M, Fujishiro M, Hasegawa K, Eguchi Y, Kanto T, Kubo S, Yoshiji H, Miyata H, Izumi N, Kudo M, <u>Koike K</u> .	Current status of primary liver cancer and decompensated cirrhosis in Japan: launch of a nationwide registry for advanced liver diseases (REAL).	J Gastroenterol	57(8)	587-597	2022
Takayama T, Hasegawa K, Izumi N, Kudo M, Shimada M, Yamanaka N, Inomata M, Kaneko S, Nakayama H, Kawaguchi Y, Kashiwabara K, <u>Tateishi R</u> , Shiina S, <u>Koike K</u> , Matsuyama Y, Omata M, Makuuchi M, Kokudo N.	Surgery versus Radiofrequency Ablation for Small Hepatocellular Carcinoma: A Randomized Controlled Trial (SURF Trial).	Liver Cancer	11(3)	209-218	2022
Nakatsuka T, <u>Tateishi R</u> , Nakagomi R, Minami T, <u>Koike K</u> .	Risk stratification of hepatocellular carcinoma after hepatitis C virus eradication in patients with compensated advanced chronic liver disease in Japan.	J Hepatol	77(2)	569-571	2022
Nakatsuka T, <u>Tateishi R</u> , Nakagomi R, Minami T, <u>Koike K</u> .	Risk Stratification of Hepatocellular Carcinoma after Hepatitis C Virus Eradication in Patients with Compensated Advanced Chronic Liver Disease in Japan.	J Hepatol	77(2)	569-571 Epub:2022/03/16 doi: 10.1016/j.jhep.2022.03.002	2022
Sato M, Kobayashi T, Soroida Y, Tanaka T, Nakatsuka T, Nakagawa H, Nakamura A, Kurihara M, Endo M, Hikita H, Sato M, Gotoh H, Iwai T, <u>Tateishi R</u> , <u>Koike K</u> , Yatomiyama Y.	Development of Novel Deep Multimodal Representation Learning-Based Model for the Differentiation of Liver Tumors on B-Mode Ultrasound Images.	J Gastroenterol Hepatol	37(4)	678-84 Epub:2021/12/16 doi: 10.1111/jgh.15763	2022
Nakatsuka T, <u>Tateishi R</u> , <u>Koike K</u> .	Changing Clinical Management of Nafld in Asia.	Liver Int	42(9)	1955-1968 Epub:2021/08/31 doi: 10.1111/liv.15046	2022
Nakagomi R, <u>Tateishi R</u> , Mikami S, Wake T, Kinoshita MN, Nakatsuka T, Minami T, Sato M, Uchino K, Enooku K, Nakagawa H, Asaoka Y, Shiina S, <u>Koike K</u> .	Infectious Complications Related to Radiofrequency Ablation of Liver Tumors: The Role of Antibiotics.	PLoS One	16(11)	e0259641 Epub:2021/11/20 doi: 10.1371/journal.pone.0259641	2021

Kurokawa R, Inui S, Tanishima T, Nakaya M, Kurokawa M, Ishida M, Gono W, Amemiya S, Nakai Y, Ishigaki K, <u>Tateishi R</u> , <u>Koike K</u> , Abe O.	Incidence and Computed Tomography Findings of Lenvatinib-Induced Pancreatobiliary Inflammation: A Single-Center, Retrospective Study.	Medicine (Baltimore)	100(35)	e27182 Epub:2021/09/04 doi: 10.1097/MD.00000000000027182	2021
Minami T, <u>Tateishi R</u> , Fujiwara N, Nakagomi R, Nakatsuka T, Sato M, Uchino K, Enooku K, Nakagawa H, Fujinaga H, Izumiya M, Hanajiri K, Asaoka Y, Kondo Y, Tanaka Y, Otsuka M, Ohki T, Arai M, Tanaka A, Yasuda K, Miura H, Ogata I, Kamoshida T, Inoue K, Koike Y, Akamatsu M, Mitsui H, Fujie H, Ogura K, Yoshida H, Wada T, Kurai K, Maekawa H, Obi S, Teratani T, Masaki N, Nagashima K, Ishikawa T, Kato N, Moriya K, Yotsuyanagi H, <u>Koike K</u> .	Impact of Obesity and Heavy Alcohol Consumption on Hepatocellular Carcinoma Development after Hcv Eradication with Antivirals.	Liver Cancer	10(4)	309-19 Epub:2021/08/21 doi: 10.1159/000513705	2021
Yamada T, Minami T, <u>Tateishi R</u> , <u>Koike K</u> .	Limited Efficacy of Atezolizumab and Bevacizumab for Hepatocellular Carcinoma Previously Treated with Tyrosine Kinase Inhibitor.	Liver Int	41(9)	2233-34 pub:2021/07/22 doi: 10.1111/liv.15010	2021
Hangai S, Kawamura T, Kimura Y, Chang CY, Hibino S, Yamamoto D, Nakai Y, <u>Tateishi R</u> , Oshima M, Oshima H, Kodama T, Moriya K, <u>Koike K</u> , Yanai H, Taniguchi T.	Orchestration of Myeloid-Derived Suppressor Cells in the Tumor Microenvironment by Ubiquitous Cellular Protein Tctp Released by Tumor Cells.	Nat Immunol	22(8)	947-57 Epub:2021/07/10 doi: 10.1038/s41590-021-00967-5	2021
Nakatsuka T, Nakagawa H, Hayata Y, Wake T, Yamada T, Nishibatake Kinoshita M, Nakagomi R, Sato M, Minami T, Uchino K, Enooku K, Kudo Y, Tanaka Y, Kishikawa T, Otsuka M, <u>Tateishi R</u> , <u>Koike K</u> .	Post-Treatment Cell-Free DNA as a Predictive Biomarker in Molecular-Targeted Therapy of Hepatocellular Carcinoma.	J Gastroenterol	56(5)	456-69 Epub:2021/03/14 doi: 10.1007/s00535-021-01773-4	2021
Uchino K, <u>Tateishi R</u> , Wake T, Kinoshita MN,	Radiofrequency Ablation of Liver	J Vasc Interv Radiol	32(6)	869-77 Epub:2021/03	2021

Nakagomi R, Nakatsuka T, Minami T, Sato M, Enooku K, Nakagawa H, Shiina S, <u>Koike K.</u>	Tumors in Patients on Antithrombotic Therapy: A Case-Control Analysis of over 10,000 Treatments.			/11 doi: 10.1016/j.jvir. 2021.02.021	
<u>Tateishi R</u> , Matsumura T, Okanoue T, Shima T, Uchino K, Fujiwara N, Senokuchi T, Kon K, Sasako T, Taniai M, Kawaguchi T, Inoue H, Watada H, Kubota N, Shimano H, Kaneko S, Hashimoto E, Watanabe S, Shiota G, Ueki K, Kashiwabara K, Matsuyama Y, Tanaka H, Kasuga M, Araki E, <u>Koike K</u> , investigators Ls	Hepatocellular carcinoma development in diabetic patients: a nationwide survey in Japan.	J Gastroenterol	56	261-273	2021
Sato M, <u>Tateishi R</u> , Yatomi Y, <u>Koike K.</u>	Artificial intelligence in the diagnosis and management of hepatocellular carcinoma.	J Gastroenterol Hepatol	36	551-560	2021
<u>建石 良介</u> , <u>小池 和彦</u> .	クラウドを基盤としたガイドライン支援システムの開発と実装	肝臓	62(8)	512-15	2021
Yamada T, <u>Tateishi R</u> , Iwai M, <u>Koike K</u> , Todo T.	Neoadjuvant Use of Oncolytic Herpes Virus G47Delta Enhances the Antitumor Efficacy of Radiofrequency Ablation.	Mol Ther Oncolytics	18	535-545	2020
Wake T, <u>Tateishi R</u> , Fukumoto T, Nakagomi R, Kinoshita MN, Nakatsuka T, Sato M, Minami T, Uchino K, Enooku K, Nakagawa H, Fujinaga H, Asaoka Y, Tanaka Y, Otsuka M, <u>Koike K.</u>	Improved liver function in patients with cirrhosis due to chronic hepatitis C virus who achieve sustained virologic response is not accompanied by increased liver volume.	PLoS One	15	e0231836	2020
Ishigaki K, Hamada T, Nakai Y, Ishigaki Y, Oyama H, Kanai S, Suzuki T, Nakamura T, Sato T, Hakuta R, Saito K, Saito T, Takahara N, Mizuno S, Kogure H, <u>Tateishi R</u> , Tada M, <u>Koike K.</u>	Lenvatinib-induced acute acalculous cholecystitis in a patient with hepatocellular carcinoma.	Clin J Gastroenterol	568-571	13	2020
Fukumoto T, Minami T, <u>Tateishi R</u> , <u>Koike K.</u>	Chronological change in alpha-fetoprotein levels in hepatocellular	Liver Int	40	2305-2306	2020

	carcinoma after eradication of hepatitis C virus.				
Asaoka Y, <u>Tateishi R</u> , Hayashi A, Ushiku T, Shibahara J, Kinoshita J, Ouchi Y, Koike M, Fukayama M, Shiina S, <u>Koike K</u> .	Expression of c-Met in Primary and Recurrent Hepatocellular Carcinoma.	Oncology	98	186-194	2020
<u>Tateishi R</u> , <u>Koike K</u> .	Changing etiology of hepatocellular carcinoma.	J Gastroenterol	55(1)	125-126	2020
Wake T, <u>Tateishi R</u> , Nakagomi R, Fujiwara N, Kinoshita MN, Nakatsuka T, Sato M, Minami T, Uchino K, Enooku K, Nakagawa H, Asaoka Y, Tanaka Y, Shiina S, <u>Koike K</u> .	Ischemic complications after percutaneous radiofrequency ablation of liver tumors: Liver volume loss and recovery.	Hepatol Res	49(4)	453-461	2019
<u>Tateishi R</u> , Uchino K, Fujiwara N, Takehara T, Okanoue T, Seike M, Yoshiji H, Yatsushashi H, Shimizu M, Torimura T, Moriyama M, Sakaida I, Okada H, Chiba T, Chuma M, Nakao K, Isomoto H, Sasaki Y, Kaneko S, Masaki T, Chayama K, <u>Koike K</u> .	A nationwide survey on non-B, non-C hepatocellular carcinoma in Japan: 2011-2015 update.	J Gastroenterol	54(4)	367-376	2019
Sato M, Morimoto K, Kajihara S, <u>Tateishi R</u> , Shiina S, <u>Koike K</u> , Yatomi Y.	Machine-learning Approach for the Development of a Novel Predictive Model for the Diagnosis of Hepatocellular Carcinoma.	Sci Rep	9(1)	7704	2019
Kado A, Tsutsumi T, Enooku K, Fujinaga H, Ikeuchi K, Okushin K, Moriya K, Yotsuyanagi H, <u>Koike K</u>	Noninvasive diagnostic criteria for nonalcoholic steatohepatitis based on gene expression levels in peripheral blood mononuclear cells.	J Gastroenterol	54(8)	730-741	2019
Muto Y, Moroishi T, Ichihara K, Nishiyama M, Shimizu H, Eguchi H, Moriya K, <u>Koike K</u> , Mimori K, Mori M, Katayama Y, Nakayama KI	Disruption of FBXL5-mediated cellular iron homeostasis promotes liver carcinogenesis.	J Exp Med	216(4)	950-965	2019
Nakagomi R, <u>Tateishi R</u> , Masuzaki R, Soroida Y, Iwai T, Kondo M, Fujiwara N, Sato M,	Liver stiffness measurements in chronic hepatitis C: Treatment evaluation	J Gastroenterol Hepatol	34(5)	921-928	2019

Minami T, Uchino K, Enooku K, Nakagawa H, Asaoka Y, Kondo Y, Tanaka Y, Otsuka M, Kato N, Moriya K, Ikeda H, <u>Koike K</u>	and risk assessment.				
Nakatsuka T, Soroida Y, Nakagawa H, Shindo T, Sato M, Soma K, Nakagomi R, Kobayashi T, Endo M, Hikita H, Sato M, Gotoh H, Iwai T, Yasui M, Shinozaki-Ushiku A, Shiraga K, Asakai H, Hirata Y, Fukayama M, Ikeda H, Yatomu Y, <u>Tateishi R</u> , Inuzuka R, <u>Koike K</u>	Identification of liver fibrosis using the hepatic vein waveform in patients with Fontan circulation.	Hepatol Res	49(3)	304-313	2019
Nishibatake Kinoshita M, Minami T, <u>Tateishi R</u> , Wake T, Nakagomi R, Fujiwara N, Sato M, Uchino K, Enooku K, Nakagawa H, Asaoka Y, Shiina S, <u>Koike K</u>	Impact of direct-acting antivirals on early recurrence of HCV-related HCC: Comparison with interferon-based therapy.	J Hepatol	70(1)	78-86	2019
Fujiwara H, Tateishi K, Kato H, Nakatsuka T, Yamamoto K, Tanaka Y, Ijichi H, Takahara N, Mizuno S, Kogure H, Matsubara S, Nakai Y, <u>Koike K</u>	Isocitrate dehydrogenase 1 mutation sensitizes intrahepatic cholangiocarcinoma to the BET inhibitor JQ1.	Cancer Sci	109(11)	3602-3610	2018
Nakagawa H, Hayata Y, Kawamura S, Yamada T, Fujiwara N, <u>Koike K</u>	Lipid Metabolic Reprogramming in Hepatocellular Carcinoma.	Cancers (Basel)	10(11)		2018
Okushin K, Tsutsumi T, Ikeuchi K, Kado A, Enooku K, Fujinaga H, Moriya K, Yotsuyanagi H, <u>Koike K</u>	Helicobacter pylori infection and liver diseases: Epidemiology and insights into pathogenesis.	World J Gastroenterol	24(32)	3617-3625	2018
Sawai H, Nishida N, Khor SS, Honda M, Sugiyama M, Baba N, Yamada K, Sawada N, Tsugane S, <u>Koike K</u> , Kondo Y, Yatsuhashi H, Nagaoka S, Taketomi A, Fukai M, Kurosaki M, Izumi N, Kang JH, Murata K, Hino K, Nishina S, Matsumoto A, Tanaka E, Sakamoto N, Ogawa K, Yamamoto K, Tamori A, Yokosuka O,	Genome-wide association study identified new susceptible genetic variants in HLA class I region for hepatitis B virus-related hepatocellular carcinoma.	Sci Rep	8(1)	7958	2018

Kanda T, Sakaida I, Itoh Y, Eguchi Y, Oeda S, Mochida S, Yuen MF, Seto WK, Poovorawan Y, Posuwan N, Mizokami M, Tokunaga K					
Sekiba K, Otsuka M, Ohno M, Kishikawa T, Yamagami M, Suzuki T, Ishibashi R, Seimiya T, Tanaka E, <u>Koike K</u>	DHX9 regulates production of hepatitis B virus-derived circular RNA and viral protein levels.	Oncotarget	9(30)	20953-20964	2018
Sekiba K, Otsuka M, Ohno M, Yamagami M, Kishikawa T, Suzuki T, Ishibashi R, Seimiya T, Tanaka E, <u>Koike K</u>	Hepatitis B virus pathogenesis: Fresh insights into hepatitis B virus RNA.	World J Gastroenterol	24(21)	2261-2268	2018
Shimizu K, Soroida Y, Sato M, Hikita H, Kobayashi T, Endo M, Sato M, Gotoh H, Iwai T, <u>Tateishi R</u> , <u>Koike K</u> , Yatomi Y, Ikeda H.	Eradication of hepatitis C virus is associated with the attenuation of steatosis as evaluated using a controlled attenuation parameter.	Sci Rep	8(1)	7845	2018
Takahashi A, Moriya K, Ohira H, Arinaga-Hino T, Zeniya M, Torimura T, Abe M, Takaki A, Kang JH, Inui A, Fujisawa T, Yoshizawa K, Suzuki Y, Nakamoto N, <u>Koike K</u> , Yoshiji H, Goto A, Tanaka A, Younossi ZM, Takikawa H	Health-related quality of life in patients with autoimmune hepatitis: A questionnaire survey.	PLoS One	13(10)	e0204772	2018
Tanaka Y, <u>Tateishi R</u> , <u>Koike K</u>	Proteoglycans Are Attractive Biomarkers and Therapeutic Targets in Hepatocellular Carcinoma.	Int J Mol Sci	19(10)		2018
Uchino K, <u>Tateishi R</u> , Nakagomi R, Fujiwara N, Minami T, Sato M, Enooku K, Nakagawa H, Asaoka Y, Kondo Y, Shibahara J, Shiina S, <u>Koike K</u>	Serum levels of ferritin do not affect the prognosis of patients with hepatocellular carcinoma undergoing radiofrequency ablation.	PLoS One	13(7)	e0200943	2018
Fujiwara N, Nakagawa H, Enooku K, Kudo Y, Hayata Y, Nakatsuka T, Tanaka Y, <u>Tateishi R</u> , Hikiba Y, Misumi K, Tanaka M, Hayashi A, Shibahara J, Fukayama M, Arita J, Hasegawa K, Hirschfield H, Hoshida Y, Hirata Y, Otsuka M, Tateishi K, <u>Koike K</u>	CPT2 downregulation adapts HCC to lipid-rich environment and promotes carcinogenesis via acylcarnitine accumulation in obesity.	Gut	67(8)	1493-1504	2018

Ishido S, Tsuchiya K, Kano Y, Yasui Y, Takaura K, Uchihara N, Suzuki K, Tanaka Y, Miyamoto H, Yamada M, Matsumoto H, Nobusawa T, Keitoku T, Tanaka S, Maeyashiki C, Tamaki N, Takahashi Y, Nakanishi H, Sakurai U, Asahina Y, Okamoto R, Kurosaki M, <u>Izumi N.</u>	Clinical Utility of Comprehensive Genomic Profiling in Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma	Cancers	24	719. doi: 10.3390	2023
Kirino S, Tamaki N, Kurosaki M, Kaneko S, Inada K, Tanaka Y, Ishido S, Yamashita K, Nobusawa T, Matsumoto H, Hayakawa Y, Kakegawa T, Higuchi M, Takaura K, Tanaka S, Maeyashiki C, Yasui Y, Takahashi Y, Tsuchiya K, Nakanishi H, Okamoto R, <u>Izumi N.</u>	Alanine aminotransferase levels as therapeutic targets after nucleotide/nucleoside analog therapy in patient with chronic hepatitis B	Hepatol Res	53	35-43	2023
Matsumoto H, Tsuchiya K, Nakanishi H, Hayakawa Y, Yasui Y, Uchihara N, Suzuki K, Tanaka Y, Miyamoto H, Ishido S, Yamada M, Keitoku T, Nobusawa T, Higuchi M, Takaura K, Tanaka S, Maeyashiki C, Tamaki N, Takahashi Y, Kurosaki M, Asahina Y, Okamoto R, <u>Izumi N.</u>	Clinical Usefulness of Monitoring Muscle Volume during Atezolizumab Plus Bevacizumab Therapy in Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma	Cancers	21	14(14):3551. doi: 10.3390	2022
Kubo S, Shinkawa H, Asaoka Y, Ioka T, Igaki H, <u>Izumi N.</u> , Itoi T, Unno M, Ohtsuka M, Okusaka T, Kadoya M, Kudo M, Kumada T, Kokudo N, Sakamoto M, Sakamoto Y, Sakurai H, Takayama T, Nakashima O, Nagata Y, Hatano E, Harada K, Murakami T, Yamamoto M	Liver Cancer Study Group of Japan Clinical Practice Guidelines for Intrahepatic Cholangiocarcinoma	Liver Cancer	11	209-314	2022
Ajmera V, Kim BK, Yang K, Majzoub AM, Nayfeh T, Tamaki N, <u>Izumi N.</u> , Nakajima A, Idilman R, Gumussoy M, Oz DK, Erden A, Quach NE, Tu X, Zhang X,	Liver Stiffness on Magnetic Resonance Elastography and the MEFIB Index and Liver-Related Outcomes in Nonalcoholic Fatty	Gastroenterology	163	1079-83	2022

Noureddin M, Allen AM, Loomba R.	Liver Disease: A Systematic Review and Meta-Analysis of Individual Participants				
Kaneko S, Tsuchiya K, Yasui Y, Tanaka Y, Inada K, Ishido S, Kirino S, Yamashita K, Hayakawa Y, Nobusawa T, Matsumoto H, Kakegawa T, Higuchi M, Takaura K, Tanaka S, Maeyashiki C, Tamaki N, Takahashi Y, Nakanishi H, Irie T, Ariizumi SI, Kurosaki M, Izumi N.	Conversion surgery for hepatocellular carcinoma after tyrosine kinase inhibitor treatment	JGH open	21	301-310	2022
Higuchi M, Tamaki N, Kurosaki M, Inada K, Kirino S, Yamashita K, Hayakawa Y, Osawa L, Takaura K, Maeyashiki C, Kaneko S, Yasui Y, Takahashi Y, Tsuchiya K, Nakanishi H, Itakura J, Loomba R, Enomoto N, Izumi N.	Longitudinal association of magnetic resonance elastography-associated liver stiffness with complications and mortality	Aliment Pharmacol Ther	55	292-301	2022
Kaneko S, Kurosaki M, Tsuchiya K, Yasui Y, Hayakawa Y, Inada K, Tanaka Y, Ishido S, Kirino S, Yamashita K, Nobusawa T, Matsumoto H, Kakegawa T, Higuchi M, Takaura K, Tanaka S, Maeyashiki C, Tamaki N, Takahashi Y, Nakanishi H, Izumi N.	Clinical evaluation of Elecsys PIVKA-II for patients with advanced hepatocellular carcinoma	PLoS One	10	17(3):e0265235.	2022
Hayakawa Y, Tsuchiya K, Kurosaki M, Yasui Y, Kaneko S, Tanaka Y, Ishido S, Inada K, Kirino S, Yamashita K, Nobusawa T, Matsumoto H, Kakegawa T, Higuchi M, Takaura K, Tanaka S, Maeyashiki C, Tamaki N, Nakanishi H, Itakura J, Takahashi Y, Asahina Y, Okamoto R, Izumi N.	Early experience of atezolizumab plus bevacizumab therapy in Japanese patients with unresectable hepatocellular carcinoma in real-world practice	Invest New Drugs	40	392-402	2022
Yamashita K, Kurosaki M, Nakanishi H, Tanaka Y, Ishido S, Inada K, Kirino S, Hayakawa Y, Matsumoto H, Nobusawa T, Kakegawa	Simple algorithm to narrow down the candidates to receive echocardiography in patients with chronic liver disease for	JGH Open	16	774-781	2022

T, Higuchi M, Takaura K, Tanaka S, Maeyashiki C, Kaneko S, Tamaki N, Yasui Y, Tsuchiya K, Takahashi Y, Miyazaki R, Ashikaga T, Enomoto N, <u>Izumi N.</u>	suspected pulmonary hypertension				
Shimakami T, Setoyama H, Oza N, Itakura J, Kaneko S, Korenaga M, Toyama T, Tanaka J, Kanto T.	Development of performance indicators for hepatitis countermeasures as a tool for the assessment and promotion of liver cancer prevention in Japan.	J Gastroenterol	58	257-267	2023
Hussain MRA, Hiebert L, Sugiyama A, Ouoba S, Bunthen E, Ko K, Akita T, Kaneko S, Kanto T, Ward JW, Tanaka J.	Effect of COVID-19 on hepatitis B and C virus countermeasures: Hepatologist responses from nationwide survey in Japan.	Hepatol Res	52	899-907	2022
Tanaka J, Kurisu A, Ohara M, Ouoba S, Ohisa M, Sugiyama A, Wang ML, Hiebert L, <u>Kanto T</u> , Akita T.	Burden of chronic hepatitis B and C infections in 2015 and future trends in Japan: A simulation study.	Lancet Reg Health West Pac.	22	100428	2022
Kaneko S, Kurosaki M, Kurisu A, Akita T, Tanaka J, <u>Kanto T.</u>	Impact of antiviral therapy for disease progression and non-invasive liver fibrosis index in patients with chronic hepatitis C: Markov chain model analysis.	Hepatol Res.	52	665-676	2022
Kanto T.	Messages from Japan policy for viral hepatitis.	Global Health & Medicine,	3(5)	249-252	2021
Takeuchi Y, Ohara M and <u>Kanto T.</u>	Nationwide awareness-raising program for viral hepatitis in Japan: the “Shitte kan-en” project.	Global Health & Medicine,	3(5)	301-307	2021
Setoyama H, Tanaka Y and <u>Kanto T.</u>	Seamless support from screening to anti-HCV treatment and HCC/decompensated cirrhosis: Subsidy programs for HCV elimination	Global Health & Medicine,	3(5)	335-342	2021
Korenaga M and <u>Kanto T.</u>	Testing, diagnosis of viral hepatitis, and the follow-up policy in Japan.	Global Health & Medicine,	3(5)	308-313	2021
Itakura, J; Kurosaki, M; Setoyama, H; Simakami,	Applicability of APRI and FIB-4 as a	J. Gastroenterol.	56(5)	470-478	2021

T; Oza, N; Korenaga, M; Tanaka, M; Torimura, T; Sakamoto, N; Enomoto, N; Ueno, Y; Kawada, N; Kaneko, S; Nishiguchi, S; Chayama, K; Tanaka, J; Izumi, N; <u>Kanto, T</u>	transition indicator of liver fibrosis in patients with chronic viral hepatitis.				
<u>Kudo M</u> , Finn RS, Qin S, Han KH, Ikeda K, Cheng AL, Vogel A, Tovoli F, Ueshima K, Aikata H, López López C, Pracht M, Meng Z, Daniele B, Park JW, Palmer D, Tamai T, Saito K, Dutkus CE, Lencioni R	Overall survival and objective response in advanced unresectable hepatocellular carcinoma: A subanalysis of the REFLECT study.	J Hepatol	78	133-141	2023
<u>Kudo M</u>	Prioritized requirements for first-line systemic therapy for hepatocellular carcinoma: Broad benefit with less toxicity.	Liver Cancer	12	1-6	2023
<u>Kudo M</u>	Newly developed modified ALBI grade shows better prognostic and predictive value for hepatocellular carcinoma	Liver Cancer	11	1-8	2022
<u>Kudo M</u> , Izumi N, Kokudo N, Sakamoto M, Shiina S, Takayama T, Tateishi R, Nakashima O, Murakami T, Matsuyama Y, Takahashi A, Miyata H, Kubo S	Report of the 22nd nationwide follow-up survey of primary liver cancer in Japan (2012–2013).	Hepatol Res	52	5-66	2022
<u>Kudo M</u> , Ikeda M, Ueshima K, Sakamoto M, Shiina S, Tateishi R, Nouse K, Hasegawa K, Furuse J, Miyayama S, Murakami T, Yamashita T, Kokudo N	Response evaluation criteria in cancer of the liver (version 6) (RECICL 2021 revised version).	Hepatol Res	52	329-336	2022
<u>Kudo M</u> , Ikeda M, Ueshima K, Sakamoto M, Shiina S, Tateishi R, Nouse K, Hasegawa K, Furuse J, Miyayama S, Murakami T, Yamashita T, Kokudo N	Response evaluation criteria in cancer of the liver (version 6) (RECICL 2021 revised version).	Hepatol Res	52	329-336	2022
<u>Kudo M</u>	Durvalumab plus tremelimumab: A novel combination Immunotherapy for unresectable	Liver Cancer	11	87-93	2022

	hepatocellular carcinoma.				
<u>Kudo M</u>	New treatment paradigm with systemic therapy in Intermediate-stage hepatocellular carcinoma.	Int J Clin Oncol	27	1110-1119	2022
<u>Kudo M</u> , Finn RS, Edeline J, Cattani S, Ogasawara S, Palmer D, Verslype C, Zagonel V, Fartoux L, Vogel A, Sarker D, Verset G, Chan SL, Knox J, Daniele B, Yau T, Gurary EB, Siegel AB, Wang A, Cheng AL, Zhu AX, on behalf of the KEYNOTE-224 Investigators	Updated efficacy and safety of KEYNOTE-224: a phase 2 study of pembrolizumab in patients with advanced hepatocellular carcinoma previously treated with sorafenib.	Eur J Cancer	167	1-12 (doi: 10.1016/j.ejca.2022.02.009)	2022
<u>Kudo M</u>	Selection of systemic treatment regimen for unresectable hepatocellular carcinoma: Does etiology matter?	Liver Cancer	11	283-289	2022
<u>Kudo M</u> , Ueshima K, Ikeda M, Torimura T, Tanabe N, Aikata H, Izumi N, Yamasaki T, Nojiri S, Hino K, Tsumura H, Kuzuya T, Isoda N, Moriguchi M, Aino H, Ido A, Kawabe N, Nakao K, Wada Y, Ogasawara S, Yoshimura K, Okusaka T, Furuse J, Kokudo N, Okita K, Johnson P, Arai Y	Final results of TACTICS: A randomized, prospective trial comparing transarterial chemoembolization plus sorafenib to transarterial chemoembolization alone in patients with unresectable hepatocellular carcinoma.	Liver Cancer	11	354-367	2022
<u>Kudo M</u>	Combination immunotherapy with anti-PD-1/PD-L1 antibody plus anti-VEGF antibody may promote cytotoxic T lymphocyte infiltration in hepatocellular carcinoma, including in the non-inflamed subclass.	Liver Cancer	11	185-191	2022
<u>Kudo M</u>	Durvalumab plus tremelimumab in unresectable hepatocellular carcinoma.	Hepatobil Surg Nutr	11	592-596	2022

<u>Kudo M</u>	Implications of the TACTICS trial: Establishing the new concept of combination/sequential systemic therapy and TACE to achieve synergistic effects.	Liver Cancer	11	487-496	2022
<u>Kudo M</u> , Montal R, Finn R, Castet F, Ueshima K, Nishida N, Haber PK, Hu Y, Chiba Y, Schwartz M, Meyer T, Lencioni R, Llovet JM	Objective response predicts survival in advanced hepatocellular carcinoma treated with systemic therapies.	Clin Cancer Res	28	3443-3451	2022
<u>Kudo M</u> , Morimoto M, Moriguchi M, Izumi N, Takayama T, Yoshiji H, Hino K, Oikawa T, Chiba T, Motomura K, Kato J, Yasuchika K, Ido A, Sato T, Ikawa Y, Ueshima K, Ikeda M, Okusaka T, Tamura K, Furuse J	A randomized, double-blind, placebo-controlled, phase III study of tivantinib in Japanese patients with MET-high hepatocellular carcinoma.	Cancer Sci	111	3759-3769	2021
<u>Kudo M</u> , Galle PR, Brandi G, Kang YK, Yen CJ, Finn RS, Llovet JM, Assenat E, Merle P, Chan SL, Palmer DH, Ikeda M, Yamashita T, Vogel A, Huang YH, Abada PB, Yoshikawa R, Shinozaki K, Wang C, Widau RC, Zhu AX	Effect of ramucirumab or best supportive care on ALBI grade in patients with advanced HCC: Results from REACH and REACH-2.	JHEP Reports	3	100215 (https://doi.org/10.1016/j.jhepr.2020.100215)	2021
<u>Kudo M</u>	Impact of multi-drug sequential therapy on survival in patients with unresectable hepatocellular carcinoma.	Liver Cancer	10	1-9	2021
<u>Kudo M</u> , Tsuchiya K, Kato N, Hagihara A, Numata K, Aikata H, Inaba Y, Kondo S, Motomura K, Furuse J, Ikeda M, Morimoto M, Achira M, Kuroda S, Kimura A	Cabozantinib in Japanese patients with advanced hepatocellular carcinoma: A Phase II multicenter study.	J Gastroenterol	56	181-190	2021
<u>Kudo M</u> , Izumi N, Kokudo N, Sakamoto M, Shiina S, Takayama T, Tateishi R, Nakashima O, Murakami T, Matsuyama Y, Takahashi A, Miyata H, Kubo S	Report of the 21st nationwide follow-up survey of primary liver cancer in Japan (2010–2011).	Hepatol Res	51	355-405	2021

<u>Kudo M</u>	Combination immunotherapy with anti-VEGF/TKI for hepatocellular carcinoma: Present and future perspective.	Hepatobil Surg Nutr	10	241-245	2021
<u>Kudo M</u>	Sequential therapy for hepatocellular carcinoma after failure of atezolizumab plus bevacizumab combination therapy.	Liver Cancer	10	85-93	2021
<u>Kudo M</u> , Ikeda M, Galle P, Yamashita T, Finn RS, Liang K, Wang C, Sakaguchi S, Abada P, Widau RC, Zhu AX	Ramucirumab in patients with advanced hepatocellular carcinoma and elevated alpha-fetoprotein: outcomes by treatment-emergent ascites.	Hepatol Res	51	715-721	2021
<u>Kudo M</u> , Lim HY, Cheng AL, Chao Y, Yau T, Ogasawara S, Kurosaki M, Morimoto N, Ohkawa K, Yamashita T, Lee KH, Chen E, Siegel AB, Ryoo BY	Pembrolizumab as second-line therapy for advanced hepatocellular carcinoma: A subgroup analysis of Asian Patients in the Phase 3 KEYNOTE-240 trial.	Liver Cancer	10	249-259	2021
<u>Kudo M</u> , Motomura K, Wada Y, Inaba Y, Sakamoto Y, Kurosaki M, Umeyama Y, Kamei Y, Yoshimitsu J, Fujii Y, Aizawa M, Robbins PB, Furuse J	Avelumab in combination with axitinib as first-line treatment in patients with advanced hepatocellular carcinoma: results from the phase 1b VEGF Liver 100 trial.	Liver Cancer	10	249-259	2021
<u>Kudo M</u> , Kawamura Y, Hasegawa K, Tateishi R, Kariyama K, Shiina S, Toyoda H, Imai Y, Hiraoka A, Ikeda M, Izumi N, Moriguchi M, Ogasawara S, Minami Y, Ueshima K, Murakami T, Miyayama S, Nakashima O, Yano H, Sakamoto M, Hatano E, Shimada M, Kokudo N, Mochida S, Takehara T, on behalf of the HCC Expert Panel of the Japan Society of Hepatology	Management of hepatocellular carcinoma in Japan: JSH consensus statements and recommendations 2020 update.	Liver Cancer	10	181-223	2021
<u>Kudo M</u>	Surveillance, diagnosis, treatment outcomes of hepatocellular	Liver Cancer	10	167-180	2021

	carcinoma in Japan: 2021 update.				
<u>Kudo M</u>	Impaired response to immunotherapy in non-alcoholic steatohepatitis-related hepatocellular carcinoma?	Liver Cancer	10	289-295	2021
<u>Kudo M</u>	Lack of response to immunotherapy in non-alcoholic steatohepatitis related hepatocellular carcinoma.	Hepatobil Surg Nutr	10	522-525	2021
<u>Kudo M</u> , Matilla A, Santoro A, Melero I, Gracián AC, Acosta-Rivera M, Choo SP, El-Khoueiry AB, Kuromatsu R, El-Rayes B, Numata K, Itoh Y, Di Costanzo F, Crysler O, Reig M, Shen Y, Neely J, Tschaika M, Wisniewski T, Sangro B	CheckMate 040 cohort 5: A phase I/II study of nivolumab in patients with advanced hepatocellular carcinoma and Child-Pugh B cirrhosis.	J Hepatol	75	600-609	2021
<u>Kudo M</u>	Adjuvant immunotherapy after curative treatment for hepatocellular carcinoma.	Liver Cancer	10	399-403	2021
<u>Kudo M</u> , Finn R, Morimoto M, Rau KM, Ikeda M, Yen CJ, Galle PR, Llovet J, Daniele B, Lim HY, McIlwain DW, Yoshikawa R, Nakamura K, Liang K, Wang C, Abada P, Widau RC, Zhu AX	Ramucirumab for patients with intermediate-stage hepatocellular carcinoma and elevated alpha-fetoprotein: pooled results from two phase 3 studies (REACH and REACH-2).	Liver Cancer	10	451-460	2021
<u>Kudo M</u>	Changing the treatment paradigm for hepatocellular carcinoma using atezolizumab plus bevacizumab combination therapy.	Cancers	10	451-460	2021
<u>Kudo M</u>	A novel treatment strategy for patients with Intermediate-stage HCC who are not suitable for TACE: Upfront systemic therapy followed by curative conversion.	Liver Cancer	10	539-544	2021
<u>Kudo M</u>	Management of hepatocellular	Liver Cancer	9	1-5	2020

	carcinoma in Japan: Current trends.				
<u>Kudo M</u> , Izumi N, Kubo S, Kokudo N, Sakamoto M, Shiina S, Tateishi R, Nakashima O, Murakami T, Matsuyama Y, Takahashi A, Miyata H, Takayama T	Report of the 20th nationwide follow-up survey of primary liver cancer in Japan.	Hepatol Res	50	15-46	2020
<u>Kudo M</u>	Scientific rationale for combined immunotherapy with PD-1/PD-L1 antibodies and VEGF inhibitors in advanced hepatocellular carcinoma.	Cancers	12	E1089 (doi:10.3390/cancers12051089)	2020
<u>Kudo M</u>	A new era in systemic therapy for hepatocellular carcinoma: Atezolizumab plus bevacizumab combination therapy.	Liver Cancer	9	119-137	2020
<u>Kudo M</u> , Okusaka T, Motomura K, Ohno I, Morimoto M, Seo S, Wada Y, Sato S, Yamashita T, Furukawa M, Aramaki T, Nadano S, Ohkawa K, Fujii H, Kudo T, Furuse J, Takai H, Homma G, Yoshikawa R, Zhu AX	Ramucirumab after prior sorafenib in patients with advanced hepatocellular carcinoma and elevated alpha-fetoprotein: Japanese subgroup analysis of the REACH-2 trial.	J Gastroenterol	55	627-639	2020
<u>Kudo M</u>	Better efficacy of ramucirumab in Japanese patients than in the global population with unresectable hepatocellular carcinoma.	Liver Cancer	9	232-244	2020
<u>Kudo M</u> , Han KH, Ye SL, Zhou J, Huang YH, Lin SM, Wang CK, Ikeda M, Chan SL, Choo SP, Miyayama S, Cheng AL, on behalf of the APPLE Association	A changing paradigm for the treatment of intermediate-stage hepatocellular carcinoma: Asia-Pacific primary liver cancer expert consensus statements.	Liver Cancer	9	245-260	2020
<u>Kudo M</u>	A new era of systemic therapy for intermediate and advanced stage hepatocellular carcinoma.	Hepatobil Surg Nutr	9	530-533	2020

<u>Kudo M</u> , Ueshima K, Ikeda M, Torimura T, Tanabe N, Aikata H, Izumi N, Yamasaki T, Nojiri S, Hino K, Tsumura H, Kuzuya T, Isoda N, Yasui K, Aino H, Ido A, Kawabe N, Nakao K, Wada Y, Yokosuka O, Yoshimura K, Okusaka T, Furuse J, Kokudo N, Okita K, Johnson P, Arai Y, on behalf of the TACTICS study group	Randomised, multicentre prospective trial of transarterial chemoembolization (TACE) plus sorafenib as compared with TACE alone in patients with hepatocellular carcinoma: TACTICS trial.	Gut	69	1492-1501	2020
<u>Kudo M</u> , Kurosaki M, Ikeda M, Aikata H, Hiraoka A, Torimura T, Sakamoto N, on behalf of Japan Association of Molecular Targeted Therapy for HCC (JAMTT-HCC)	Treatment of hepatocellular carcinoma (HCC) during the COVID-19 outbreak: The working group report of JAMTT-HCC.	Hepatol Res	50	1004-1014	2020
<u>Kudo M</u>	A paradigm change in the treatment strategy for hepatocellular carcinoma.	Liver Cancer	9	367-377	2020
<u>Kudo M</u>	Gd-EOB-DTPA-MRI could predict WNT/ β -catenin mutation and resistance to anti-PD-1/PD-L1 therapy in hepatocellular carcinoma.	Liver Cancer	9	479-490	2020
<u>Kudo M</u>	Recent advances in systemic therapy for hepatocellular carcinoma in an aging society: 2020 update.	Liver Cancer	9	640-662	2020
<u>Kudo M</u> , Galle PR, Llovet JM, Finn R, Vogel A, Motomura K, Assenat E, Merle P, Brandi G, Daniele B, Okusaka T, Tomasek J, Borg C, Dadduzio V, Morimoto M, Pracht M, Jen MH, Ubreva ND, Widau R, Shinozaki K, Yoshikawa R, Zhu AX	Ramucirumab in elderly patients with hepatocellular carcinoma and elevated alpha-fetoprotein after sorafenib in REACH and REACH-2.	Liver Int	40	2008-2020	2020
<u>Kudo M</u>	Limited impact of anti-PD-1/PD-L1 monotherapy for hepatocellular carcinoma.	Liver Cancer	9	629-639	2020

<u>Kudo M</u>	Cabozantinib for advanced hepatocellular carcinoma.	Hepatobil Surg Nutr	8	153-156	2019
<u>Kudo M</u>	Combination cancer immunotherapy with molecular targeted agents/anti-CTLA-4 antibody for hepatocellular carcinoma.	Liver Cancer	8	1 月 11 日	2019
<u>Kudo M</u>	Targeted and immune therapies for hepatocellular carcinoma: predictions for 2019 and beyond.	World J Gastroenterol	25	789-807	2019
<u>Kudo M</u>	Objective response by mRECIST is an independent prognostic factor of overall survival in systemic therapy for hepatocellular carcinoma.	Liver Cancer	8	73-77	2019
<u>Kudo M</u>	Pembrolizumab for the treatment of hepatocellular carcinoma.	Liver Cancer	8	143-154	2019
<u>Kudo M</u>	Immuno-Oncology therapy for hepatocellular carcinoma: Current status and ongoing trials.	Liver Cancer	8	221-238	2019
<u>Kudo M</u> , Ueshima K, Osaki Y, Hirooka M, Imai Y, Aso K, Numata K, Kitano M, Kumada K, Izumi N, Sumino Y, Ogawa C, Akazawa K, for the SELECTED Study Group, Japan	B-mode ultrasonography versus contrast-enhanced ultrasonography for surveillance of hepatocellular carcinoma: a prospective multicenter randomized controlled trial.	Liver Cancer	8	271-280	2019
<u>Kudo M</u> , Ueshima K, Chan S, Minami T, Chishina H, Aoki T, Takita M, Hagiwara S, Minami Y, Ida H, Takenaka M, Sakurai T, Watanabe T, Morita M, Ogawa C, Wada Y, Ikeda M, Ishii H, Izumi N, Nishida N	Lenvatinib as an initial treatment in patients with intermediate-stage hepatocellular carcinoma beyond up-to-seven criteria and Child-Pugh A liver function: A proof-of-concept study.	Cancers	11	(doi: 10.3390/cancers11081084.)	2019

<u>Kudo M</u> , Ikeda M, Ueshima K, Sakamoto M, Shiina S, Tateishi R, Hasegawa K, Furuse J, Miyayama S, Murakami T, Yamashita T, Kokudo N	Response evaluation criteria in cancer of the liver (version 5) (RECICL 2019 revised version).	Hepatol Res	49	981-989	2019
<u>Kudo M</u> , Ueshima K, Chiba Y, Ogasawara S, Obi S, Izumi N, Aikata H, Nagano H, Hatano E, Sasaki Y, Hino K, Kumada T, Yamamoto K, Imai Y, Iwadou S, Ogawa C, Okusaka T, Kanai F, Arai Y	Objective response by mRECIST is an independent prognostic factor for overall survival in hepatocellular carcinoma treated with sorafenib in the SILIUS trial.	Liver Cancer	8	505-519	2019
<u>Kudo M</u>	Scientific rationale for combination immunotherapy of hepatocellular carcinoma with anti-PD-1/PD-L1 and anti-CTLA-4 antibodies.	Liver Cancer	8	413-426	2019
<u>Kudo M</u>	A new treatment option for intermediate-stage hepatocellular carcinoma with high tumor burden: Initial lenvatinib therapy with subsequent selective TACE.	Liver Cancer	8	299-311	2019
<u>Kudo M</u> , Cheng AL, Park JW, Park JH, Liang PC, Hidaka H, Izumi N, Heo J, Lee YJ, Sheen IS, Chiu CF, Arioka H, Morita S, Arai Y	Orantinib versus placebo combined with transcatheter arterial chemoembolisation in patients with unresectable hepatocellular carcinoma (ORIENTAL): a randomised, double-blind, placebo-controlled, multicentre, phase 3 study.	Lancet Gastroenterol Hepatol	3	37-46	2018
<u>Kudo M</u>	Lenvatinib may drastically change the treatment landscape of hepatocellular carcinoma.	Liver Cancer	7	11-19	2018
<u>Kudo M</u>	Combination cancer immunotherapy in hepatocellular carcinoma.	Liver Cancer	7	20-27	2018
<u>Kudo M</u> , Finn RS, Qin S, Han KH, Ikeda K,	Lenvatinib versus sorafenib in first-line	Lancet	391	1163-1173	2018

Piscaglia F, Baron A, Park JW, Han G, Jassem J, Blanc JF, Vogel A, Komov D, Evans TRJ, Lopez C, Dutcus C, Guo M, Saito K, Kraljevic S, Tamai T, Ren M, Cheng AL	treatment of patients with unresectable hepatocellular carcinoma: a randomised phase 3 non-inferiority trial.				
<u>Kudo M</u> , Kang YK, Park JW, Qin S, Inaba Y, Assenat E, Umeyama Y, Lechuga MJ, Valota O, Fujii Y, Martini JF, Williams JA, Obi S	Regional differences in efficacy, safety and biomarkers for second-line axitinib in patients with advanced hepatocellular carcinoma: from a randomized phase II study.	Liver Cancer	7	148-164	2018
<u>Kudo M</u> , Ueshima K, Yokosuka O, Ogasawara S, Obi S, Izumi N, Aikata H, Nagano H, Hatano E, Sasaki Y, Hino K, Kumada T, Yamamoto K, Imai Y, Iwadou S, Ogawa C, Okusaka T, Kanai F, Akazawa K, Yoshimura KI, Johnson P, Arai Y; SILIUS study group	Sorafenib plus low-dose cisplatin and fluorouracil hepatic arterial infusion chemotherapy versus sorafenib alone in patients with advanced hepatocellular carcinoma (SILIUS): a randomised, open label, phase 3 trial.	Lancet Gastroenterol Hepatol	3	424-432	2018
<u>Kudo M</u>	Cabozantinib as a second-line agent in advanced hepatocellular carcinoma.	Liver Cancer	7	123-133	2018
<u>Kudo M</u>	Management of hepatocellular carcinoma in Japan as a world-leading model.	Liver Cancer	7	134-147	2018
<u>Kudo M</u>	Proposal of primary endpoints for TACE combination trials with systemic therapy: Lessons learned from 5 negative trials and the positive TACTICS trial.	Liver Cancer	7	225-234	2018
<u>Kudo M</u>	Extremely high objective response rate of Lenvatinib: Its clinical relevance and changing the treatment paradigm in hepatocellular carcinoma.	Liver Cancer	7	215-224	2018

<u>Kudo M</u>	Ramucirumab as second-line systemic therapy in hepatocellular carcinoma.	Liver Cancer	7	305-311	2018
<u>Kudo M</u>	Systemic therapy for hepatocellular carcinoma: Latest advances.	Cancers	10	(doi: 10.3390/cancers10110412)	2018
Tanaka S, <u>Kubo S</u> , et al.	Surgical outcomes for hepatocellular carcinoma in patients with Child–Pugh class B: A retrospective multicenter study	Journal of Gastrointestinal Surgery	27 (2)	283-295	2023
Tanaka S, <u>Kubo S</u> , et al.	Positioning of minimally invasive liver surgery for hepatocellular carcinoma: From laparoscopic to robot-assisted liver resection	Cancers (Basel)	15 (2)	488	2023
Aramaki O, <u>Kubo S</u> , et al.	Reevaluation of Makuuchi's criteria for resecting hepatocellular carcinoma: A Japanese nationwide survey	Hepatology Research	53 (2)	127-134	2023
Nomi T, <u>Kubo S</u> , et al.	Short- and long-term outcomes of laparoscopic versus open repeat liver resection for hepatocellular carcinoma: A multicenter study	Journal of Hepatobiliary Pancreatic Sciences	30 (3)	283-292	2023
Matsui T, <u>Kubo S</u> , et al.	Identification of microRBA-96-5p as a postoperative, prognostic microRNA predictor in non-viral hepatocellular carcinoma	Hepatology Research	52 (1)	93-104	2022
Tanaka S, <u>Kubo S</u> , et al.	Postoperative loss of independence 1 year after liver resection: prospective multicentre study	British Journal of Surgery	109 (3)	E54-e55	2022
Shinkawa H, <u>Kubo S</u> , et al.	Impact of laparoscopic parenchyma-sparing resection of lesions in the right posterosuperior liver segments on surgical outcomes: a multicenter study based on	Surgery	171 (5)	1311-1319	2022

	propensity score analysis				
<u>Kubo S</u> , et al.	Liver Cancer Study Group of Japan clinical practice guidelines for intrahepatic cholangiocarcinoma	Liver Cancer	11 (4)	290-314	2022
Morise Z, <u>Kubo S</u> , et al.	An international retrospective observational study of liver functional deterioration after repeat liver resection for patients with hepatocellular carcinoma	Cancers (Basel)	14 (11)	2598	2022
Okushin K, <u>Tateishi R</u> , Takahashi A, Uchino K, Nakagomi R, Nakatsuka T, Minami T, Sato M, Fujishiro M, Hasegawa K, Eguchi Y, Kanto T, <u>Kubo S</u> , Yoshiji H, Miyata H, Izumi N, Kudo M, <u>Koike K</u> .	Current status of primary liver cancer and decompensated cirrhosis in Japan: launch of a nationwide registry for advanced liver diseases (REAL)	Journal of Gastroenterology	57 (8)	587-597	2022
Uchida-Kobayashi S, <u>Kubo S</u> , et al.	Efficacy of rechallenge transcatheter arterial chemoembolization after lenvatinib treatment for advanced hepatocellular carcinoma	JGH Open	6 (11)	754-762	2022
Kinoshita M, <u>Kubo S</u> , et al.	Increasing incidence and severity of post-hepatectomy adhesion around the liver may be influenced by the hepatectomy-related operative procedures	Asian Journal of Surgery	46 (1)	228-235	2023
<u>Kubo S</u> , et al.	Microsatellite instability in patients with hepato-biliary-pancreatic malignancies in clinical practice (KHBO 1903)	International Journal of Clinical Oncology	27 (8)	1340-1347	2022
Shirai D, <u>Kubo S</u> , et al.	Laparoscopic liver resection reduces postoperative infection in patients with hepatocellular carcinoma: a propensity score-based analysis	Surgical Endoscopy	36 (12)	9194-9203	2022
Tanaka S, <u>Kubo S</u> , et al.	Preoperative risk assessment for loss of	Annals of Surgery	274 (3)	E253-e261	2021

	independence following hepatic resection in elderly patients: a prospective multicenter study				
Ishihara A, <u>Kubo S</u> , et al.	Preoperative risk assessment for delirium after hepatic resection in the elderly: A prospective multicenter study	Journal of Gastrointestinal Surgery	25 (1)	134-144	2021
Troisi RI, <u>Kubo S</u> , et al.	Laparoscopic and open liver resection for hepatocellular carcinoma with Child–Pugh B cirrhosis: multicentre propensity score-matched study	British Journal of Surgery	48 (2)	196-204	2021
Kawaguchi Y, <u>Kubo S</u> , et al.	Effect of diameter and number of hepatocellular carcinomas on survival after resection, trans-arterial chemoembolization, and ablation	American Journal of Gastroenterology	116 (8)	1698-1708	2021
Iida H, <u>Kubo S</u> , et al.	Risk factors for incisional hernia according to different wound sites after open hepatectomy using combinations of vertical and horizontal incisions: A multicenter cohort study	Annals of Gastroenterological Surgery	5 (5)	701-710	2021
Kaibori M, <u>Kubo S</u> , et al.	Impact of hepatitis C virus on survival in patients undergoing resection of intrahepatic cholangiocarcinoma: report of a Japanese nationwide survey	Hepatology Research	51 (8)	890-901	2021
Tanaka S, <u>Kubo S</u> , et al.	Postoperative direct-acting antiviral treatment after liver resection in patients with hepatitis C virus-related hepatocellular carcinoma	Hepatology Research	51 (11)	1102-1114	2021
Kinoshita M, <u>Kubo S</u> , et al.	Impact of advancing age on the status and risk of postoperative infection after liver resection	World Journal of Surgery	45 (11)	3386-3394	2021

Shirai D, <u>Kubo S</u> , et al.	Impact of alcohol abstinence on survival after hepatic resection for hepatocellular carcinoma in patients with alcohol-related liver disease	Annals of Medicine and Surgery (London)	68	102644	2021
Shinkawa H, <u>Kubo S</u> , et al.	The prognostic impact of tumor differentiation on recurrence and survival after resection of hepatocellular carcinoma Is dependent on tumor size	Liver Cancer	10 (5)	461-472	2021
Kinoshita M, <u>Kubo S</u> , et al.	Indications of laparoscopic repeat liver resection for recurrent hepatocellular carcinoma	Annals of Gastroenterological Surgery	6 (1)	119-126	2021
Ishihara A, <u>Kubo S</u> , et al.	Superiority of laparoscopic liver resection to open liver resection in obese individuals with hepatocellular carcinoma	Annals of Gastroenterological Surgery	6 (1)	135-148	2021
Kinoshita M, <u>Kubo S</u> , et al.	Indications for laparoscopic liver resection of mass-forming intrahepatic cholangiocarcinoma	Asian Journal of Endoscopic Surgery	13 (1)	46-58	2020
Aoki T, <u>Kubo S</u> , et al.	Significance of the surgical hepatic resection margin in patients with a single hepatocellular carcinoma	British Journal of Surgery	107 (1)	113-120	2020
Berardi G, <u>Kubo S</u> , et al.	Development of a nomogram to predict outcome after liver resection for hepatocellular carcinoma in Child-Pugh b cirrhosis	Journal of Hepatology	72 (1)	75-84	2020
Nomi T, <u>Kubo S</u> , et al.	Laparoscopic versus open liver resection for hepatocellular carcinoma in elderly patients: A multi-centre propensity score-based analysis	Surgical Endoscopy	34 (2)	658-666	2020
Matsuura T, <u>Kubo S</u> , et al.	Risk factors for hepatocellular carcinoma in treated chronic hepatitis C	JGH Open	4 (5)	867-875	2020

	patients- relationship to smoking and alcohol				
Kawaguchi Y, <u>Kubo S</u> , et al.	Validation and performance of three-level procedure-based classification for laparoscopic liver resection	Surgical Endoscopy	34 (5)	2056-2066	2020
Kim DS, <u>Kubo S</u> , et al.	Surgical outcomes of hepatocellular carcinoma with bile duct tumor thrombus: A Korea-Japan multicenter study	Annals of Surgery	271 (5)	913-921	2020
Shinkawa H, <u>Kubo S</u> , et al.	Tumor size drives the prognosis after hepatic resection of solitary hepatocellular carcinoma without vascular invasion	Journal of Gastrointestinal Surgery	24 (5)	1040-1048	2020
Morise Z, <u>Kubo S</u> , et al.	Laparoscopic repeat liver resection for hepatocellular carcinoma: a multicentre propensity score-based study	British Journal of Surgery	107 (7)	889-895	2020
Fukami Y, <u>Kubo S</u> , et al.	Liver resection for multiple hepatocellular carcinomas: A Japanese nationwide survey	Annals of Surgery	272 (1)	145-154	2020
Kinoshita M, <u>Kubo S</u> , et al.	Difficulty classifications of laparoscopic repeated liver resection in patients with recurrent hepatocellular carcinoma	Asian Journal of Endoscopic Surgery	13 (3)	366-374	2020
Shinkawa H, <u>Kubo S</u> , et al.	Outcomes of non-B non-C hepatocellular carcinoma with reference to patients with interferon-induced hepatitis C virus eradication	Journal of Gastrointestinal Surgery	24 (8)	1809-1817	2020
Shinkawa H, <u>Kubo S</u> , et al.	Prognostic value of expanded liver transplantation criteria – the 5-5-500 rule – in patients with hepatic resection for intermediate stage hepatocellular carcinoma	Journal of Hepatobiliary Pancreatic Sciences	27 (10)	682-689	2020
Iida H, <u>Kubo S</u> , et al.	New hepatic resection criteria for	Asian Pacific Journal of	21 (10)	2903-2911	2020

	intermediate-stage hepatocellular carcinoma can improve long-term survival: A retrospective, multicenter collaborative study	Cancer Prevention			
Shinkawa H, <u>Kubo S</u> , et al.	Predictive value of the age-adjusted Charlson comorbidity index for outcomes after hepatic resection of hepatocellular carcinoma	World Journal of Surgery	44 (11)	3901-3914	2020
Tanaka S, <u>Kubo S</u> , et al.	Surgical outcomes for hepatocellular carcinoma detected after hepatitis C virus eradication by direct-acting antivirals	Journal of Surgical Oncology	122 (8)	1543-1552	2020
Tanaka S, <u>Kubo S</u> , et al.	Validation of index-based IWATE criteria as an improved difficulty scoring system for laparoscopic liver resection	Surgery	165 (4)	731-740	2019
Kaibori M, <u>Kubo S</u> , et al.	Impact of advanced age on survival in patients undergoing resection of hepatocellular carcinoma: report of a Japanese nationwide survey	Annals of Surgery	269 (4)	692-699	2019
Shinkawa H, <u>Kubo S</u> , et al.	Giving Short-term administration of prophylactic antibiotics in patients undergoing open and laparoscopic hepatic resection	Annals of Gastroenterological Surgery	3 (5)	506-511	2019
Hiraoka A, <u>Kubo S</u> , et al.	Prediction of prognosis of intermediate-stage HCC patients: validation of the tumor marker score in a nationwide database in Japan	Liver Cancer	8 (5)	403-411	2019
Wada H, Eguchi H, Nagano H, et al.	Perioperative allogenic blood transfusion is a poor prognostic factor after hepatocellular carcinoma surgery: a multi-center analysis	Surgery Today	48	73-79	2018
Motoyama H, Tanori A, <u>Kubo S</u> , et al.	Stagnation of histopathological improvement is a	PLoS One	13	E0194163	2018

	predictor of hepatocellular carcinoma development after hepatitis C virus eradication				
Shinkawa H, Tanaka S, Takemura S, Ito T, Aota T, Koda M, Miyazaki T, Yamamoto T, <u>Kubo S.</u>	Obesity and recurrence-free survival in patients with hepatocellular carcinoma after achieving sustained virological response to interferon therapy for chronic hepatitis C	Annals of Gastroenterological Surgery	2	319-326	2018
Koda M, Tanaka S, Takemura S, Shinkawa H, Kinoshita M, Hamano G, Ito T, Kawada N, Shibata T, <u>Kubo S.</u>	Long-term prognostic factors after hepatic resection for hepatitis C virus-related hepatocellular carcinoma, with a special reference to viral status	Liver Cancer	7	261-276	2018
anaka S, Ueno M, Iida H, Kaibori M, Nomi T, Hirokawa F, Ikoma H, Nakai T, Eguchi H, <u>Kubo S..</u>	Preoperative assessment of frailty predicts age-related events after hepatic resection: A prospective multicenter study	Journal of Hepatobiliary Pancreatic Sciences	25	373-387	2018
<u>Miyata Hiroaki</u>	The effect of body weight in infants undergoing ventricular septal defect closure: A report from the Nationwide Japanese Congenital Surgical Database.	The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	157(8)	1132-1141	2019.3
<u>Miyata Hiroaki</u>	Can Minimally Invasive Esophagectomy Replace Open Esophagectomy for Esophageal Cancer? Latest Analysis of 24,233 Esophagectomies From the Japanese National Clinical Database.	Annals of Surgery		Epub ahead of print	2019.1
Kodera, Y., Yoshida, K., Kumamaru, H., Kakeji, Y., Hiki, N., Etoh, T., Honda, M., <u>Miyata H.</u> , Yamashita Y., Seto, Y., Kitano, S., Konno, H.	Introducing laparoscopic total gastrectomy for gastric cancer in general practice: a retrospective cohort study based on a nationwide registry database in Japan,	Gastric Cancer		Epub ahead of print	2019.1

Shoji, S., Kohsaka, S., Kumamaru, H., Sawano, M., Shiraishi, Y., Ueda, I., Noma, S., Suzuki, M., Numasawa, Y., Hayashida, K., Yuasa, S., <u>Miyata</u> <u>H.</u> , Fukuda, K.	Stroke After Percutaneous Coronary Intervention in the Era of Transradial Intervention.	Circulation: Cardiovascular Interventions	11(12)	6761	2018.1
Sugimoto, K., Hirata, Y., Hirahara, N., <u>Miyata H.</u> , Suzuki, T., Murakami, A., Miyaji, K., Takamoto, S.	Mid-term result of atrioventricular valve replacement in patients with a single ventricle	Interactive CardioVascular and Thoracic Surgery	27(6)	895-900	2018.12
Katada, C., Horimatsu, T., Muto, M., Tanaka, K., Matsuda, K., Fujishiro, M., Saito, Y., Ohtsuka, K, Oda, I., Kato. M., Kida, M., Kobayashi, K., Hoteya, S., Kodashima, S., Matsuda, T., Yamamoto, H., Ryozawa, S., Iwakiri, R., Kutsumi, H., <u>Miyata H.</u> , Kato, M., Haruma, K., Fujimoto, K., Uemura, N., Kaminishi, M., Tajiri, H.	Current status of esophageal endoscopy including the evaluation of smoking and alcohol consumption in Japan	Esophagus	16(2)	174-179	2018.12
Kumamaru, H., Lee, M. P., Choudhry, N. K., Dong, Y. H., Krumme, A. A., Khan, N., Brill, G., Kohsaka, S., <u>Miyata H.</u> , Schneeweiss, S., Gagne, J. J.	Using Previous Medication Adherence to Predict Future Adherence.	Journal of Managed Care & Specialty Pharmacy	24(11)	1146-1155	2018.11

Niikura, R., Yamada, A., Fujishiro, M., Tanaka, K., Matsuda, K., Saito, Y., Ohtsuka, K., Oda, I., Katada, C., Kato, M., Kida, M., Kobayashi, K., Hoteya, S., Horimatsu, T., Kodashima, S., Matsuda, T., Muto, M., Yamamoto, H., Ryozawa, S., Iwakiri, R., Kutsumi, H., <u>Miyata H.</u> , Kato, M., Haruma, K., Fujimoto, K., Uemura, N., Kaminishi, M., Shinozaki, T., Tajiri, H., Koike, K.	Propensity-matched analysis of a side-clamp versus an anastomosis assist device in cases of isolated coronary artery bypass grafting	European Journal of Cardio-Thoracic Surgery	54(5)	889-895	2018.11
Kanaji, S., Takahashi, A., <u>Miyata H.</u> , Marubashi, S., Kakeji, Y., Konno, H., Gotoh, M., Seto, Y.	Initial verification of data from a clinical database of gastroenterological surgery in Japan	Surgery Today	49(4)	328-222	2018.11
Niikura, R., Yamada, A., Fujishiro, M., Tanaka, K., Matsuda, K., Saito, Y., Ohtsuka, K., Oda, I., Katada, C., Kato, M., Kida, M., Kobayashi, K., Hoteya, S., Horimatsu, T., Kodashima, S., Matsuda, T., Muto, M., Yamamoto, H., Ryozawa, S., Iwakiri, R.,	The Effects of Direct Oral Anticoagulants, Warfarin, Aspirin and Thienopyridine on the Performance of Immunochemical, Faecal, Occult Blood Tests, Digestion	Digestion	8(1)	10	2018.11

Kutsumi, H., <u>Miyata H.</u> , Kato, M., Haruma, K., Fujimoto, K., Uemura, N., Kaminishi, M., Shinozaki, T., Tajiri, H., Koike, K					
Honda, M., Kumamaru, H., Etoh, T., <u>Miyata H.</u> , Yamashita, Y., Yoshida, K., Kodera, Y., Kakeji, Y., Inomata, M., Konno, H., Seto, Y., Kitano, S., Watanabe, M., Hiki, N	Surgical risk and benefits of laparoscopic surgery for elderly patients with gastric cancer: a multicenter prospective cohort study	Gastric Cancer		Epub ahead of print	2018.11
Iwatsuki, M., Yamamoto, H., <u>Miyata H.</u> , Kakeji, Y., Yoshida, K., Konno, H., Seto, Y., Baba, H.	Effect of hospital and surgeon volume on postoperative outcomes after distal gastrectomy for gastric cancer based on data from 145,523 Japanese patients collected from a nationwide web-based data entry system	Gastric Cancer	22(1)	190-201	2018.10
Endo, S., Ikeda, N., Kondo, T., Nakajima, J., Kondo, H., Shimada, Y., Sato, M., Toyooka, S., Okada, Y., Sato, Y., Yoshino, I., Okada, M., Okumura, M., Chida, M., Fukuchi, E., <u>Miyata H.</u>	Risk assessments for broncho-pleural fistula and respiratory failure after lung cancer surgery by National Clinical Database Japan.	General Thoracic and Cardiovascular Surgery	67(3)	297-305	2018.10
Ueki, C., <u>Miyata H.</u> , Motomura, N., Sakata, R., Sakaguchi, G., Akimoto, T., Takamoto, S.	Japan Cardiovascular Surgery Database.Off- pump technique reduces surgical mortality after elective coronary artery bypass grafting in patients with preoperative renal failure.	The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery Home Page	156(3)	976-983	2018.9
Kuno, T.,	Effects of body habitus	PLoS One	13(9)		2018.9

Numasawa, Y., Sawano, M., Katsuki, T., Kodaira, M., Ueda, I., Suzuki, M., Noma, S., Negishi, K., Ishikawa, S., <u>Miyata H.</u> , Fukuda, K., Kohsaka S.	on contrast-induced acute kidney injury after percutaneous coronary intervention				
Hiraide, T., Sawano, M., Shiraishi, Y., Ueda, I., Numasawa, Y., Noma, S., Negishi, K., Ohki, T., Yuasa, S., Hayashida, K., <u>Miyata H.</u> , Fukuda, K., Kohsaka, S	Impact of catheter- induced iatrogenic coronary artery dissection with or without postprocedural flow impairment: A report from a Japanese multicenter percutaneous coronary intervention registry.	PLoS One	13(9)		2018.9
Tomotaki, A., Kumamaru, H., Hashimoto, H., Takahashi, A., Ono, M., Iwanaka, T., <u>Miyata H.</u>	Evaluating the quality of data from the Japanese National Clinical Database 2011 via a comparison with regional government report data and medical charts.	Surgery Today	49(1)	65-71	2018.8
Imamura, M., Hirata, K., Unno, M., Kamiya, K., Gotoh, M., Konno, H., Shibata, A., Sugihara, K., Takahashi, A., Nishiyama, M., Hakamada, K., Fukui, T., Furukawa, T., Mizushim, T., Mizuma, M., <u>Miyata H.</u> , Mori, M., Takemasa, I., Mizuguchi, T., Fujiwara, T.	Current status of projects for developing cancer-related clinical practice guidelines in Japan and recommendations for the future.	International Journal of Clinical Oncology	24(2)	189-195	2018.8
Minakawa, M., Fukuda, I., <u>Miyata H.</u> , Motomura, N., Takamoto, S., Taniguchi, S.,	Japan Cardiovascular Surgery Database Organization. Outcomes of Pulmonary Embolectomy for Acute	Circulation Journal	82(8)	2184-2190	2018.7

Daitoku, K., Kondo, N	Pulmonary Embolism.				
Handa, N., Kumamaru, H., Torikai, K., Kohsaka, S., Takayama, M., Kobayashi, J., Ogawa, H., Shirato, H., Ishii, K., Koike, K., Yokoyama, Y., <u>Miyata H.</u> , Motomura, N., Sawam Y.	Japanese TAVR Registry Participants, Learning Curve for Transcatheter Aortic Valve Implantation Under a Controlled Introduction System - Initial Analysis of a Japanese Nationwide Registry.	Circulation Journal	82(7)	1951-1958	2018.6
宮田哲郎, 遠藤 将光, 東信良, 大木隆生, 古森 公浩, 佐藤紀, 遠藤俊哉, 石田 敦久, 和泉裕一, 井上芳徳, 内田 恒, 黒澤弘二, 児玉章朗, 駒井 宏好, 重松邦広, 渋谷卓, 杉本郁 夫, 出口順夫, 錦見尚道, 保科 克行, 前田英明, 正木久男, 三井 信介, 緑川博文, 山岡輝年, 山下 裕也, 柚木靖弘, 高橋新, <u>宮田裕 章</u> ,	日本血管外科学会 JCLIMB 委員会、 NCD JCLIMB 分析チ ーム 2015 年 JAPAN Critical Limb Ischemia Database(JCLIMB)年 次報告	日本血管外科学 会雑誌	27(3)	155-158	2018.6
Mizushima, T., Yamamoto, H., Marubashi, S., Kamiya, K., Wakabayashi, G., <u>Miyata H.</u> , Seto, Y., Doki, Y., Mori, M.	Risk assessment of morbidity after right hemicolectomy based on the National Clinical Database in Japan.	Annals of Gastroenterologi cal Surgery	2(3)	220-230	2018.4
白井規朗, 岡本 晋弥, 上原秀一 郎, 小笠原有紀, 古賀寛之, 佐々 木隆士, 寺脇幹, 照井慶太, 藤代 準, 藤野明浩, 文野誠久, 古村 眞, 平原憲道, 岡本竜弥, 富田 紘史, 藤雄木亨 真, 渡辺栄一郎,	日本小児外科学会 NCD 連絡委員会 National Clinical Database(小児外科領 域)Annual Report 2013-2014	日本小児外科学 会雑誌	51(4)	314-335	2018.4

米倉竹夫, 家入里志, 伊勢一哉, 佐々木英之, 下野隆一, 高安肇, 尾藤祐子, 宮田裕章, 江角元史郎					
Nakata K, Yamamoto H, <u>Miyata H</u> , Kakeji Y, Seto Y, Yamaue H, Yamamoto M, Nakamura M.	Definition of the objective threshold of pancreatoduodenectomy with nationwide data systems.	J Hepatobiliary Pancreat Sci.	(in press)		2019
Ohkura Y, <u>Miyata H</u> , Konno H, Udagawa H, Ueno M, Shindoh J, Kumamaru H, Wakabayashi G, Gotoh M, Mori M.	Development of a model predicting the risk of eight major postoperative complications after esophagectomy based on cases in the Japan National Clinical Database.	J Surg Oncol.	(in press)		2019
Yoshida N, Yamamoto H, <u>Miyata H</u> , Baba H.	Response to Comment on "Can Minimally Invasive Esophagectomy Replace Open Esophagectomy for Esophageal Cancer? Latest Analysis of 24,233 Esophagectomies From the Japanese National Clinical Database".	Ann Surg.	270(6)	e110-e111	2019
Yamamoto H, <u>Miyata H</u> , Tanemoto K, Saiki Y, Yokoyama H, Fukuchi E, Motomura N, Ueda Y, Takamoto S.	Quality improvement in cardiovascular surgery: results of a surgical quality improvement programme using a nationwide clinical database and database-driven site visits in Japan.	BMJ Qual Saf.	(in press)		2019
Kudo M, Izumi N, Kubo S, Kokudo N, Sakamoto M, Shiina S, Tateishi R, Nakashima O, Murakami T, Matsuyama Y, Takahashi A, <u>Miyata H</u> , Takayama T.	Report of the 20th Nationwide Follow-up Survey of Primary Liver Cancer in Japan.	Hepatol Res.	(in press)		2019

Motoyama S, Yamamoto H, <u>Miyata H</u> , Yano M, Yasuda T, Ohira M, Kajiyama Y, Toh Y, Watanabe M, Kakeji Y, Seto Y, Doki Y, Matsubara H.	Impact of certification status of the institute and surgeon on short- term outcomes after surgery for thoracic esophageal cancer: evaluation using data on 16,752 patients from the National Clinical Database in Japan.	Esophagus.	(in press)		2019
Endo S, Ikeda N, Kondo T, Nakajima J, Kondo H, Shimada Y, Sato M, Toyooka S, Okada Y, Sato Y, Yoshino I, Okada M, Okumura M, Chida M, Fukuchi E, <u>Miyata H</u> .	Correction to: Risk assessments for broncho-pleural fistula and respiratory failure after lung cancer surgery by National Clinical Database Japan.	Gen Thorac Cardiovasc Surg.	67(10)	904-906	2019
Nawata K, D'Agostino RS, Habib RH, Kumamaru H, Hirahara N, <u>Miyata H</u> , Motomura N, Takamoto S, Shahian DM, Grover FL.	First Database Comparison Between the United States and Japan: Coronary Artery Bypass Grafting.	Ann Thorac Surg.	(in press)		2019
Sakaguchi G, <u>Miyata H</u> , Motomura N, Ueki C, Fukuchi E, Yamamoto H, Takamoto S, Marui A.	Surgical Repair of Post- Infarction Ventricular Septal Defect- Findings From a Japanese National Database.	Circ J.	83(11)	2229-2235	2019
Abe T, Nakano K, Hirahara N, Motomura N, <u>Miyata H</u> , Takamoto S.	Correction to: Current status of cardiovascular surgery in Japan, 2015 and 2016, a report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database. 3-Valvular heart surgery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg.	67(9)	750	2019
Saito A, Hirahara N, Motomura N, <u>Miyata H</u> , Takamoto S.	Current Status of cardiovascular surgery in Japan, 2015 and 2016: a report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database. 2-Isolated coronary artery bypass	Gen Thorac Cardiovasc Surg.	67(9)	736-741	2019

	grafting surgery.				
Kubo M, Kawai M, Kumamaru H, <u>Miyata H</u> , Tamura K, Yoshida M, Ogo E, Nagahashi M, Asaga S, Kojima Y, Kadoya T, Aogi K, Niikura N, Miyashita M, Iijima K, Hayashi N, Yamamoto Y, Imoto S, Jinno H.	A population-based recurrence risk management study of patients with pT1 node-negative HER2+reast cancer: a National Clinical Database study.	Breast Cancer Res Treat.	178(3)	647-656	2019
Kato M, Tanaka K, Kida M, Ryozaawa S, Matsuda K, Fujishiro M, Saito Y, Ohtsuka K, Oda I, Katada C, Kobayashi K, Hoteya S, Horimatsu T, Kodashima S, Matsuda T, Muto M, Yamamoto H, Iwakiri R, Kutsumi H, <u>Miyata H</u> , Kato M, Haruma K, et al.	Multicenter database registry for endoscopic retrograde cholangiopancreatography: Japan Endoscopic Database Project.	Dig Endosc.	(in press)		2019
Hata T, Ikeda M, <u>Miyata H</u> , Nomura M, Gotoh M, Sakon M, Yamamoto K, Wakabayashi G, Seto Y, Mori M, Doki Y.	Frequency and risk factors for venous thromboembolism after gastroenterological surgery based on the Japanese National Clinical Database.	Ann Gastroenterol Surg.	3(5)	534-543	2019
Hirahara N, <u>Miyata H</u> , Motomura N, Kohsaka S, Nishimura T, Takamoto S.	Procedure- and Hospital-Level Variation of Deep Sternal Wound Infection From All-Japan Registry.	Ann Thorac Surg	(in press)		2019
Hojo T, Masuda N, Iwamoto T, Niikura N, Anan K, Aogi K, Ohnishi T, Yamauchi C, Yoshida M, Kinoshita T, Masuoka H,	Taxane-based combinations as adjuvant chemotherapy for node-positive ER-positive breast cancer based on 2004-2009 data from the Breast Cancer Registry of the Japanese Breast Cancer	Breast Cancer.	(in press)		2019

Sagara Y, Sakatani T, Kojima Y, Tsuda H, Kumamaru H, <u>Miyata H</u> , Nakamura S.	Society.				
Hirata Y, Hirahara N, Murakami A, Motomura N, <u>Miyata H</u> , Takamoto S.	Current status of cardiovascular surgery in Japan, 2015 and 2016: a report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database. 1-congenital heart surgery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg.	67(9)	731-735	2019
Shimizu H, Hirahara N, Motomura N, <u>Miyata H</u> , Takamoto S.	Current status of cardiovascular surgery in Japan, 2015 and 2016: analysis of data from Japan Cardiovascular Surgery Database. 4-Thoracic aortic surgery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg.	67(9)	751-757	2019
Kubota K, Aoki T, Kumamaru H, Shiraki T, <u>Miyata H</u> , Seto Y, Kakeji Y, Yamamoto M.	Use of the National Clinical Database to evaluate the association between preoperative liver function and postoperative complications among patients undergoing hepatectomy.	J Hepatobiliary Pancreat Sci.	26(8)	331-340	2019
Abe T, Nakano K, Hirahara N, Motomura N, <u>Miyata H</u> , Takamoto S.	Current status of cardiovascular surgery in Japan, 2015 and 2016, a report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database. 3-Valvular heart surgery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg.	67(9)	742-749	2019
Nishi H, <u>Miyata H</u> , Motomura N, Takahashi T, Sawa Y, Takamoto S; Japan Cardiovascular Surgery Database Organization.	Which Patients Are Candidates for Minimally Invasive Mitral Valve Surgery? Establishment of Risk Calculators Using National Clinical Database.	Circ J.	83(8)	1674-1681	2019
Inokuchi M, Kumamaru H, Nakagawa M, <u>Miyata H</u> , Kakeji Y, Seto Y, Kojima K.	Feasibility of laparoscopic gastrectomy for patients with poor physical status: a retrospective cohort study based on a nationwide registry	Gastric Cancer.	(in press)		2019

	database in Japan.				
Haga Y, <u>Miyata H</u> , Tsuburaya A, Gotoh M, Yoshida K, Konno H, Seto Y, Fujiwara Y, Baba H.	Development and validation of grade-based prediction models for postoperative morbidity in gastric cancer resection using a Japanese web-based nationwide registry.	Ann Gastroenterol Surg.	3(5)	544-551	2019
Kamiya K, Yamamoto T, Tsuchihashi-Makaya M, Ikegame T, Takahashi T, Sato Y, Kotooka N, Saito Y, Tsutsui H, <u>Miyata H</u> , Isobe M.	Nationwide Survey of Multidisciplinary Care and Cardiac Rehabilitation for Patients With Heart Failure in Japan- An Analysis of the AMED-CHF Study.	Circ J.	83(7)	1546-1552	2019
Inohara T, Kohsaka S, Yamaji K, Ishii H, Amano T, Uemura S, Kadota K, Kumamaru H, <u>Miyata H</u> , Nakamura M.	Risk stratification model for in-hospital death in patients undergoing percutaneous coronary intervention: a nationwide retrospective cohort study in Japan.	BMJ Open.	9(5)	e026683	2019
Hasegawa H, Takahashi A, Kakeji Y, Ueno H, Eguchi S, Endo I, Sasaki A, Takiguchi S, Takeuchi H, Hashimoto M, Horiguchi A, Masaki T, Marubashi S, Yoshida K, Konno H, Gotoh M, <u>Miyata H</u> , Seto Y.	Surgical outcomes of gastroenterological surgery in Japan: Report of the National Clinical Database 2011-2017.	Ann Gastroenterol Surg.	3(4)	426-450	2019
Miyashita M, Niikura N, Kumamaru H, <u>Miyata H</u> , Iwamoto T, Kawai M, Anan K, Hayashi N, Aogi K, Ishida T, Masuoka H, Iijima K, Masuda	Role of Postmastectomy Radiotherapy After Neoadjuvant Chemotherapy in Breast Cancer Patients: A Study from the Japanese Breast Cancer Registry.	Ann Surg Oncol.	26(8)	2475-2485	2019

S, Tsugawa K, Kinoshita T, Tsuda H, Nakamura S, Tokuda Y.					
Takesue Y, <u>Miyata H</u> , Gotoh M, Wakabayashi G, Konno H, Mori M, Kumamaru H, Ueda T, Nakajima K, Uchino M, Seto Y.	Risk calculator for predicting postoperative pneumonia after gastroenterological surgery based on a national Japanese database.	Ann Gastroenterol Surg.	3(4)	405-415	2019
Marubashi S, Liu JY, <u>Miyata H</u> , Cohen ME, Ko CY, Seto Y, Gotoh M.	Surgical quality improvement programs in Japan and USA: Report from the collaborative projects between Japanese Society of Gastroenterological Surgery and American College of Surgeons National Surgical Quality Improvement Program.	Ann Gastroenterol Surg.	3(4)	343-351	2019
Hirata K, Imamura M, Fujiwara T, Fukui T, Furukawa T, Gotoh M, Hakamada K, Ishiguro M, Kakeji Y, Konno H, <u>Miyata H</u> , Mori M, Okita K, Sato M, Shibata A, Takemasa I, Unno M, Yokoi K, Nishidate T, Nishiyama M.	Current status of site- specific cancer registry system for the clinical researches: aiming for future contribution by the assessment of present medical care.	Int J Clin Oncol.	24(9)	1161-1168	2019
Toh Y, Yamamoto H, <u>Miyata H</u> , Gotoh M, Watanabe M, Matsubara H, Kakeji Y, Seto Y.	Significance of the board-certified surgeon systems and clinical practice guideline adherence to surgical treatment of esophageal cancer in Japan: a questionnaire survey of departments registered in the National Clinical Database.	Esophagus.	16(4)	362-370	2019

Fujinami-Yokokawa Y, Pontikos N, Yang L, Tsunoda K, Yoshitake K, Iwata T, <u>Miyata H</u> , Fujinami K, Japan Eye Genetics Consortium OBO.	Prediction of Causative Genes in Inherited Retinal Disorders from Spectral-Domain Optical Coherence Tomography Utilizing Deep Learning Techniques.	J Ophthalmol.		1691064	2019
Daimon M, <u>Miyata H</u> , Motomura N, Okita Y, Takamoto S, Kanki S, Katsumata T.	Outcomes of Thoracic Aortic Surgery in Patients With Coronary Artery Disease Based on the Japan Adult Cardiovascular Surgery Database.	Circ J.	83(5)	978-984	2019
Kunihara T, Ichihara N, <u>Miyata H</u> , Motomura N, Sasaki K, Matsuhama M, Takamoto S; Japan Cardiovascular Surgery Database.	Valve-sparing root replacement and composite valve graft replacement in patients with aortic regurgitation: From the Japan Cardiovascular Surgery Database.	J Thorac Cardiovasc Surg.	158(6)	1501-1511	2019
Miyazaki T, Fukuchi E, Yamamoto H, <u>Miyata H</u> , Tanaka F, Okada M, Suzuki K, Yoshino I, Endo S, Sato Y, Chida M, Nagayasu T.	Certified thoracic surgeons in Japan: a national database survey on risk-adjusted mortality associated with lung resection.	Surgery Today	Online first		2021
Sawano M, Spertus JA, Masoudi FA, Rumsfeld JS, Numasawa Y, Inohara T, Kennedy K, Ueda I, <u>Miyata H</u> , Fukuda K, Kohsaka S.	Bleeding avoidance strategies and percutaneous coronary intervention outcomes: A 10-year observation from a Japanese Multicenter Registry.	Am Heart J	235	113-124	2021
Takahashi A, Yamamoto H, Kakeji Y, Marubashi S, Gotoh M, Seto Y, <u>Miyata H</u> .	Estimates of the effects of centralization policy for surgery in Japan. Does centralization affect the quality of health care for esophagectomies?.	Surgery Today	Online ahead of print		2021

Hasegawa H, Takahashi A, Kanaji S, Kakeji Y, Marubashi S, Konno H, Gotoh M, <u>Miyata H</u> , Kitagawa Y, Seto Y.	Validation of data quality in a nationwide gastroenterological surgical database: The National Clinical Database site-visit and remote audits, 2016–2018.	Annals of Gastroenterological Surgery.	Online ahead of print		2020
Nomura S, Sakamoto H, Ishizuka A, Katsuma Y, Akashi H, <u>Miyata H</u> .	Ongoing debate on data governance principles for achieving Universal Health Coverage: a proposal to post- G20 Osaka Summit meetings.	Glob Health Action	13(1)	1859822	2020
Nishioka N, Ichihara N, Bando K, Motomura N, Koyama N, <u>Miyata H</u> , Kohsaka S, Takamoto S, Hashimoto K.	Body mass index as a tool for optimizing surgical care in coronary artery bypass grafting through understanding risks of specific complications.	The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery.	160(2)	409-420	2020
Sugai K, Ichimura H, Sekine Y, Kobayashi K, Matsuzaki K, Shimizu K, Sakata A, Sato Y.	Posterior mediastinal nodule diagnosed as a tuberculous granuloma infiltrating into the aorta.	General thoracic and cardiovascular surgery	Online ahead of print		2020
Nomura S, <u>Miyata H</u> .	Digitization of the approach to food and nutrition respecting individual health values.	Nutr Rev	78(Supplement_3)	46-48	2020
Okita Y, Kumamaru H, Motomura N, <u>Miyata H</u> , Takamoto S.	Current status of open surgery for acute type A aortic dissection in Japan.	J Thorac Cardiovasc Surg	S0022-5223(20)	33045-2	2020
Ikeda-Sonoda S, Ichihara N, Okochi J, Takahashi A, <u>Miyata H</u> .	Association of care workers' job satisfaction and global happiness with change of functional performance of severely disabled elderly residents in nursing homes: a cohort and questionnaire study in Japan.	BMJ Open	10(10)	e033937	2020
Shimada K, Hamada S, Sawano M,	Guideline- Based Medications for Older Adults Discharged after	Tohoku J Exp Med	252(2)	143-152	2020

Yamamoto H, Yoshie S, Iijima K, <u>Miyata H.</u>	Percutaneous Coronary Intervention in a Suburban City of Japan: A Cohort Study Using Claims Data.				
Akagi T, Endo H, Inomata M, Yamamoto H, Mori T, Kojima K, Kuroyanagi H, Sakai Y, Nakajima K, Shiroshita H, Etoh T, Saida Y, Yamamoto S, Hasegawa H, Ueno H, Kakeji Y, <u>Miyata H.</u> Kitagawa Y, Watanabe M.	Clinical impact of Endoscopic Surgical Skill Qualification System (ESSQS) by Japan Society for Endoscopic Surgery (JSES) for laparoscopic distal gastrectomy and low anterior resection based on the National Clinical Database (NCD) registry.	Ann Gastroenterol Surg	4(6)	721-734	2020
Ogiya R, Niikura N, Kumamaru H, Takeuchi Y, Okamura T, Kinoshita T, Aogi K, Anan K, Iijima K, Ishida T, Iwamoto T, Kawai M, Kojima Y, Sakatani T, Sagara Y, Hayashi N, Masuoka H, Yoshida M, <u>Miyata H.</u> Tsuda H, Imoto S, Jinno H.	reast cancer survival among Japanese individuals and US residents of Japanese and other origins: a comparative registry- based study.	Breast Cancer Res Treat	184(2)	585-596	2020
Matsuda T, Endo H, Inomata M, Hasegawa H, Kumamaru H, <u>Miyata H.</u> Sakai Y, Kakeji Y, Kitagawa Y, Watanabe M.	Clinical outcome of laparoscopic vs open right hemicolectomy for colon cancer: A propensity score matching analysis of the Japanese National Clinical Database.	Ann Gastroenterol Surg	4(6)	693-700	2020
Nomura S, Yoneoka D, Tanoue Y, Kawashima T, Shi S, Eguchi A, <u>Miyata H.</u>	Time to Reconsider Diverse Ways of Working in Japan to Promote Social Distancing Measures against the COVID-19.	J Urban Health	97(4)	457-460	2020
Hayashi N, Kumamaru H, Isozumi U, Aogi	Annual report of the Japanese Breast Cancer Registry for 2017.	Breast Cancer	27(5)	803-809	2020

K, Asaga S, Iijima K, Kadoya T, Kojima Y, Kubo M, Miyashita M, <u>Miyata H</u> , Nagahashi M, Niikura N, Ogo E, Tamura K, Tanakura K, Yamamoto Y, Yoshida M, Imoto S, Jinno H.					
Tabata M, Kumamaru H, Ono A, <u>Miyata H</u> , Sato Y, Motomura N.	The Association of In- Hospital Transcatheter Aortic Valve Replacement Availability on Outcomes of Surgical Aortic Valve Replacement in Elderly Patients.	Circ J	84(9)	1599-1604	2020
Ikeda N, Endo S, Fukuchi E, Nakajima J, Yokoi K, Chida M, Date H, Iwasaki A, Yokomise H, Sato M, Okumura M, Yamamoto H, <u>Miyata H</u> , Kondo T.	Current status of surgery for clinical stage IA lung cancer in Japan: analysis of the national clinical database.	Surg Today	Online ahead of print		2020
Hirata Y, Shimizu H, Kumamaru H, Takamoto S, Motomura N, <u>Miyata H</u> , Okita Y.	Congenital Heart Disease After the Fukushima Nuclear Accident: The Japan Cardiovascular Surgery Database Study.	J Am Heart Assoc	9(13)	e014787	2020
Yamauchi T, Yamamoto H, <u>Miyata H</u> , Kobayashi J, Masai T, Motomura N.	Surgical Aortic Valve Replacement for Aortic Stenosis in Dialysis Patients- Analysis of Japan Cardiovascular Surgery Database.	Circ J	84(8)	1271-1276	2020
Nomura S, Siesjö V, Tomson G, Mohr W, Fukuchi E, Shibuya K, Tangcharoensathi en V, <u>Miyata H</u> .	Contributions of information and communications technology to future health systems and Universal Health Coverage: application of Japan's experiences.	Health Res Policy Syst	18(1)	73	2020

Fujita T, Yamamoto H, Kobayashi J, Fukushima S, <u>Miyata H</u> , Yamashita K, Motomura N.	Mitral valve surgery for ischemic papillary muscle rupture: outcomes from the Japan cardiovascular surgery database.	Gen Thorac Cardiovasc Surg	Online ahead of print		2020
Hoshino N, Endo H, Hida K, Ichihara N, Takahashi Y, Hasegawa H, Kimura T, Kitagawa Y, Kakeji Y, <u>Miyata H</u> , Nakayama T, Sakai Y.	Emergency surgery for gastrointestinal cancer: A nationwide study in Japan based on the National Clinical Database.	Ann Gastroenterol Surg	4(5)	549-561	2020
Fujinami-Yokokawa Y, Fujinami K, Kuniyoshi K, Hayashi T, Ueno S, Mizota A, Shinoda K, Arno G, Pontikos N, Yang L, Liu X, Sakuramoto H, Katagiri S, Mizobuchi K, Kominami T, Terasaki H, Nakamura N, Kameya S, Yoshitake K, Miyake Y, Kurihara T, Tsubota K, <u>Miyata H</u> , Iwata T, Tsunoda K; Japan Eye Genetics Consortium.	Clinical and Genetic Characteristics of 18 Patients from 13 Japanese Families with CRX-associated retinal disorder: Identification of Genotype-phenotype Association.	Sci Rep	10(1)	9531	2020
Yoneoka D, Kawashima T, Tanoue Y, Nomura S, Ejima K, Shi S, Eguchi A, Taniguchi T, Sakamoto H, Kunishima H, Gilmour S, Nishiura H, <u>Miyata H</u> .	Early SNS-Based Monitoring System for the COVID-19 Outbreak in Japan: A Population-Level Observational Study.	J Epidemiol	30(8)	362-370	2020
Shi S, Tanaka S, Ueno R, Gilmour	Travel restrictions and SARS-CoV-2	Bull World Health Organ	98(8)	518-529	2020

S, Tanoue Y, Kawashima T, Nomura S, Eguchi A, <u>Miyata H</u> , Yoneoka D.	transmission: an effective distance approach to estimate impact.				
Fujiya K, Kumamaru H, Fujiwara Y, <u>Miyata H</u> , Tsuburaya A, Koderu Y, Kitagawa Y, Konno H, Terashima M.	Preoperative risk factors for postoperative intra-abdominal infectious complication after gastrectomy for gastric cancer using a Japanese web-based nationwide database.	Gastric Cancer	Online ahead of print		2020
Kubo M, Kumamaru H, Isozumi U, Miyashita M, Nagahashi M, Kadoya T, Kojima Y, Aogi K, Hayashi N, Tamura K, Asaga S, Niikura N, Ogo E, Iijima K, Tanakura K, Yoshida M, <u>Miyata H</u> , Yamamoto Y, Imoto S, Jinno H.	Annual report of the Japanese Breast Cancer Society registry for 2016.	Breast Cancer	27(4)	511-518	2020
Mizuma M, Yamamoto H, <u>Miyata H</u> , Gotoh M, Unno M, Shimosegawa T, Toh Y, Kakeji Y, Seto Y.	Impact of a board certification system and implementation of clinical practice guidelines for pancreatic cancer on mortality of pancreaticoduodenectomy.	Surg Today	Online ahead of print		2020
Tanoue Y, Nomura S, Yoneoka D, Kawashima T, Eguchi A, Shi S, Harada N, <u>Miyata H</u> .	Mental health of family, friends, and co-workers of COVID-19 patients in Japan.	Psychiatry Res	291	113067	2020
Kohsaka S, Kumamaru H, Inohara T, Amano T, Akasaka T, <u>Miyata H</u> , Motomura N, Nakamura M.	Outcome of Percutaneous Coronary Intervention in Relation to the Institutional Volume of Coronary Artery Bypass Surgery.	J Clin Med.	9(5)	1267	2020
Nishimura S,	Adherence to	Hypertens Res	Online		2020

Kumamaru H, Shoji S, Sawano M, Kohsaka S, <u>Miyata H</u> .	antihypertensive medication and its predictors among non-elderly adults in Japan.		ahead of print		
Ikemura N, Shiraishi Y, Sawano M, Ueda I, Numasawa Y, Noma S, Suzuki M, Momiyama Y, Hayashida K, Yuasa S, <u>Miyata H</u> , Fukuda K, Kohsaka S.	Exploring Triaging and Short- Term Outcomes of Early Invasive Strategy in Non-ST Segment Elevation Acute Coronary Syndrome: A Report from Japanese Multicenter Registry.	J Clin Med	9(4)	1106	2020
Terui K, Hirahara N, Tachimori H, Kato N, Fujishiro J, Watanabe E, Tomita H, Okamoto T, Fujiogi M, Okamoto S, Yonekura T, <u>Miyata H</u> , Usui N.	Development and validation of risk models for mortality and morbidity in 12 major pediatric surgical procedures: A study from the National Clinical Database- Pediatric of Japan.	J Pediatr Surg	55(10)	2064-2070	2020
Okumura K, Tomita H, Nakai M, Kodani E, Akao M, Suzuki S, Hayashi K, Sawano M, Goya M, Yamashita T, Fukuda K, Ogawa H, Tsuda T, Isobe M, Toyoda K, Miyamoto Y, <u>Miyata H</u> , Okamura T, Sasahara Y; J-RISK AF Research Group.	Risk Factors Associated With Ischemic Stroke in Japanese Patients With Nonvalvular Atrial Fibrillation.	JAMA Netw Open	3(4)	e202881	2020
Abe T, Yamamoto H, <u>Miyata H</u> , Motomura N, Tokuda Y, Tanemoto K, Usui A, Takamoto S.	Patient Trends and Outcomes of Surgery for Type A Acute Aortic Dissection in Japan: An Analysis of More Than 10 000 Patients From the Japan Cardiovascular Surgery Database.	Eur J Cardiothorac Surg	57(4)	660-667	2020
Committee for Scientific Affairs, The Japanese Association for	Thoracic and cardiovascular surgeries in Japan during 2017 : Annual report by the	Gen Thorac Cardiovasc Surg	68(4)	414-449	2020

Thoracic Surgery., Shimizu H, Okada M, Tangoku A, Doki Y, Endo S, Fukuda H, Hirata Y, Iwata H, Kobayashi J, Kumamaru H, Miyata H, Motomura N, Natsugoe S, Ozawa S, Saiki Y, Saito A, Saji H, Sato Y, Taketani T, Tanemoto K, Tatsuishi W, et al.	Japanese Association for Thoracic Surgery.				
Igarashi T, Sato Y, Satokawa H, Takase S, Wakamatsu H, Seto Y, Iwai-T M, Fujimiya T, Shinjo H, Yokoyama H.	The results of entry-oriented strategy for acute type A aortic dissection in octogenarian: an 18-year experience.	Er J Cardio Torac Surg	58(5)	949-56	2020
横堀雄太, 杉浦康夫, 野崎威功真, 藤田則子, 立森久照, 宮田裕章.	我が国の医療の国際展開へむけた医療技術等国際展開推進事業の取り組み.保健医療サービスに直結する研修による官民連携を通じたビジネス展開と開発の相乗効果.	国際保健医療	35(2)	121-132	2020
志水 秀行, 平原 憲道, 本村昇, 宮田裕章, 高本 眞一, 日本心臓血管外科手術データベース機構.	本邦における心臓血管外科手術の現状 2017 年、2018 年の日本心臓血管外科手術データベースからの報告.胸部大動脈手術.	日本心臓血管外科学会雑誌	49(4)	169-179	2020
阿部知伸, 隈丸拓, 中野清治, 本村昇, 宮田裕章, 高本眞一, 日本心臓血管外科手術データベース機構.	本邦における心臓血管外科手術の現. 2017 年、2018 年の日本心臓血管外科手術データベースからの報告. 心臓弁膜症手術.	日本心臓血管外科学会雑誌	49(4)	160-168	2020
齋藤綾, 隈丸拓, 本村昇, 宮田裕章, 高本眞一, 日本心臓血管外	本邦における心臓血管外科手術の現状 2017 年、2018 年の日本心臓血管外科手	日本心臓血管外科学会雑誌	49(4)	155-159	2020

科手術データベース機構.	術データベースからの報告.単独冠動脈バイパス手術.				
平田康隆, 平原憲道, 村上新, 本村昇, 宮田裕章, 高本眞一, 日本心臓血管外科手術データベース機構.	本邦における心臓血管外科手術の現状 2017 年、2018 年の日本心臓血管外科手術データベースからの報告.先天性心疾患手術.	日本心臓血管外科学会雑誌	49(4)	151-154	2020
中井 真尚, 山本 博之, 種本和雄, 宮田裕章, 本村 昇.	心臓胸部大血管領域における SSI の現状・日本心臓血管外科手術 データベースを用いた分析.	日本外科感染症学会雑誌	17(2)	54-59	2020
Kakeji Y, Yamamoto H, Ueno H, Eguchi S, Endo I, Sasaki A, Takiguchi S, Takeuchi H, Hashimoto M, Horiguchi A, Masaki T, Marubashi S, Yoshida K, Miyata H, Konno H, Gotoh M, Kitagawa Y, Mori M, Seto Y.	Development of gastroenterological surgery over the last decade in Japan: analysis of the National Clinical Database.	Surg Today.	51(2)	187-193	2021
Committee for Scientific Affairs, The Japanese Association for Thoracic Surgery, Shimizu H, Okada M, Toh Y, Doki Y, Endo S, Fukuda H, Hirata Y, Iwata H, Kobayashi J, Kumamaru H, Miyata H, Motomura N, Natsugoe S, Ozawa S, Saiki Y, Saito A, Saji H, Sato Y, Taketani T, Tanemoto K, Tangoku A, Tatsuishi W, Tsukihara H, Watanabe M, Yamamoto H,	Thoracic and cardiovascular surgeries in Japan during 2018 : Annual report by the Japanese Association for Thoracic Surgery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg.	69(1)	179-212.	2021

Minatoya K, Yokoi K, Okita Y, Tsuchida M, Sawa Y.					
Watanabe M, Tachimori Y, Oyama T, Toh Y, Matsubara H, Ueno M, Kono K, Uno T, Ishihara R, Muro K, Numasaki H, Tanaka K, Ozawa S, Murakami K, Usune S, Takahashi A, <u>Miyata H</u> ; Registration Committee for Esophageal Cancer of the Japan Esophageal Society.	Comprehensive registry of esophageal cancer in Japan, 2013.	Esophagus.	18(1)	1-24.	2021
Tatsuishi W, Kumamaru H, Nakano K, <u>Miyata H</u> , Motomura N.	Evaluation of postoperative outcomes of valve reoperation: a retrospective study.	Eur J Cardiothorac Surg.	59(4)	869-877.	2021
Hirahara N, <u>Miyata H</u> , Kato N, Hirata Y, Murakami A, Motomura N.	Development of Bayesian Mortality Categories for Congenital Cardiac Surgery in Japan.	Ann Thorac Surg.	112(3)	839-845	2021
Tamura Y, Kumamaru H, Abe K, Satoh T, <u>Miyata H</u> , Ogawa A, Tanabe N, Hatano M, Yao A, Tsujino I, Fukuda K, Kimura H, Kuwana M, Matsubara H, Tatsumi K; Japan Pulmonary Hypertension Registry (JAPHR) Network.	Improvements in French risk stratification score were correlated with reductions in mean pulmonary artery pressure in pulmonary arterial hypertension: a subanalysis of the Japan Pulmonary Hypertension Registry (JAPHR).	BMC Pulm Med.	21(1)	28	2021
Fujishiro J, Fujiogi M, Hirahara N, Terui K, Okamoto T, Watanabe E,	Abdominal Drainage at Appendectomy for Complicated Appendicitis in Children: A Propensity-	Ann Surg.	274(6)	e599-e604	2021

Ishimaru T, <u>Miyata H.</u>	matched Comparative Study.				
Kudo M, Izumi N, Kokudo N, Sakamoto M, Shiina S, Takayama T, Tateishi R, Nakashima O, Murakami T, Matsuyama Y, Takahashi A, <u>Miyata H</u> , Kubo S.	Report of the 21st Nationwide Follow-up Survey of Primary Liver Cancer in Japan (2010-2011).	Hepatol Res.	51(4)	355-405	2021
Saito A, Kumamaru H, <u>Miyata H</u> , Motomura N.	Device Use for Proximal Anastomosis on Ascending Aorta in Off-Pump Coronary Artery Bypass Grafting.	Ann Thorac Surg.	111(6)	1909-1915	2021
Yamashita YI, Yamamoto H, <u>Miyata H</u> , Kakeji Y, Kitagawa Y, Yamaue H, Yamamoto M, Baba H.	Risk factors for bile leakage: Latest analysis of 10 102 hepatectomies for hepatocellular carcinoma from the Japanese national clinical database.	J Hepatobiliary Pancreat Sci.	28(7)	556-562	2021
Sawaki M, Yamada A, Kumamaru H, <u>Miyata H</u> , Nakayama K, Shimizu C, Miyashita M, Honma N, Taira N, Saji S.	Clinicopathological characteristics, practical treatments, prognosis, and clinical issues of older breast cancer patients in Japan.	Breast Cancer.	28(1)	1-8	2021
Kohsaka S, Kumamaru H, Nishimura S, Shoji S, Nakatani E, Ichihara N, Yamamoto H, Miyachi Y, <u>Miyata H</u> .	Incidence of adverse cardiovascular events in type 2 diabetes mellitus patients after initiation of glucose-lowering agents: A population-based community study from the Shizuoka Kokuho database.	J Diabetes Investig.	12(8)	1452-1461	2021
Saito A, Kumamaru H, Motomura N, <u>Miyata H</u> , Takamoto S.	Status of cardiovascular surgery in Japan between 2017 and 2018: A report based on the Cardiovascular Surgery Database. 2. Isolated coronary artery bypass surgery.	Asian Cardiovasc Thorac Ann.	29(4)	294-299	2021
Iwatsuki M, Yamamoto H,	Association of surgeon and hospital volume	Gastric Cancer.	24(2)	526-534	2021

<u>Miyata H</u> , Kakeji Y, Yoshida K, Konno H, Seto Y, Baba H.	with postoperative mortality after total gastrectomy for gastric cancer: data from 71,307 Japanese patients collected from a nationwide web-based data entry system.				
Abe T, Kumamaru H, Nakano K, Motomura N, <u>Miyata H</u> , Takamoto S.	Status of cardiovascular surgery in Japan between 2017 and 2018: A report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database. 3. Valvular heart surgery.	Asian Cardiovasc Thorac Ann.	29(4)	300-309	2021
Shimizu H, Hirahara N, Motomura N, <u>Miyata H</u> , Takamoto S.	Status of cardiovascular surgery in Japan between 2017 and 2018: A report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database. 4. Thoracic aortic surgery.	Asian Cardiovasc Thorac Ann.	29(4)	278-288	2021
Ban D, Tanabe M, Kumamaru H, Nitta H, Otsuka Y, <u>Miyata H</u> , Kakeji Y, Kitagawa Y, Kaneko H, Wakabayashi G, Yamaue H, Yamamoto M.	Safe Dissemination of Laparoscopic Liver Resection in 27,146 Cases Between 2011 and 2017 From the National Clinical Database of Japan.	Ann Surg.	274(6)	1043-1050	2021
Fujishiro J, Watanabe E, Hirahara N, Terui K, Tomita H, Ishimaru T, <u>Miyata H</u> .	Laparoscopic Versus Open Appendectomy for Acute Appendicitis in Children: a Nationwide Retrospective Study on Postoperative Outcomes.	J Gastrointest Surg	25(4)	1036-1044	2021
Hirata Y, Hirahara N, Murakami A, Motomura N, <u>Miyata H</u> , Takamoto S.	Status of cardiovascular surgery in Japan: A report based on the Japan Cardiovascular Surgery Database 2017-2018. 1. Congenital heart surgery.	Asian Cardiovasc Thorac Ann.	29(4)	289-293	2021
Ueki C, Yamamoto H, Motomura N, <u>Miyata H</u> , Sakata R, Tsuneyoshi H.	Effect of Hospital and Surgeon Procedure Volumes on the Incidence of Intraoperative Conversion During Off-	Semin Thorac Cardiovasc Surg.	33(1)	49-58	2021

	Pump Coronary Artery Bypass Grafting.				
Ando Y, Takahashi A, Fujii M, Hasegawa H, Kimura T, Yamamoto H, Tajima T, Nishiguchi Y, Kakeji Y, <u>Miyata H</u> , Kitagawa Y,	Survey Regarding Gastrointestinal Stoma Construction and Closure in Japan	Ann Gastroenterol Surg	6(2)	212-226.	2022
Hoshino N, Endo H, Hida K, Kumamaru H, Hasegawa H, Ishigame T, Kitagawa Y, Kakeji Y, <u>Miyata H</u> , Sakai Y,	Laparoscopic Surgery for Acute Diffuse Peritonitis Due to Gastrointestinal Perforation: A Nationwide Epidemiologic Study Using the National Clinical Database	Ann Gastroenterol Surg	6(3)	430-444.	2022
Kaibori M, Ichihara N, <u>Miyata H</u> , Kakeji Y, Nanashima A, Kitagawa Y, Yamaue H, Yamamoto M, Endo I,	Surgical outcomes of laparoscopic versus open repeat liver resection for liver cancers: A report from a nationwide surgical database in Japan	J Hepatobiliary Pancreat Sci	29(8)	833-842.	2022
Kikuchi H, Endo H, Yamamoto H, Ozawa S, <u>Miyata H</u> , Kakeji Y, Matsubara H, Doki Y, Kitagawa Y, Takeuchi H,	Impact of Reconstruction Route on Postoperative Morbidity After Esophagectomy: Analysis of Esophagectomies in the Japanese National Clinical Database	Ann Gastroenterol Surg	6(1)	46-53.	2022
Kofunato Y, Takahashi A, Gotoh M, Kakeji Y, Seto Y, Konno H, Kumamaru H, <u>Miyata H</u> , Marubashi S,	Geriatric Risk Prediction Models for Major Gastroenterological Surgery Using the National Clinical Database in Japan: A Multicenter Prospective Cohort Study	Ann Surg	275(6)	1112-1120.	2022
Kudo M, Izumi N, Kokudo N, Sakamoto M, Shiina S, Takayama T, Tateishi R, Nakashima O, Murakami T,	Report of the 22nd nationwide follow-up Survey of Primary Liver Cancer in Japan (2012-2013)	Hepatol Res	52(1)	5-66.	2022

Matsuyama Y, Takahashi A, <u>Miyata H</u> , Kubo S,					
Kumamaru H, Kakeji Y, Fushimi K, Ishikawa K, B, Yamamoto H, Hashimoto H, Ono M, Iwanaka T, Marubashi S, Gotoh M, Seto Y, Kitagawa Y, <u>Miyata H</u> ,	Cost of postoperative complications of lower anterior resection for rectal cancer: a nationwide registry study of 15,187 patients	Surg Today	52(12)	1766-1774.	2022
Maeda H, Endo H, Ichihara N, <u>Miyata H</u> , Hasegawa H, Kamiya K, Kakeji Y, Yoshida K, Seto Y, Yamaue H, Yamamoto M, Kitagawa Y, Uemura S, Hanazaki K,	Correlation between surgical mortality for perforated peritonitis and days of the week for operations: A retrospective study using the Japanese National Clinical Database	Am J Surg	224(1 Pt B)	546-551.	2022
Mori T, Endo H, Misawa T, Yamaguchi S, Sakamoto Y, Inomata M, Sakai Y, Kakeji Y, <u>Miyata H</u> , Kitagawa Y, Watanabe M,	Involvement of a skill- qualified surgeon favorably influences outcomes of laparoscopic cholecystectomy performed for acute cholecystitis	Surg Endosc	36(8)	5956-5963.	2022
Nakajima Y, Tachimori H, Miyawaki Y, Fujiwara N, Kawada K, Sato H, <u>Miyata H</u> , Sakuramoto S, Shimada H, Watanabe M, Kakeji Y, Doki Y, Kitagawa Y,	A survey of the clinical outcomes of cervical esophageal carcinoma surgery focusing on the presence or absence of laryngectomy using the National Clinical Database in Japan	Esophagus	19(4)	569-575.	2022
Nakata K, Yamamoto H, <u>Miyata H</u> , Kakeji Y, Kitagawa Y, Nakamura M,	Comparison of outcomes between laparoscopic and open pancreaticoduodenecto my without radical lymphadenectomy: Results of coarsened exact matching analysis	Asian J Endosc Surg	15(1)	15-21.	2022

	using national database systems				
Nishigori T, Ichihara N, Obama K, Uyama I, <u>Miyata H</u> , Inomata M, Kakeji Y, Kitagawa Y, Sakai Y,	Prevalence and safety of robotic surgery for gastrointestinal malignant tumors in Japan	Ann Gastroenterol Surg	6(6)	746-752.	2022
Okamura A, Yamamoto H, Watanabe M, <u>Miyata H</u> , Kanaji S, Kamiya K, Kakeji Y, Doki Y, Kitagawa Y,	Association Between Preoperative HbA1c Levels and Complications after Esophagectomy: Analysis of 15,801 Esophagectomies From the National Clinical Database in Japan	Ann Surg	276(5)	e393-e399.	2022
Okoshi K, Endo H, Nomura S, Kono E, Fujita Y, Yasufuku I, Hida K, Yamamoto H, <u>Miyata H</u> , Yoshida K, Kakeji Y, Kitagawa Y,	Comparison of short term surgical outcomes of male and female gastrointestinal surgeons in Japan: retrospective cohort study	Bmj	378	e070568.	2022
Okushin K, Tateishi R, Takahashi A, Uchino K, Nakagomi R, Nakatsuka T, Minami T, Sato M, Fujishiro M, Hasegawa K, Eguchi Y, Kanto T, Kubo S, Yoshiji H, <u>Miyata H</u> , Izumi N, Kudo M, Koike K,	Current status of primary liver cancer and decompensated cirrhosis in Japan: launch of a nationwide registry for advanced liver diseases (REAL)	J Gastroenterol	57(8)	587-597.	2022
Suda K, Yamamoto H, Nishigori T, Obama K, Yoda Y, Hikage M, Shibasaki S, Tanaka T, Kakeji Y, Inomata M, Kitagawa Y, <u>Miyata H</u> , Terashima M, Noshiro H,	Safe implementation of robotic gastrectomy for gastric cancer under the requirements for universal health insurance coverage: a retrospective cohort study using a nationwide registry database in Japan	Gastric Cancer	25(2)	438-449.	2022

Uyama I,					
Uemura S, Endo H, Ichihara N, Miyata H, Maeda H, Hasegawa H, Kamiya K, Kakeji Y, Yoshida K, Yasuyuki S, Yamaue H, Yamamoto M, Kitagawa Y, Hanazaki K,	Day of surgery and mortality after pancreatoduodenectomy: A retrospective analysis of 29 270 surgical cases of pancreatic head cancer from Japan	J Hepatobiliary Pancreat Sci	29(7)	778-784.	2022
Watanabe M, Toh Y, Ishihara R, Kono K, Matsubara H, Murakami K, Muro K, Numasaki H, Oyama T, Ozawa S, Saeki H, Tanaka K, Tsushima T, Ueno M, Uno T, Yoshio T, Usune S, Takahashi A, Miyata H,	Comprehensive registry of esophageal cancer in Japan, 2014	Esophagus	19(1)	1-26.	2022
Hasegawa K, Takemura N, Yamashita T, Watadani T, Kaibori M, Kubo S, Shimada M, Nagano H, Hatano E, Aikata H, Iijima H, Ueshima K, Ohkawa K, Genda T, Tsuchiya K, Torimura T, Ikeda M, Furuse J, Akahane M, Kobayashi S, Sakurai H, Takeda A, Murakami T, Motosugi U, Matsuyama Y, Kudo M, Tateishi R, committee for Revision of the Clinical Practice Guidelines for	Clinical Practice Guidelines for Hepatocellular Carcinoma: The Japan Society of Hepatology 2021 version (5th JSH-HCC Guidelines).	Hepatol Res	53(5)	383-390	2023

Hepatocellular Carcinoma TJ.					
Abe-Doi M, Murayama R, Komiyama C, <u>Tateishi R</u> , Sanada H.	Effectiveness of Ultrasonography for Peripheral Catheter Insertion and Catheter Failure Prevention in Visible and Palpable Veins.	J Vasc Access	24(1)	14-21 Epub:2021/06/03 doi: 10.1177/11297298211022078	2023
Nishida N, Yamakawa M, Shiina T, Mekada Y, Nishida M, Sakamoto N, Nishimura T, Iijima H, Hirai T, Takahashi K, Sato M, <u>Tateishi R</u> , Ogawa M, Mori H, Kitano M, Toyoda H, Ogawa C, Kudo M, investigators JAI.	Artificial Intelligence (Ai) Models for the Ultrasonographic Diagnosis of Liver Tumors and Comparison of Diagnostic Accuracies between Ai and Human Experts.	J Gastroenterol	57(4)	309-21 Epub:2022/02/28 doi: 10.1007/s00535-022-01849-9	2022
Kudo M, Ikeda M, Ueshima K, Sakamoto M, Shiina S, <u>Tateishi R</u> , Nouse K, Hasegawa K, Furuse J, Miyayama S, Murakami T, Yamashita T, Kokudo N.	Response Evaluation Criteria in Cancer of the Liver Version 6 (Response Evaluation Criteria in Cancer of the Liver 2021 Revised Version)	Hepatol Res	52(4)	329-36 Epub:2022/01/26 doi: 10.1111/hepr.13746	2022
Tahata Y, Hikita H, Mochida S, Enomoto N, Kawada N, Kurosaki M, Ido A, Miki D, Yoshiji H, Takikawa Y, Sakamori R, Hiasa Y, Nakao K, Kato N, Ueno Y, Yatsuhashi H, Itoh Y, <u>Tateishi R</u> , Suda G, Takami T, Nakamoto Y, Asahina Y, Matsuura K, Yamashita T, Kanto T, Akuta	Liver-Related Events after Direct-Acting Antiviral Therapy in Patients with Hepatitis C Virus-Associated Cirrhosis.	J Gastroenterol	57(2)	120-32 Epub:2022/01/22 doi: 10.1007/s00535-021-01845-5	2022

N, Terai S, Shimizu M, Sobue S, Miyaki T, Moriuchi A, Yamada R, Kodama T, Tatsumi T, Yamada T, Takehara T.					
Yoshida M, <u>Tateishi R</u> , Hiroi S, Fujiwara M, Kitanishi Y, Iwasaki K, Takeshima T, Igarashi A.	Changes in Platelet Counts and Thrombocytopenia Risk in Patients with Chronic Liver Disease with Different Etiologies Using Real- World Japanese Data.	Adv Ther	39(2)	992-1003 Epub:2021/12 /21 doi: 10.1007/s123 25-021- 02008-x	2022
Kudo M, Izumi N, Kokudo N, Sakamoto M, Shiina S, Takayama T, <u>Tateishi R</u> , Nakashima O, Murakami T, Matsuyama Y, Takahashi A, Miyata H, Kubo S.	Report of the 22nd Nationwide Follow-up Survey of Primary Liver Cancer in Japan (2012-2013).	Hepatol Res	52(1)	5-66 Epub:2021/05 /30 doi: 10.1111/hepr. 13675	2022
Sapena V, Enea M, Torres F, Celsa C, Rios J, Rizzo GEM, Nahon P, Marino Z, <u>Tateishi R</u> , Minami T, Sangiovanni A, Forns X, Toyoda H, Brillanti S, Conti F, Degaspero E, Yu ML, Tsai PC, Jean K, El Kassas M, Shousha HI, Omar A, Zavaglia C, Nagata H, Nakagawa M, Asahina Y, Singal AG, Murphy C, Kohla M, Masetti C, Dufour JF, Merchante N, Cavalletto L,	Hepatocellular carcinoma recurrence after direct-acting antiviral therapy: an individual patient data meta-analysis.	Gut	71(3)	593-604	2022

Chemello LL, Pol S, Crespo J, Calleja JL, Villani R, Serviddio G, Zanetto A, Shalaby S, Russo FP, Bielen R, Trevisani F, Camma C, Bruix J, Cabibbo G, Reig M.					
Miki N, Inoue S, Shibahara H, Kurazono K, Perard R, <u>Tateishi R</u> .	A Cost-Effectiveness Analysis of Lusutrombopag for Thrombocytopenia in Patients with Chronic Liver Disease in Japan.	JGH Open	5(8)	879-87 Epub:2021/08/14 doi: 10.1002/jgh3.12597	2021
Fujiwara N, Kobayashi M, Fobar AJ, Hoshida A, Marquez CA, Koneru B, Panda G, Taguri M, Qian T, Raman I, Li QZ, Hoshida H, Sezaki H, Kumada H, <u>Tateishi R</u> , Yokoo T, Yopp AC, Chung RT, Fuchs BC, Baumert TF, Marrero JA, Parikh ND, Zhu S, Singal AG, Hoshida Y.	A Blood-Based Prognostic Liver Secretome Signature and Long-Term Hepatocellular Carcinoma Risk in Advanced Liver Fibrosis.	Med (N Y)	2(7)	836-50 e10 Epub:2021/07/29 doi: 10.1016/j.mej.2021.03.017	2021
Kudo M, Kawamura Y, Hasegawa K, <u>Tateishi R</u> , Kariyama K, Shiina S, Toyoda H, Imai Y, Hiraoka A, Ikeda M, Izumi N, Moriguchi M, Ogasawara S, Minami Y, Ueshima K, Murakami T, Miyayama S, Nakashima O, Yano H,	Management of Hepatocellular Carcinoma in Japan: Jsh Consensus Statements and Recommendations 2021 Update.	Liver Cancer	10(3)	181-223 Epub:2021/07/10 doi: 10.1159/000514174	2021

Sakamoto M, Hatano E, Shimada M, Kokudo N, Mochida S, Takehara T.					
Kawaguchi Y, Hasegawa K, Hagiwara Y, De Bellis M, Famularo S, Panettieri E, Matsuyama Y, <u>Tateishi R</u> , Ichikawa T, Kokudo T, Izumi N, Kubo S, Sakamoto M, Shiina S, Takayama T, Nakashima O, Murakami T, Vauthey JN, Giuliente F, De Carlis L, Romano F, Ruzzenente A, Guglielmi A, Kudo M, Kokudo N.	Effect of Diameter and Number of Hepatocellular Carcinomas on Survival after Resection, Transarterial Chemoembolization, and Ablation.	Am J Gastroenterol	116(8)	1698-708 Epub:2021/04 /27 doi: 10.14309/ajg. 000000000000 01256	2021
Tahata Y, Hikita H, Mochida S, Kawada N, Enomoto N, Ido A, Yoshiji H, Miki D, Hiasa Y, Takikawa Y, Sakamori R, Kurosaki M, Yatsuhashi H, <u>Tateishi R</u> , Ueno Y, Itoh Y, Yamashita T, Kanto T, Suda G, Nakamoto Y, Kato N, Asahina Y, Matsuura K, Terai S, Nakao K, Shimizu M, Takami T, Akuta N, Yamada R, Kodama T, Tatsumi T, Yamada T, Takehara T.	Sofosbuvir plus velpatasvir treatment for hepatitis C virus in patients with decompensated cirrhosis: a Japanese real-world multicenter study.	J Gastroenterol	56	67-77	2021
<u>Tateishi R</u> .	The Era of the Hepatic	Liver Cancer	9	378-381	2020

	Oncologist.				
Yamashita T, Kudo M, Ikeda K, Izumi N, <u>Tateishi R</u> , Ikeda M, Aikata H, Kawaguchi Y, Wada Y, Numata K, Inaba Y, Kuromatsu R, Kobayashi M, Okusaka T, Tamai T, Kitamura C, Saito K, Haruna K, Okita K, Kumada H.	REFLECT-a phase 3 trial comparing efficacy and safety of lenvatinib to sorafenib for the treatment of unresectable hepatocellular carcinoma: an analysis of Japanese subset.	J Gastroenterol	55(1)	113-122	2020
Kudo M, Izumi N, Kubo S, Kokudo N, Sakamoto M, Shiina S, <u>Tateishi R</u> , Nakashima O, Murakami T, Matsuyama Y, Takahashi A, Miyata H, Takayama T.	Report of the 20th Nationwide follow-up survey of primary liver cancer in Japan.	Hepatol Res	50(1)	15-46	2020
Kokudo N, Takemura N, Hasegawa K, Takayama T, Kubo S, Shimada M, Nagano H, Hatano E, Izumi N, Kaneko S, Kudo M, Iijima H, Genda T, <u>Tateishi R</u> , Torimura T, Igaki H, Kobayashi S, Sakurai H, Murakami T, Watadani T, Matsuyama Y.	Clinical practice guidelines for hepatocellular carcinoma: The Japan Society of Hepatology 2017 (4th JSH-HCC guidelines) 2019 update.	Hepatol Res	49(10)	1109-1113	2019
Kaibori M, Yoshii K, Hasegawa K, Ogawa A, Kubo S, <u>Tateishi R</u> , Izumi N, Kadoya M, Kudo M, Kumada T, Sakamoto M, Nakashima O,	Treatment Optimization for Hepatocellular Carcinoma in Elderly Patients in a Japanese Nationwide Cohort.	Ann Surg	270(1)	121-130	2019

Matsuyama Y, Takayama T, Kokudo N, Liver Cancer Study Group of J.					
伊藤 橋司, 市 田 晃彦, 河口 義邦, 金子 順 一, 赤松 延久, 有田 淳一, <u>長 谷川 潔</u>	【外科医が知ってお くべき! 免疫チェッ クポイント阻害薬】 肝細胞癌に対する免 疫チェックポイント 阻害薬 適応と有害 事象, 進行中の臨床試 験	臨床外科	78巻1号	50-54	2023
西岡 裕次郎, <u>長谷川 潔</u>	【肝細胞癌診療 up- to-date】肝細胞癌に 対する外科治療の現 在 肝切除・肝移植	日本消化器病学 会雑誌	120巻1号	27-34	2023
伊藤 橋司, 竹 村 信行, <u>長谷 川 潔</u>	【改訂:肝癌診療ガイ ドライン】肝癌診療 ガイドライン(第5版) 改訂にあたって	消化器・肝臓内 科	11巻1号	68-74	2022
土谷 薫, 安井 豊, 内野 康志, 南 達也, <u>長谷 川 潔</u> , 建石 良 介	【改訂:肝癌診療ガイ ドライン】肝癌診療 ガイドライン 2021 年 版 予防	消化器・肝臓内 科	11巻1号	86-90	2022
Ichida A, Akamatsu N, Nagata R, Mihara Y, Kawaguchi Y, Bae SK, Ishizawa T, Kaneko J, Arita J, <u>Hasegawa K.</u>	Efficacy and Safety of Lenvatinib for the Treatment of Recurrent Hepatocellular Carcinoma After Living Donor Liver Transplantation: A Report of Two Cases.	Anticancer Res	42(2)	1161-1167	2022
Imamura H, <u>Hasegawa K.</u> , Soejima Y, Saiura A.	Regarding "Postresection Period- Specific Hazard of Recurrence as a Framework for Surveillance Strategy in Patients with Hepatocellular Carcinoma: A Multicenter Outcome Study".	Liver Cancer	11(5)	483-486	2022
Arita J, Ichida A, Nagata R, Mihara Y, Kawaguchi Y, Ishizawa T, Akamatsu N, Kaneko J, <u>Hasegawa K.</u>	Conversion surgery after preoperative therapy for advanced hepatocellular carcinoma in the era of molecular targeted therapy and immune checkpoint inhibitors.	J Hepatobiliary Pancreat Sci	29(7)	732-740	2022
Kokudo T, Ishizawa T,	Optimal tumor numbers in surgical candidates	Surgery	172(4)	1174-1178	2022

Nagata R, Ichida A, Mihara Y, Kawaguchi Y, Akamatsu N, Kaneko J, Arita J, Kokudo N, <u>Hasegawa K</u> .	for multiple hepatocellular carcinomas.				
久保 正二, 島田 光生, 永野浩昭, 波多野悦朗, 海堀 昌樹, 玄田 拓哉, 田中 肖吾, 居村 暁, 松井 康輔, 徳光 幸生, 中村 育夫, 新川 寛二, 木下正彦, <u>長谷川 潔</u>	【改訂:肝臓診療ガイドライン】肝臓診療ガイドライン 手術	消化器・肝臓内科	11巻1号	91-98	2022
<u>長谷川 潔</u>	各科曼陀羅 消化器懇話会 ウイルスと肝疾患	練馬区医師会だより	647号	10-12	2022
市田 晃彦, 有田 淳一, 石沢武彰, 赤松 延久, 金子 順一, <u>長谷川 潔</u>	【肝胆膵癌におけるconversion therapy】肝細胞癌におけるconversion therapy レンバチニブによるconversion surgery	肝胆膵	84巻5号	601-606	2022
河口義邦, <u>長谷川 潔</u>	【原発性肝臓診療ガイドラインを読み解く】肝臓診療ガイドライン第5版 肝臓診療ガイドライン第5版改訂のポイント	外科	84巻9号	915-918	2022
西岡 裕次郎, <u>長谷川 潔</u>	【原発性肝臓診療ガイドラインを読み解く】肝臓診療ガイドライン第5版 肝臓診療ガイドライン第5版改訂のポイント	臨床外科	77巻11号	184-189	2022
Kudo M, Kawamura Y, <u>Hasegawa K</u> , Tateishi R, Kariyama K, Shiina S, Toyoda H, Imai Y, Hiraoka A, Ikeda M, Izumi N, Moriguchi M, Ogasawara S, Minami Y, Ueshima K, Murakami T, Miyayama S,	Management of Hepatocellular Carcinoma in Japan: JSH Consensus Statements and Recommendations 2021 Update.	Liver Cancer	10(3)	181-223	2021

Nakashima O, Yano H, Sakamoto M, Hatano E, Shimada M, Kokudo N, Mochida S, Takehara T.					
Kokudo N, Kokudo T, <u>Hasegawa K.</u>	Role of Liver Resection for Hepatocellular Carcinoma with Vascular Invasion: Emerging Evidence from Western Countries.	Liver Cancer	10(5)	404-406	2021
Kawaguchi Y, <u>Hasegawa K.</u> , Hagiwara Y, De Bellis M, Famularo S, Panettieri E, Matsuyama Y, Tateishi R, Ichikawa T, Kokudo T, Izumi N, Kubo S, Sakamoto M, Shiina S, Takayama T, Nakashima O, Murakami T, Vauthey JN, Giulianti F, De Carlis L, Romano F, Ruzzenente A, Guglielmi A, Kudo M, Kokudo N.	Effect of Diameter and Number of Hepatocellular Carcinomas on Survival After Resection, Transarterial Chemoembolization, and Ablation.	Am J Gastroenterol	116(8)	1698-1708	2021
Kokudo T, <u>Hasegawa K.</u>	Evaluating the liver function of patients with hepatocellular carcinoma.	Hepatol Res	51(11)	1095-1096	2021
Takayama T, <u>Hasegawa K.</u> , Izumi N, Kudo M, Shimada M, Yamanaka N, Inomata M, Kaneko S, Nakayama H, Kawaguchi Y, Kashiwabara K, Tateishi R, Shiina S, Koike K, Matsuyama Y,	Surgery versus Radiofrequency Ablation for Small Hepatocellular Carcinoma: A Randomized Controlled Trial (SURF Trial).	Liver Cancer	11(3)	209-218	2021

Omata M, Makuuchi M, Kokudo N.					
赤松 延久, 長 田 梨比人, 市 田 晃彦, 金子 順一, <u>長谷川 潔</u>	【移植医療 2021】肝 肝細胞癌に対する肝 移植の最前線	外科	83巻2号	132-138	2021
市田 晃彦, 有 田 淳一, <u>長谷 川 潔</u>	【肝胆膵領域腫瘍に おける Borderline resectable/Marginally resectable とは-術前治 療の可能性について -】肝細胞がん	日本外科学会雑 誌	122巻2号	140-146	2021
建石 良介, <u>長 谷川 潔</u>	【肝癌の新たな流れ と治療の進歩】早期 肝癌に対する肝切除 とラジオ波焼灼術の 前向き比較試験	医学と薬学	78巻4号	349-351	2021
市田 晃彦, <u>長 谷川 潔</u> , 波多 野 悦朗	肝細胞癌における薬 物療法の進歩と外科 的治療の位置づけは? 新規薬物療法を組み 合わせることで切除 適応の拡大や成績改 善が期待される (Q&A)	日本医事新報	5064号	45-46	2021
吉住 朋晴, 市 田 晃彦, <u>長谷 川 潔</u>	肝細胞癌の治療にお ける肝移植の位置づ けは今後どのように 変わっていくか? 適 応基準拡大により、 肝細胞癌(HCC)合併 例の肝移植数増加が 予想される(Q&A)	日本医事新報	5071号	46	2021
工藤 正俊, 土 谷 薫, <u>長谷川 潔</u>	【ここまできた肝細 胞癌の薬物療法:2021 update】最新の肝癌薬 物療法を語る	肝胆膵	83巻2号	163-179	2021
白田 力, 有田 淳一, <u>長谷川 潔</u>	Liver、Pancreas、 Biliary Tract Cancer 肝・胆・膵癌 再発 肝胆膵がんへの新た な挑戦 I.肝細胞癌外 科切除後肝内再発の 治療戦略	癌と化学療法	48巻10号	1218-1222	2021
市田 晃彦, 有 田 淳一, 石沢 武彰, 赤松 延 久, 金子 順一, <u>長谷川 潔</u>	【肝癌診療 2021 ア テゾリズマブ+ベバシ ズマブ登場後の展 開】肝細胞癌に対す るコンバージョン手 術とアテゾリズマ ブ・ベバシズマブ併 用療法	肝臓クリニカル アップデート	7巻1号	29-35	2021
工藤 正俊, 池	肝癌治療効果判定基	肝臓	62巻12号	823-829	2021

田 公史, 上嶋一臣, 坂元 亨宇, 椎名 秀一朗, 建石 良介, 能祖 一裕, 長谷川 潔, 古瀬純司, 宮山 士朗, 村上 卓道, 山下 竜也, 國土 典宏, 日本肝癌研究会肝癌治療効果判定基準作成委員会	準(第 6 版)(2021 年改訂版)				
Kim DS, Kim BW, Hatano E, Hwang S, <u>Hasegawa K</u> , Kudo A, Ariizumi S, Kaibori M, Fukumoto T, Baba H, Kim SH, Kubo S, Kim JM, Ahn KS, Choi SB, Jeong CY, Shima Y, Nagano H, Yamasaki O, Yu HC, Han DH, Seo HI, Park IY, Yang KS, Yamamoto M, Wang HJ.	Surgical Outcomes of Hepatocellular Carcinoma With Bile Duct Tumor Thrombus: A Korea-Japan Multicenter Study.	Ann Surg	271(5)	913-921	2020
Kaibori M, Yoshii K, <u>Hasegawa K</u> , Ariizumi S, Kobayashi T, Kamiyama T, Kudo A, Yamaue H, Kokudo N, Yamamoto M.	Impact of systematic segmentectomy for small hepatocellular carcinoma.	J Hepatobiliary Pancreat Sci	27(6)	331-341	2020
Fukami Y, Kaneoka Y, Maeda A, Kumada T, Tanaka J, Akita T, Kubo S, Izumi N, Kadoya M, Sakamoto M, Nakashima O, Matsuyama Y, Kokudo T, <u>Hasegawa K</u> , Yamashita T, Kashiwabara K,	Liver Resection for Multiple Hepatocellular Carcinomas: A Japanese Nationwide Survey.	Ann Surg	272(1)	145-154	2020

Takayama T, Kokudo N, Kudo M; Liver Cancer Study Group of Japan.					
Iida H, Tani M, Aihara T, <u>Hasegawa K</u> , Eguchi H, Tanabe M, Yamamoto M, Yamaue H.	New metastasectomy criteria for peritoneal metastasis of hepatocellular carcinoma: A study of the Japanese Society of Hepato-Biliary- Pancreatic Surgery.	J Hepatobiliary Pancreat Sci	27(10)	673-681	2020
泉 並木, 長谷 川 潔, 國土 典 宏	【必見!肝胆膵臨床を 変えたランドマーク スタディ】肝臓 わ が国での早期肝臓 に対する切除とラジ オ波の無作為前向き 比較試	肝・胆・膵	80巻1号	83-89	2020
裴 成寛, 赤松 延久, <u>長谷川 潔</u>	【内科医が知ってお くべき肝移植の実 際】肝硬変、肝細胞 癌と肝移植	消化器・肝臓内 科	7巻3号	261-267	2020
<u>長谷川 潔</u> , 竹 村 信行, 國土 典宏	各分野のガイドラ インを紐解く 肝臓 診療ガイドライン	日本外科学会雑 誌	121巻3号	356-358	2020
竹村 信行, <u>長 谷川 潔</u> , 國土 典宏	【消化器悪性腫瘍診 療におけるガイドラ インの功罪】肝臓 診療におけるガイド ラインの功罪	外科	82巻6号	629-634	2020
有田 淳一, 河 口 義邦, 國土 貴嗣, 石沢 武 彰, 赤松 延久, 金子 順一, <u>長 谷川 潔</u>	若手に役立つ議論・ オピニオンリーダー からのメッセージ 早期(3cm3 個以下)肝 臓に対する治療 肝 切除	肝臓クリニカル アップデート	6巻1号	91-94	2020
島村拓司、 <u>長谷 川 潔</u> 、狩山和 也、中野聖士、 居村景、片山和 宏、上村顕也、 山下竜也	【肝臓治療ガイドラ イン 2017 を再検証す る】	肝臓	61巻6号	285-308	2020
島村拓司、 <u>長谷 川 潔</u> 、島田光生	「肝臓治療ガイドラ イン 2017 を再検証す る」を振り返って	肝臓	61巻6号	309-313	2020
河口義邦、國土 典宏、長谷川 潔	【肝臓治療の最前 線】SURF trial	外科	82巻12号	1223-1227	2020
Shimamura T, Akamatsu N, Fujiyoshi M, Kawaguchi A, Morita S, Kawasaki S,	Expanded living-donor liver transplantation criteria for patients with hepatocellular carcinoma based on the Japanese nationwide	Transpl Int	32(4)	356-368	2019

Uemoto S, Kokudo N, <u>Hasegawa K</u> , Ohdan H, Egawa H, Furukawa H, Todo S; Japanese Liver Transplantation Society.	survey: the 5-5-500 rule.				
Kaibori M, Yoshii K, Yokota I, <u>Hasegawa K</u> , Nagashima F, Kubo S, Kon M, Izumi N, Kadoya M, Kudo M, Kumada T, Sakamoto M, Nakashima O, Matsuyama Y, Takayama T, Kokudo N; Liver Cancer Study Group of Japan.	Impact of Advanced Age on Survival in Patients Undergoing Resection of Hepatocellular Carcinoma: Report of a Japanese Nationwide Survey.	Ann Surg	269(4)	692-699	2019
Kaibori M, Yoshii K, <u>Hasegawa K</u> , Ogawa A, Kubo S, Tateishi R, Izumi N, Kadoya M, Kudo M, Kumada T, Sakamoto M, Nakashima O, Matsuyama Y, Takayama T, Kokudo N; Liver Cancer Study Group of Japan.	Treatment Optimization for Hepatocellular Carcinoma in Elderly Patients in a Japanese Nationwide Cohort.	Ann Surg	270(1)	121-130	2019
Takemura N, Aoki T, <u>Hasegawa K</u> , Kaneko J, Arita J, Akamatsu N, Makuuchi M, Kokudo N	Hepatectomy for hepatocellular carcinoma after perioperative management of portal hypertension.	Br J Surg	106(8)	1066-1074	2019
Kokudo N, Takemura N, Kanto T, Tateishi R, Igari T, <u>Hasegawa K</u>	Hepatocellular carcinoma with non-B and non-C hepatitis origin: epidemiology in Japan and surgical outcome.	Glob Health Med	1(1)	23-2	2019
Kokudo N, Takemura N, <u>Hasegawa K</u> ,	Clinical practice guidelines for hepatocellular	Hepatol Res	49(10)	1109-1113	2019

Takayama T, Kubo S, Shimada M, Nagano H, Hatano E, Izumi N, Kaneko S, Kudo M, Iijima H, Genda T, Tateishi R, Torimura T, Igaki H, Kobayashi S, Sakurai H, Murakami T, Watadani T, Matsuyama Y.	carcinoma: The Japan Society of Hepatology 2017 (4th JSH-HCC guidelines) 2019 update.				
Kokudo T, Hasegawa K, Shirata C, Tanimoto M, Ishizawa T, Kaneko J, Akamatsu N, Arita J, Demartines N, Uldry E, Kokudo N, Halkic N.	Assessment of Preoperative Liver Function for Surgical Decision Making in Patients with Hepatocellular Carcinoma.	Liver Cancer	8(6)	447-456	2019
工藤 正俊, 池田 公史, 上嶋 一臣, 坂元 亨宇, 椎名 秀一郎, 建石 良介, 長谷川 潔, 古瀬 純司, 宮山 士朗, 村上 卓道, 山下 竜也, 國土 典宏, 日本肝臓研究会 肝臓治療効果判定基準作成委員会	肝臓治療効果判定基準(第5版)(2019年改訂版)	肝臓	60巻2号	55-62	2019
三原 裕一郎, 長谷川 潔	【進化する肝疾患治療】肝細胞癌における外科的アプローチ	クリニシアン	66巻10-11号	870-876	2019
Okinaga H, Yasunaga H, Hasegawa K, Fushimi K, Kokudo N	Short-Term Outcomes following Hepatectomy in Elderly Patients with Hepatocellular Carcinoma: An Analysis of 10,805 Septuagenarians and 2,381 Octo- and Nonagenarians in Japan.	Liver Cancer	7(1)	55-64	2018
Kobayashi K, Kawaguchi Y, Arita J, Akamatsu N, Kaneko J, Sakamoto Y, Hasegawa K, Kokudo N.	Parenchyma-sparing liver resection for hepatocellular carcinoma in left lateral section is associated with better liver volume recovery.	HPB (Oxford)	20(10)	949-955	2018
Kaneko J, Kokudo T, Inagaki Y, Hasegawa K.	Innovative treatment for hepatocellular carcinoma (HCC).	Transl Gastroenterol Hepatol	3	78	2018
Shirata C, Hasegawa K,	Liver Resection for	World J Surg	42(12)	4054-4062	2018

Kokudo T, Yamashita S, Yamamoto S, Arita J, Akamatsu N, Kaneko J, Sakamoto Y, Kokudo N.	Hepatocellular Carcinoma in Patients with Renal Dysfunction				
Yamaguchi T, Kokudo T, Akamatsu N, Kaneko J, Arita J, Sakamoto Y, Kokudo N, <u>Hasegawa K.</u>	Liver Regeneration is Preserved After At Least Four Repeated Liver Resections for Hepatocellular Carcinoma.	World J Surg	42(12)	4070-4080	2018
谷 圭吾, <u>長谷川 潔</u> , 國土 典宏	【標準的癌術後フォローアップ計画】 肝癌術後フォローアップ計画	コンセンサス癌治療	15巻1号	22-24	2018
竹村 信行, <u>長谷川 潔</u> , 國土 典宏	【ガイドライン改訂にみるがん診療の変遷】 臓器別がん診療・治療ガイドライン 肝がん診療ガイドライン	腫瘍内科	21巻4号	419-426	2018
有田 淳一, 赤松 延久, 金子 順一, 阪本 良弘, <u>長谷川 潔</u>	【ガイドラインに基づいた肝癌診療】 肝癌治療のアルゴリズム	臨床消化器内科	33巻6号	605-611	2018
竹村 信行, 國土 典宏, <u>長谷川 潔</u>	ここが変わった! 肝癌診療ガイドライン 2017	臨床外科	73巻8号	1030-1037	2018
竹村信行、國土典宏、 <u>長谷川潔</u>	【肝癌診療ガイドライン 2017 改訂のポイント】 外科側からの改訂ポイント	Liver Cancer Journal	10巻2号	105-109(	2018
<u>長谷川潔</u> 、國土典宏	診療ガイドラインの再評価 今後の方向性 肝癌診療ガイドライン2017年版改訂のコンセプトと次版の方向性	日本外科学会雑誌	119巻5号	572-574	2018
竹村信行、 <u>長谷川潔</u> 、國土典宏	【外科治療か内科治療か 肝癌に対する治療選択】 肝癌における最新治療アルゴリズム—肝癌診療ガイドライン2017年版の紹介	日本医事新報	4936号	28-34	2018
竹村 信行, <u>長谷川 潔</u> , 國土 典宏	肝癌診療ガイドライン2017年版改訂について	肝臓	59巻12号	659-667	2018
<u>Eguchi Y.</u>	[The way of leading new subjects to antiviral treatment in Japan].	Nihon Shokakibyō Gakkai Zasshi	119(9)	821-829.	2022
Hiraoka A, Nakai M, Hara N, Hanai T, Namisaki T, Miyaaki H,	Clinical features of patients with chronic liver disease in Japan	Hepatol Res			2022

Nakahara T, Hiramatsu A, Ohama H, Tada F, Takahashi H, Aikata H, <u>Eguchi Y</u> , Hiasa Y, Yoshiji H, ...	related to alcohol use Nationwide examination using alcohol use disorders identification test				
Okushin K, Tateishi R, Takahashi A, Uchino K, Nakagomi R, Nakatsuka T, Minami T, Sato M, Fujishiro M, Hasegawa K, <u>Eguchi Y</u> , Kanto T, Kubo S, Yoshiji H, Miyata H, Izumi N, Kudo M, Koike K	Current status of primary liver cancer and decompensated cirrhosis in Japan: launch of a nationwide registry for advanced liver diseases (REAL)	J Gastroenterol	57(8)	587-597.	2022
Kam LY, Huang DQ, Teng MLP, Takahashi H, Tanaka K, Yasuda S, Fung J, Lee TY, Hyogo H, Ono M, Saruwatari J, Oniki K, Yeo YH, Barnett S, Henry L, Li J, Zou B, Cheung RC, Kumada T, Yuen MF, <u>Eguchi Y</u> , Toyoda H, Nguyen MH	Clinical Profiles of Asians with NAFLD: A Systematic Review and Meta-Analysis	Dig Dis	40(6)	734-744	2022
Younossi ZM, Yilmaz Y, Yu ML, Wai-Sun Wong V, Fernandez MC, Isakov VA, Duseja AK, Mendez-Sanchez N, <u>Eguchi Y</u> , Bugianesi E, Burra P, George J, Fan JG, Papatheodoridis GV, Chan WK, Alswat K, Saeed HS, Singal AK, Romero-Gomez M, Gordon SC, Roberts SK, El Kassas M, Kugelmas M, Ong JP, Alqahtani S, Ziaee M, Lam B, Younossi I, Racila A, Henry L, Stepanova M	Global NASH Council. Clinical and Patient- Reported Outcomes From Patients With Nonalcoholic Fatty Liver Disease Across the World: Data From the Global Non- Alcoholic Steatohepatitis (NASH)/ Non- Alcoholic Fatty Liver Disease (NAFLD) Registry	Clin Gastroenterol Hepatol	20(10)	2296-2306.e6	2022
Park J, Le AK, Tseng TC, Yeh ML, Jun DW, Trinh H, Wong GLH, Chen CH, Peng CY, Kim SE, Oh H, Kwak MS, Cheung KS, Toyoda H, Hsu YC, Jeong JY, Yoon EL, Ungtrakul T, Zhang J, Xie Q, Ahn SB, Enomoto M, Shim JJ, Cunningham	Progression Rates by Age, Sex, Treatment, and Disease Activity by AASLD and EASL Criteria: Data for Precision Medicine	Clin Gastroenterol Hepatol.	20(4)	874-885.e4	2022

C, Jeong SW, Cho YK, Ogawa E, Huang R, Lee DH, Takahashi H, Tsai PC, Huang CF, Dai CY, Tseng CH, Yasuda S, Kozuka R, Li J, Wong C, Wong CC, Zhao C, Hoang J, <u>Eguchi Y</u> , Wu C, Tanaka Y, Gane E, Tanwandee T, Cheung R, Yuen MF, Lee HS, Yu ML, Kao JH, Yang HI, Nguyen MH					
Isoda H, <u>Eguchi Y</u> , Takahashi H	Hepatitis medical care coordinators: Comprehensive and seamless support for patients with hepatitis	Glob Health Med	3(5)	343-350	2021
Yamamura S, Kawaguchi T, Nakano D, Tomiyasu Y, Yoshinaga S, Doi Y, Takahashi H, Anzai K, <u>Eguchi Y</u> , Torimura T	Prevalence and Independent Factors for Fatty Liver and Significant Hepatic Fibrosis Using B-Mode Ultrasound Imaging and Two Dimensional- Shear Wave Elastography in Health Check-up Examinees	Kurume Med J.	15;66(4)	225-237.	2021
Tokushige K, Ikejima K, Ono M, <u>Eguchi Y</u> , Kamada Y, Itoh Y, Akuta N, Yoneda M, Iwasa M, Yoneda M, Otsuka M, Tamaki N, Kogiso T, Miwa H, Chayama K, Enomoto N, Shimosegawa T, Takehara T, Koike K	Evidence-based clinical practice guidelines for nonalcoholic fatty liver disease/nonalcoholic steatohepatitis 2020	J Gastroenterol	;56(11	951-963	2021
Tokushige K, Ikejima K, Ono M, <u>Eguchi Y</u> , Kamada Y, Itoh Y, Akuta N, Yoneda M, Iwasa M, Yoneda M, Otsuka M, Tamaki N, Kogiso T, Miwa H, Chayama K, Enomoto N, Shimosegawa T, Takehara T, Koike K.	Evidence-based clinical practice guidelines for nonalcoholic fatty liver disease/nonalcoholic steatohepatitis 2020	Hepatol Res.	51(10)	1013-1025.	2021
<u>Eguchi Y</u> , Isoda H, Takahashi H. Regional Program to Reduce Liver Cancer Associated With Viral Hepatitis B:	Comprehensive Approach Corroborating With the Media and Regional Government to Improve	Clin Liver Dis (Hoboken)	17(4)	309-311	2021

	Population Screening Rate in Saga Prefecture.				
Sumida Y, Yoneda M, Tokushige K, Kawanaka M, Fujii H, Yoneda M, Imajo K, Takahashi H, <u>Eguchi Y</u> , Ono M, Nozaki Y, Hyogo H, Koseki M, Yoshida Y, Kawaguchi T, Kamada Y, Okanoue T, Nakajima A	Japan Study Group Of Nafld Jsg-Nafld. FIB-4 First in the Diagnostic Algorithm of Metabolic-Dysfunction-Associated Fatty Liver Disease in the Era of the Global Metabodemic.	Life (Basel)	11(2)	143	2021
Ito T, Ishigami M, Zou B, Tanaka T, Takahashi H, Kurosaki M, Maeda M, Thin KN, Tanaka K, Takahashi Y, Itoh Y, Oniki K, Seko Y, Saruwatari J, Kawanaka M, Atsukawa M, Hyogo H, Ono M, Ogawa E, Barnett SD, Stave CD, Cheung RC, Fujishiro M, <u>Eguchi Y</u> , Toyoda H, Nguyen MH	The epidemiology of NAFLD and lean NAFLD in Japan: a meta-analysis with individual and forecasting analysis, 1995-2040	Hepatol In	15(2)	366-379	2021
Murayama K, Okada M, Tanaka K, Inadomi C, Yoshioka W, Kubotsu Y, Yada T, Isoda H, Kuwashiro T, Oeda S, Akiyama T, Oza N, Hyogo H, Ono M, Kawaguchi T, Torimura T, Anzai K, <u>Eguchi Y</u> , Takahashi H.	Prediction of Nonalcoholic Fatty Liver Disease Using Noninvasive and Non-Imaging Procedures in Japanese Health Checkup Examinees	Diagnostics (Basel)	11(1)	132	2021
Liu M, Tseng TC, Jun DW, Yeh ML, Trinh H, Wong GLH, Chen CH, Peng CY, Kim SE, Oh H, Kwak MS, Cheung M, Toyoda H, Hsu YC, Jeong JY, Yoon EL, Ungtrakul T, Zhang J, Xie Q, Ahn SB, Enomoto M, Shim JJ, Cunningham C, Jeong SW, Cho YK, Ogawa E, Huang R, Lee DH, Takahashi H, Tsai PC, Huang CF, Dai CY, Tseng CH, Yasuda S, Kozuka R, Li J, Wong C, Wong CC, Zhao C, Hoang J, <u>Eguchi Y</u> , Wu C, Tanaka Y, Gane E,	Transition rates to cirrhosis and liver cancer by age, gender, disease and treatment status in Asian chronic hepatitis B patients	Hepatol Int.	;15(1)	71-81	2021

Tanwantee T, Cheung R, Yuen MF, Lee HS, Yu ML, Kao JH, Yang HI, Nguyen MH.					
Takahashi H, <u>Eguchi Y</u> .	What Can Be Done to Address the Exhaustive Referral of Patients with Viral Hepatitis to Specialists?	Intern Med	60(3):	323-324	2021
amamura S, Nakano D, Hashida R, Tsutsumi T, Kawaguchi T, Okada M, Isoda H, Takahashi H, Matsuse H, <u>Eguchi Y</u> , Sumida Y, Nakajima A, Gerber L, Younossi ZM, Torimura T.	Patient-reported outcomes in patients with non-alcoholic fatty liver disease: A narrative review of Chronic Liver Disease Questionnaire-non-alcoholic fatty liver disease/non-alcoholic steatohepatitis.	J Gastroenterol Hepatol	;36(3):	629-636	2021
<u>Eguchi Y</u> , Wong G, Lee IH, Akhtar O, Lopes R, Sumida Y	Hepatocellular carcinoma and other complications of non-alcoholic fatty liver disease and non-alcoholic steatohepatitis in Japan: A structured review of published works.	Hepatol Res	51(1):	19-30	2021
<u>江口 有一郎(ロコモディカル)</u>	胃炎対策基本法制定は必要か? 肝炎対策基本法によってわが国の肝炎対策はなぜここまで進んだか 国民が受けた恩恵と専門医における留意点	The GI Forefront(1349-9629)	17巻1号	Page40-42	2021
<u>江口 有一郎(ロコモディカルロコモディカル総合研究所)</u>	【ガイドライン2020から読み解く NAFLD/NASH】治療 糖尿病薬の NAFLD/NASHにおけるエビデンス	肝胆膵(0389-4991)	83巻1号	Page101-108	2021
<u>江口 有一郎(ロコモディカル総合研究所)</u> , 高橋 宏和	【<最新>NAFLD/NASH 診療ガイドラインを読む】NAFLD/NASHとメタボリックシンドローム,心血管イベント	臨床消化器内科 (0911-601X)	36巻7号	Page721-728	2021
<u>江口 有一郎(ロコモディカル総合研究所)</u> , 高橋 宏和	【NAFLD/NASHの診断と治療-ガイドラインの改訂点と問題点】NAFLD/NASHとメタボリックシンドローム、心血管イベ	医学のあゆみ (0039-2359)	277巻7号	Page521-525	2021

	ント				
矢田 ともみ(佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター), 高橋 宏和, 岩根 紳治, 磯田 広史, 安西 慶三, 江口 有一郎	肝炎医療コーディネーター活動におけるパーソナルヘルスレコード(PHR)活用の可能性	日本糖尿病情報学会誌(2432-4043)	18巻	Page11-15	2021
Ishiba H, Sumida Y, Seko Y, Tanaka S, Yoneda M, Hyogo H, Ono M, Fujii H, <u>Eguchi Y</u> , Suzuki Y, Yoneda M, Takahashi H, Nakahara T, Mori K, Kanemasa K, Shimada K, Imajo K, Yamaguchi K, Kawaguchi T, Nakajima A, Chayama K, Shima T, Fujimoto K, Okanoue T, Itoh Y	Japan Study Group of NAFLD. Type IV Collagen 7S Is the Most Accurate Test For Identifying Advanced Fibrosis in NAFLD With Type 2 Diabetes	Hepatol Commun	5(4)	559-572	2020
Takahashi H, Nakahara T, Kogiso T, Imajo K, Kessoku T, Kawaguchi T, Ide T, Kawanaka M, Hyogo H, Fujii H, Ono M, Kamada Y, Sumida Y, Anzai K, Shimizu M, Torimura T, Nakajima A, Tokushige K, Chayama K, <u>Eguchi Y</u> ;	Japan Study Group of NAFLD (JSG-NAFLD). Eradication of hepatitis C virus with direct-acting antivirals improves glycemic control in diabetes: A multicenter study	JGH Open	5(2)	228-234	2020
Kawata N, Takahashi H, Iwane S, Inoue K, Kojima M, Kohno M, Tanaka K, Mori H, Isoda H, Oeda S, Matsuda Y, Egashira Y, Nojiri J, Irie H, <u>Eguchi Y</u> , Anzai K.	FIB-4 index-based surveillance for advanced liver fibrosis in diabetes patients.	Diabetol Int	12(1)	118-125	2020
anaka Y, Ogawa E, Huang CF, Toyoda H, Jun DW, Tseng CH, Hsu YC, Enomoto M, Takahashi H, Furusyo N, Yeh ML, Iio E, Yasuda S, Lam CP, Lee DH, Haga H, Yoon EL, Ahn SB, Wong G, Nakamuta M, Nomura H, Tsai PC, Jung JH, Song DS, Dang H, Maeda M, Henry L, Cheung R, Yuen MF, <u>Ueno Y</u> , <u>Eguchi Y</u> , Tamori A, Yu ML, Hayashi J, Nguyen MH	REAL-C Investigators. HCC risk post-SVR with DAAs in East Asians: findings from the REAL-C cohort.	Hepatol Int	14(6)	1023-1033	2020

uang DQ, Yeo YH, Tan E, Takahashi H, Yasuda S, Saruwatari J, Tanaka K, Oniki K, Kam LY, Muthiah MD, Hyogo H, Ono M, Barnett SD, Li J, Zou B, Fung J, Lee TY, Wong VW, Yuen MF, Dan YY, Lim SG, Cheung R, Toyoda H, <u>Eguchi Y</u> , Nguyen MH.	ALT Levels for Asians With Metabolic Diseases: A Meta-analysis of 86 Studies With Individual Patient Data Validation.	Hepatol Commun	4(11)	1624-1636.	2020
Araki N, Takahashi H, Takamori A, Kitajima Y, Hyogo H, Sumida Y, Tanaka S, Anzai K, Aishima S, Chayama K, Fujimoto K, <u>Eguchi Y</u> .	Decrease in fasting insulin secretory function correlates with significant liver fibrosis in Japanese non-alcoholic fatty liver disease patients.	JGH Open	4(5):	929-936	2020
<u>Eguchi Y</u> , Wong G, Lee EI, Akhtar O, Lopes R, Sumida Y.	Epidemiology of non-alcoholic fatty liver disease and non-alcoholic steatohepatitis in Japan: A focused literature review.	JGH Open	;4(5):	808-817	2020
Tokushima Y, Tago M, Tokushima M, Katsuki NE, Iwane S, <u>Eguchi Y</u> , Yamashita SI.	Management of Hepatitis B Surface Antigen and Hepatitis C Antibody-Positive Patients by Departments Not Specializing in Hepatology at a Suburban University Hospital in Japan: A Single-Center Observational Study.	Int J Gen Med	13	:743-750	2020
Ogawa Y, Kobayashi T, Honda Y, Kessoku T, Tomeno W, Imajo K, Nakahara T, Oeda S, Nagaoki Y, Amano Y, Ando T, Hirayama M, Isono O, Kamiguchi H, Nagabukuro H, Ogawa S, Satomi Y, Saigusa Y, Takahashi H, Hyogo H, Yoneda M, Saito S, Yamanaka T, Aishima S, <u>Eguchi Y</u> , Kage M, Chayama K, Nakajima A.	Metabolomic/lipidomic -based analysis of plasma to diagnose hepatocellular ballooning in patients with non-alcoholic fatty liver disease: A multicenter study.	. Hepatol Res	;50(8):	955-965	2020
Oeda S, Takahashi H, Imajo K, Seko Y, Kobayashi T, Ogawa Y, Moriguchi M, Yoneda M,	Diagnostic accuracy of FibroScan-AST score to identify non-alcoholic steatohepatitis	Hepatol Res	50(7):	831-839	2020

Anzai K, Irie H, Sueoka E, Aishima S, Kage M, Itoh Y, <u>Eguchi Y</u> , Nakajima A.	with significant activity and fibrosis in Japanese patients with non-alcoholic fatty liver disease: Comparison between M and XL probes.				
<u>Eguchi Y</u> , Wong G, Akhtar O, Sumida Y	Non-invasive diagnosis of non-alcoholic steatohepatitis and advanced fibrosis in Japan: A targeted literature review.	Hepatol Res	50(6):	645-655	2020
Okada M, Oeda S, Katsuki N, Iwane S, Kawaguchi Y, Kawamoto S, Tomine Y, Fukuyoshi J, Maeyama K, Tanaka H, Anzai K, <u>Eguchi Y</u>	Recommendations from primary care physicians, family, friends and work colleagues influence patients' decisions related to hepatitis screening, medical examinations and antiviral treatment.	Exp Ther Med	19(4)	:2973-2982	2020
Sumida Y, Yoneda M, Tokushige K, Kawanaka M, Fujii H, Yoneda M, Imajo K, Takahashi H, <u>Eguchi Y</u> , Ono M, Nozaki Y, Hyogo H, Koseki M, Yoshida Y, Kawaguchi T, Kamada Y, Okanoue T, Nakajima A	sg-NaflD JSGON. Antidiabetic Therapy in the Treatment of Nonalcoholic Steatohepatitis	Int J Mol Sci.	21(6):.	1907	2020
Inadomi C, Takahashi H, Ogawa Y, Oeda S, Imajo K, Kubotsu Y, Tanaka K, Kessoku T, Okada M, Isoda H, Akiyama T, Fukushima H, Yoneda M, Anzai K, Aishima S, Nakajima A, <u>Eguchi Y</u> .	Accuracy of the Enhanced Liver Fibrosis test, and combination of the Enhanced Liver Fibrosis and non-invasive tests for the diagnosis of advanced liver fibrosis in patients with non-alcoholic fatty liver disease	Hepatol Res.	;50(6):	682-692.	2020
Nagai K, Ide K, Kawasaki Y, Tanaka-Mizuno S, Seto K, Iwane S, <u>Eguchi Y</u> , Kawakami K.	Estimating the cost-effectiveness of screening for hepatitis C virus infection in Japan.	Hepatol Res.	50(5)	:542-556.	2020
Ogawa E, Toyoda H, Iio E, Jun DW, Huang CF, Enomoto M, Hsu YC, Haga H, Iwane S, Wong G, Lee DH, Tada T, Liu CH, Chuang	Real-World Evidence from the Asia Liver Consortium Investigators. Hepatitis C Virus Cure Rates Are Reduced in Patients	Clin Infect Dis.	2840-2848	71(11)	2020

WL, Hayashi J, Cheung R, Yasuda S, Tseng CH, Takahashi H, Tran S, Yeo YH, Henry L, Barnett SD, Nomura H, Nakamuta M, Dai CY, Huang JF, Yang HI, Lee MH, Jun MJ, Kao JH, <u>Eguchi Y</u> , Ueno Y, Tamori A, Furusyo N, Yu ML, Tanaka Y, Nguyen MH	With Active but Not Inactive Hepatocellular Carcinoma: A Practice Implication.				
Oeda S, Takahashi H, Imajo K, Seko Y, Ogawa Y, Moriguchi M, Yoneda M, Anzai K, Aishima S, Kage M, Itoh Y, Nakajima A, <u>Eguchi Y</u>	Accuracy of liver stiffness measurement and controlled attenuation parameter using FibroScan M/XL probes to diagnose liver fibrosis and steatosis in patients with nonalcoholic fatty liver disease: a multicenter prospective study.	J Gastroenterol.	55(4):	428-440	2020
Yamamura S, Kawaguchi T, Nakano D, Tomiyasu Y, Yoshinaga S, Doi Y, Takahashi H, Anzai K, <u>Eguchi Y</u> , Torimura T, Shiba N	Profiles of advanced hepatic fibrosis evaluated by FIB-4 index and shear wave elastography in health checkup examinees	Hepatol Res.	50(2):	199-213.	2020
Hsu YC, Wong GL, Chen CH, Peng CY, Yeh ML, Cheung KS, Toyoda H, Huang CF, Trinh H, Xie Q, Enomoto M, Liu L, Yasuda S, Tanaka Y, Kozuka R, Tsai PC, Huang YT, Wong C, Huang R, Jang TY, Hoang J, Yang HI, Li J, Lee DH, Takahashi H, Zhang JQ, Ogawa E, Zhao C, Liu C, Furusyo N, <u>Eguchi Y</u> , Wong C, Wu C, Kumada T, Yuen MF, Yu ML, Nguyen MH.	Tenofovir Versus Entecavir for Hepatocellular Carcinoma Prevention in an International Consortium of Chronic Hepatitis B	Am J Gastroenterol.	115(2):	271-280	2020
Yang HI, Yeh ML, Wong GL, Peng CY, Chen CH, Trinh HN, Cheung KS, Xie Q, Su TH, Kozuka R, Lee DH, Ogawa E, Zhao C, Ning HB, Huang R, Li J,	Real-World Effectiveness From the Asia Pacific Rim Liver Consortium for HBV Risk Score for the Prediction of Hepatocellular	J Infect Dis.	221(3):	389-399	2020

Zhang JQ, Ide T, Xing H, Iwane S, Takahashi H, Wong C, Wong C, Lin CH, Hoang J, Le A, Henry L, Toyoda H, Ueno Y, Gane EJ, <u>Eguchi Y</u> , Kurosaki M, Wu C, Liu C, Shang J, Furusyo N, Enomoto M, Kao JH, Yuen MF, Yu ML, Nguyen MH.	Carcinoma in Chronic Hepatitis B Patients Treated With Oral Antiviral Therapy.				
Isoda H, Oeda S, Takamori A, Sato K, Okada M, Iwane S, Takahashi H, Anzai K, <u>Eguchi Y</u> , Fujimoto K.	Generation Gap for Screening and Treatment of Hepatitis C Virus in Saga Prefecture, Japan: An Administrative Database Study of 35,625 Subjects	Intern Med	;59(2):	169-174	2020
考藤 達哉(国立国際医療研究センター 肝炎免疫研究センター), <u>江口 有一郎</u> , 増井 美由紀, 河本 有花, 原 なぎさ, 橋本 まさみ, 小関 紀之, 山本 晴菜, 浅山 光一, 矢田 ともみ, 立木 佐知子	肝炎医療コーディネーター 各都道府県での実態と課題	肝臓(0451-4203)	61巻4号	Page153-183	2020
河野 豊(北海道医療大学病院 消化器内科), 吉田 純一, 浅香 正博, 原田 文也, 舞田 建夫, 川上 智史, <u>江口 有一郎</u>	歯科口腔外科における肝炎ウイルス感染及び肝細胞傷害例の実態調査と課題	肝臓(0451-4203)	61巻10号	Page527-530	2020
大枝 敏(佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター), 高橋 宏和, 倉重 彩, 大島 綾花, 大島 まゆみ, 松本 康恵, 川崎 誠司, 末岡 榮三朗, 安西 慶三, <u>江口 有一郎</u>	非アルコール性脂肪性肝疾患の組織学的因子がFibroScanのcontrolled attenuation parameterに与える影響	臨床病理(0047-1860)	68巻12号	Page961-965	2020
磯田 広史(佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター), 高橋 宏和, <u>江口 有一郎</u>	【肝癌ハイリスク患者の拾い上げと効率的な診療体制】肝癌撲滅を目指した、地域に潜在する肝炎ウイルス陽性者を効果的に受検・受診・受療につなげるための取り組みについて	消化器・肝臓内科(2432-3446)	8巻4号	Page355-361	2020
角田 圭雄(愛知医科大学 内科学講座肝胆膵内	【NAFLD/NASHの進歩と新たな展開】最	消化器・肝臓内科(2432-3446)	7巻5号	Page438-445	2020

科学), 徳重 克年, 川中 美和, 藤井 英樹, 米田 正人, 今城 健人, 高橋 宏和, 江口 有一郎, 小野 正文, 野崎 雄一, 兵庫 秀幸, 小関 正博, 吉田 雄一, 川口 巧, 鎌田 佳宏, 中島 淳	新の治療薬・治験薬の状況				
田中 賢一(佐賀大学 医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科), 高橋 宏和, 江口 有一郎	【NAFLD/NASH、肝がんの診断と治療-基礎研究から臨床応用へ-】NAFLD/NASHの治療戦略 肥満治療と食事・運動療法	Progress in Medicine(0287-3648)	40巻5号	Page491-495	2020
井上 香(佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター), 江口 有一郎	【両立支援に欠かさない 産業保健スタッフに必要な疾患の知識と最新の治療法】(Part 2)出会う頻度の高い疾患の知識 ウイルス性肝炎	産業保健と看護(2188-7764)	2020春季増刊	Page148-159	2020
江口 有一郎(佐賀大学 医学部附属病院 肝疾患センター)	治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 非アルコール性脂肪肝炎(NASH)	日本医事新報(0385-9215)	4999号	Page50	2020
竹田 昭子(長崎県健康事業団), 北村 聖, 江口 有一郎	選択肢提示数や臓器提供数に影響する因子としての都道府県臓器移植コーディネーターと医療機関の関係促進に関する研究	日本臨床腎移植学会雑誌(2187-9907)	7巻2号	Page174-184	2019
小野 正文(東京女子医科大学東医療センター 内科(消化器内科)), 高橋 宏和, 江口 有一郎	【NAFLD/NASH診療の現況と展望】NAFLD/NASHの疫学	Pharma Medica(0289-5803)	37巻9号	Page9-13	2019
磯田 広史(佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター), 古川 修一, 江口 有一郎	【C型肝炎の治療-最終章を迎えて】新たな患者を抗ウイルス治療に導くために	消化器・肝臓内科(2432-3446)	5巻6号	Page656-662	2019
江口 有一郎(佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター), 岩根 紳治, 大枝 敏, 岡田 倫明, 吉原 大介	情報を用いて如何に行動変容につなげるか 佐賀県の官民学一体の肝炎・肝がん対策 地域全体の行動変容をめざしたデータ利活用	日本糖尿病情報学会誌(2432-4043)	17巻	Page93-98	2019
磯田 広史(佐賀大学医学部附属病院 肝疾患センター), 古川 修一, 江口 有一郎	【肝臓病学の未来-ウイルス性肝炎から脂肪肝と肝がんの時代へ】C型肝炎 HCV患者をいかに拾い上げるか 佐賀県における残された課題と	内科(0022-1961)	123巻5号	Page1087-1090	2019

	取り組み				
角田 圭雄(愛知医科大学 内科学講座肝胆膵内科学), 川口 巧, 江口 有一郎, 中島 淳, 米田 政志	【肝臓病学の未来-ウイルス性肝炎から脂肪肝と肝がんの時代へ】 Overview:肝疾患の動向 脂肪肝は怖い病気なのか	内科(0022-1961)	123巻5号	Page1059-1063	2019
高橋 宏和(佐賀大学 医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科), 江口 有一郎	【NAFLD/NASH-診断・治療の最新動向-】 NAFLD/NASHの治療学 食事・運動療法	日本臨床(0047-1852)	77巻5号	Page824-828	2019
磯田 広史(佐賀大学医学部附属病院 肝臓糖尿病内分泌内科), 岩根 紳治, 江口 有一郎	【診断と治療のABC[142]ウイルス性肝炎】 ウイルス性肝炎の受検・受療に向けた取り組み 肝炎医療コーディネーター	最新医学(0370-8241)	別冊ウイルス性肝炎	Page244-245	2019
田中 靖人(名古屋市立大学 医学研究科病態医科学), 乾 あやの, 森屋 恭爾, 江口 有一郎, 四柳 宏	日本肝臓学会評議員を対象としたB型肝炎ワクチンに関するアンケート調査	肝臓(0451-4203)	59巻6号	Page259-263	2018
飯尾 悦子(名古屋市立大学 大学院医学研究科消化器代謝内科), 小川 慎太郎, 島田 紀朋, 江口 有一郎, 平嶋 昇, 松浦 健太郎, 田中 靖人	Daclatasvir/Asunaprevir 治療不成功後に出現したNS5A P32deletion 変異の経時的変化	肝臓(0451-4203)	59巻4号	Page230-233	2018
窪津 祥仁(佐賀大学 医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科), 高橋 宏和, 江口 有一郎, 安西 慶三	【糖尿病と消化器疾患】 慢性肝疾患 C型肝炎・NASHと糖尿病	消化器・肝臓内科(2432-3446)	4巻5号	Page411-416	2018
高橋 宏和(佐賀大学 医学部肝疾患センター), 江口 有一郎	【サルコペニア-今注目される肝胆膵疾患の新たな病態-】 サルコペニアと運動療法	肝胆膵(0389-4991)	77巻4号	Page805-809	2018
西田 睦(北海道大学病院 検査・輸血部), 中島 収, 橋本 悦子, 坂元 亨宇, 江口 有一郎, 熊田 卓, 工藤 悠輔, 飯島 尋子, 市原 真	非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)/非アルコール性脂肪肝炎(NASH)の臨床検査診断	超音波検査技術(1881-4506)	43巻3号	Page305-309	2018
高橋 宏和(佐賀大学 医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科), 大座 紀子, 江口 有一郎	【NASH/NAFLDの新知見】 治療 NAFLDに対する食事・運動療法	肝胆膵(0389-4991)	76巻4号	Page727-732	2018
江口 有一郎(佐賀大学 医学部附属病院 肝疾患センター), 岩根 紳治, 藤岳 夕歌, 吉原 大介	【C型肝炎の新たな壁を越える次世代DAA治療】 Post SVRの課題と克服への展望 ウイルス肝炎患者の掘り起こし 受診・	肝胆膵(0389-4991)	76巻2号	Page293-299	2018

	受療に向けた課題				
高橋 宏和(佐賀大学 医学部肝臓・糖尿病・内分泌内科), <u>江口 有一郎</u>	【NAFLD/NASH診療のイノベーション-ガイドラインからパイプラインへ】 NAFLD/NASHの疫学と概念	内科(0022-1961)	121巻6号	Page1265-1269	2018
江口 有一郎(佐賀大学 医学部附属病院 肝疾患センター), 岩根 紳治, 大枝 敏, 岡田 倫明, 吉原 大介	【肝癌撲滅に向けたわが国の取り組み-厚生労働省、地方自治体、拠点病院の連携】佐賀県の取り組み たたけ肝炎ウイルス	消化器・肝臓内科(2432-3446)	3巻3号	Page310-316	2018
江口 有一郎(佐賀大学 医学部附属病院 肝疾患センター)	【糖尿病における合併症としての消化器疾患】糖尿病における合併症としての非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)	月刊糖尿病	10巻1号	Page11-22	2018
江口 有一郎(佐賀大学 医学部附属病院 肝疾患センター)	【肝炎ウイルス克服時代の肝臓病学】本邦におけるウイルス性肝疾患の現状と展望	日本内科学会雑誌(0021-5384)	107巻1号	Page10-18	2018
Hanai T, Kawatani H, <u>Yoshiji H</u> et al.	Cell-free and concentrated ascites reinfusion therapy versus large-volume paracentesis for the treatment of cirrhotic patients with refractory ascites: A multicenter prospective observational study	Hepatol Res	53	238-246	2023
Kawatani H, <u>Yoshiji H</u> Koike K et al.	The Usefulness of the Athens Insomnia Scale for Evaluating Sleep Disturbance in Patients with Chronic Liver Disease Comparing with Pittsburgh Sleep Quality Index and Epworth Sleepiness Scale	Medicina (Kaunas)	58	741	2022
Hiraoka A, <u>Yoshiji H</u> et al.	Clinical features of patients with chronic liver disease in Japan related to alcohol use: Nationwide examination using alcohol use disorders identification test	Hepatol Res	53	43-50	2023
Kawatani H, Koike K, <u>Yoshiji H</u> et al.	Long-Term Efficacy and Safety of Rifaximin in Japanese Patients	J Clin Med.	11(6)	1571	2022

	with Hepatic Encephalopathy: A Multicenter Retrospective Study				
<u>Yoshiji H</u> , Koike K et al.	Evidence-based clinical practice guidelines for liver cirrhosis 2020	Hepatol Res	51(7)	725-749	2021
<u>Yoshiji H</u> , Koike K et al.	Evidence-based clinical practice guidelines for liver cirrhosis 2020	J Gastroenterol	56(7)	593-619	2021
Kondo Y, Kawaratani H, Koike K, <u>Yoshiji H</u> et al.	Proposal of Stroop test cut-off values as screening for neuropsychological impairments in cirrhosis: A Japanese multicenter study.	Hepatol Res	51(6)	674-681	2021
<u>Yoshiji H</u> , et al.	Treatment algorithm for thrombocytopenia in patients with chronic liver disease undergoing planned invasive procedures.	Hepatol Res	51(12)	1181-1195	2021
<u>Yoshiji H</u> , Koike K et al.	The effects of diuretic use and the presence of ascites on muscle cramps in patients with cirrhosis: a nationwide study.	J Gastroenterol	55(9)	868-876	2020
Nakayama T, Ito K, Inagaki F, Kobayashi M, Tanabe A, Mihara F, Takemura N, <u>Kokudo N</u> .	Repeat hepatectomy for massive liver metastases from pheochromocytoma: a case report.	Clin J Gastroenterol.		Epub ahead of print. doi:10.1007/s12328-023-01784-z. PMID:36943552.	2023
Yin KL, Li M, Song PP, Duan YX, Ye WT, Tang W, <u>Kokudo N</u> , Gao Q, Liao R.	Unraveling the Emerging Niche Role of Hepatic Stellate Cell-derived Exosomes in Liver Diseases.	J Clin Transl Hepatol.	11(2)	441-451	2023
Ichida A, Kokudo T, Shimada S, Hatano E, Kubo S, Kato Y, Ishikawa Y, Mori A, Baba H, Matsuyama Y, Endo I, Yamaue H, Yamamoto M, <u>Kokudo N</u> , Hasegawa K.	Liver resection for Hepatocellular Carcinoma with Tumor Thrombus in the Inferior Vena Cava or Right Atrium: A Large-scale Multicenter Survey Conducted in Japan.	Ann Surg.		Epub ahead of print. doi:10.1097/SLA.0000000000005789. PMID:6591790.	2023
Ito D, Kawaguchi Y, Inagaki Y, Ito K, Mihara	Assessment of liver function-related mRNA	Surg Today.	53(4)	513-521.	2023

Y, Kaneko J, Tanaka M, Fukayama M, <u>Kokudo N</u> , Hasegawa K.	expression and fluorescence imaging in outflow-obstructed regions in rats.				
Makino Y, Hikita H, Kato S, Sugiyama M, Shigekawa M, Sakamoto T, Sasaki Y, Murai K, Sakane S, Kodama T, Sakamori R, Kobayashi S, Eguchi H, Takemura N, <u>Kokudo N</u> , Yokoi H, Mukoyama M, Tatsumi T, Takehara T.	STAT3 is Activated by CTGF-mediated Tumor-stroma Cross Talk to Promote HCC Progression.	Cell Mol Gastroenterol Hepatol.	15(1)	99-119.	2023
Aramaki O, Takayama T, Matsuyama Y, Kubo S, <u>Kokudo N</u> , Kurosaki M, Murakami T, Shiina S, Kudo M, Sakamoto M, Nakashima O, Fukumoto T, Iijima H, Eguchi S, Soejima Y, Makuuchi M.	Reevaluation of Makuuchi's criteria for resecting hepatocellular carcinoma: A Japanese nationwide survey.	Hepatol Res.	53(2)	127-134.	2023
Kokudo T, <u>Kokudo N</u> , Hasegawa K.	Oncological benefit of anatomic resection for patients with hepatocellular carcinoma.	Surg Today.		Epub ahead of print. doi:10.1007/s00595-022-02616-2. PMID:36478034.	2022
Ishizawa T, McCulloch P, Stassen L, van den Bos J, Regimbeau JM, Dembinski J, Schneider-Koriath S, Boni L, Aoki T, Nishino H, Hasegawa K, Sekine Y, Chen- Yoshikawa T, Yeung T, Berber E, Kahramangil B, Bouvet M, Diana M, <u>Kokudo N</u> , Dip F, White K, Rosenthal RJ.	Assessing the development status of intraoperative fluorescence imaging for anatomy visualisation, using the IDEAL framework.	BMJ Surg Interv Health Technol.	4(1):	e000156.	2022
Sugita A, Inagaki FF, Takemura N, Nakamura M, Ito K, Mihara F, Yamamoto K, Morioka S, <u>Kokudo N</u> .	Liver resection in a patient with persistent positive PCR test for coronavirus disease 2019 (COVID-19): a case report.	Surg Case Rep.	8(1)	200.	2022
Norimatsu Y, Ito K, Takemura N, Inagaki F, Mihara F, <u>Kokudo N</u> .	Estimation of Physiologic Ability and Surgical Stress (E-PASS) Predicts Postoperative Major Complications After Hepato-Pancreato	World J Surg.	46(11)	2788-2796.	2022

	Biliary Surgery in the Elderly.				
Ecker BL, Lee J, Saadat LV, Aparicio T, Buisman FE, Balachandran VP, Drebin JA, Hasegawa K, Jarnagin WR, Kemeny NE, Kingham TP, Groot Koerkamp B, <u>Kokudo N</u> , Matsuyama Y, Portier G, Saltz LB, Soares KC, Wei AC, Gonen M, D'Angelica MI.	Recurrence-free survival versus overall survival as a primary endpoint for studies of resected colorectal liver metastasis: a retrospective study and meta-analysis.	Lancet Oncol.	23(10)	1332-1342.	2022
Kudo M, Ueshima K, Ikeda M, Torimura T, Tanabe N, Aikata H, Izumi N, Yamasaki T, Nojiri S, Hino K, Tsumura H, Kuzuya T, Isoda N, Moriguchi M, Aino H, Ido A, Kawabe N, Nakao K, Wada Y, Ogasawara S, Yoshimura K, Okusaka T, Furuse J, <u>Kokudo N</u> , Okita K, Johnson PJ, Arai Y.	Final Results of TACTICS: A Randomized, Prospective Trial Comparing Transarterial Chemoembolization Plus Sorafenib to Transarterial Chemoembolization Alone in Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma.	Liver Cancer.	11(4)	354-367.	2022
Görgec B, Cacciaguerra AB, Pawlik TM, Aldrighetti LA, Alseidi AA, Cillo U, <u>Kokudo N</u> , Geller DA, Wakabayashi G, Asbun HJ, Besselink MG, Cherqui D, Cheung TT, Clavien PA, Conrad C, D'Hondt M, Dagher I, Dervenis C, Devar J, Dixon E, Edwin B, Efanov M, Ettore GM, Ferrero A, Fondevilla C, Fuks D, Giuliani F, Han HS, Honda G, Imventarza O, Kooby DA, Lodge P, Lopez-Ben S, Machado MA, Marques HP, O'Rourke N, Pekolj J, Pinna AD, Portolani N, Primrose J, Rotellar F, Ruzzenente A, Schadde E, Siriwardena AK, Smadi S, Soubrane O, Tanabe KK, The CSC, Torzilli G, Van Gulik TM, Vivarelli M, Wigmore SJ, Abu Hilal	An International Expert Delphi Consensus on Defining Textbook Outcome in Liver Surgery (TOLS).	Ann Surg.	277(5)	821–8.	2022

M.					
Kokudo T, Ishizawa T, Nagata R, Ichida A, Mihara Y, Kawaguchi Y, Akamatsu N, Kaneko J, Arita J, <u>Kokudo N</u> , Hasegawa K.	Optimal tumor numbers in surgical candidates for multiple hepatocellular carcinomas.	Surgery.	172(4)	1174-1178.	2022
Akamatsu N, Hasegawa K, Nojiri K, Muto K, Shimizu J, Soeda E, Kawagishi N, Marubashi S, Mizuta K, Kaido T, Taketomi A, Ohdan H, Uemoto S, <u>Kokudo N</u> .	Long- term quality of life of living liver donors: A Japanese nationwide survey.	Liver Transpl.	28(11)	1800-1803.	2022
Otsubo T, Kobayashi S, Sano K, Misawa T, Katagiri S, Nakayama H, Suzuki S, Watanabe M, Ariizumi S, Unno M, Tanabe M, Nagano H, <u>Kokudo N</u> , Hirano S, Nakamura M, Shirabe K, Suzuki Y, Yoshida M, Takada Y, Nakagohri T, Horiguchi A, Ohdan H, Eguchi S, Ohtsuka M, Sho M, Rikiyama T, Hatano E, Taketomi A, Fujii T, Yamaue H, Miyazaki M, Yamamoto M, Takada T, Endo I.	A nationwide certification system to increase the safety of highly advanced hepatobiliary-pancreatic surgery.	J Hepatobiliary Pancreat Sci.	30(1)	60-71.	2023
Komoto I, <u>Kokudo N</u> , Aoki T, Morizane C, Ito T, Hashimoto T, Kimura W, Inoue N, Hasegawa K, Kondo S, Ueno H, Igarashi H, Oono T, Makuuchi M, Takamoto T, Hirai I, Takeshita A, Imamura M.	Phase I/II study of streptozocin monotherapy in Japanese patients with unresectable or metastatic gastroenteropancreatic neuroendocrine tumors.	Jpn J Clin Oncol.	52(7)	716-724.	2022
Isayama H, Tazuma S, <u>Kokudo N</u> , Tanaka A, Tsuyuguchi T, Nakazawa T, Notohara K, Mizuno S, Akamatsu N, Serikawa M, Naitoh I, Hirooka Y, Wakai T, Itoi T, Ebata T, Okaniwa S, Kamisawa T, Kawashima H, Kanno A, Kubota K, Tabata M, Unno M, Takikawa H; PSC guideline committee Members: Ministry of Health, Labour and Welfare (Japan) Research	Correction to: Clinical guidelines for primary sclerosing cholangitis 2017.	J Gastroenterol.	57(6)	453-454.	2022

Project, The Intractable Hepatobiliary Disease Study Group.					
Takemura N, Saiura A, Ito H, Ito K, Inagaki F, Mihara F, Yagi S, Enomoto N, Nohara K, Inoue Y, Takahashi Y, Yamada K, <u>Kokudo N</u> .	Proposal of new treatment algorithm for gastric cancer liver metastases: Up-front surgery or conversion surgery?	Glob Health Med.	4(1)	57-60.	2022
Watanabe G, Mise Y, Oba M, Saiura A, Inoue Y, Takahashi Y, Kishi Y, Suyama K, Takayama T, Noie T, Nishioka Y, Akamatsu N, Arita J, <u>Kokudo N</u> , Hasegawa K.	A multicenter phase II trial evaluating the efficacy of bevacizumab plus mFOLFOX6 for R0 surgical resection in advanced colorectal liver metastases harboring mutant-type KRAS: NEXTO-mt trial.	HPB (Oxford).	24(8)	1245-1251.	2022